

早稲田大学大学院

GRADUATE SCHOOL OF CREATIVE SCIENCE AND ENGINEERING, WASEDA UNIVERSITY

創造理工学研究科要項

2022



創造理工学研究科「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」

創造理工学研究科は、多様な人間の価値観に基づく豊かさを創造するために、人間活動を世界的な視点で支援することの出来る人材の養成を目的としている。社会が直面する様々な課題を断片的ではなく、総合的な視野を持って解決策を提案できる人材の育成を目的とする。そのために、空間・装置・コミュニティなどの創造及び循環システム技術あるいは社会技術システムに関する実践的教育と先導的研究を展開していくことが、当研究科が掲げる教育研究上の理念である。

創造理工学研究科の方針

卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

早稲田大学の総合性・独創性を活かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。

早稲田大学の教旨に、「学問の活用を本旨と為す」とある。これは、早稲田大学における学問とは、基礎のための基礎学問ではなく、基礎学問を応用まで発展させ社会に貢献することの重要性を明示したものである。

「創造」という言葉は、単に物事を細かく分割、分析して、その中の法則を考えるだけでなく、社会が直面する数々の話題に対して総合的な解決策を提案するという意味を含んでいる。

創造理工学研究科は、高度にして専門的な学術の理論および応用を研究、教授し、その深奥を究めて、多様な人間の価値観に基づく豊かさを実現し、文化の創造、発展と人類の福祉に貢献するとともに人間活動を世界的な視点で支援できる人材を養成する。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

空間・装置・コミュニティなどの創造および循環システムの技術あるいは社会技術システムに関する実践的教育と先導的研究の展開が教育研究上の理念である。

具体的には、研究部門、専門分野あるいは専攻を超えて幅広い知識・能力を身につけるために、修士課程に先取り履修制度、後取り履修制度が準備され、ユニット制度、専修コースとして、都市計画、マクロ材料コース（修士課程）、先端建築実務実習コース（修士課程・博士課程）、体系的ロボット工学専修コース（博士課程）・経営技術リーダーコース（修士課程・博士課程）が設置されている。

これらの制度、コースによって、早期に自己の研究の最先端状況を理解し、他分野の基礎的な知識能力を獲得するとともに、専門分野を越えて自己の研究と有機的に関係する教育を体系的に受けることが保証されている。

入学者受入方針（アドミSSION・ポリシー）

早稲田大学では『学の独立』の教育理念のもとで、一定の高い基礎学力を持ち、かつ知的好奇心が旺盛で、本学の理念である進取の精神に富む、勉学意欲の高い学生を、我が国をはじめ世界から多数迎え入れる。

修士課程においては、建築学、総合機械工学、経営システム工学、経営デザイン、建設工学、地球・環境資源理工学などに関する基礎能力、専門的に深く、同時に広い視野から学ぶための基礎知識が求められる。博士後期課程においては、上記の修士号取得に必要な能力を備え、現代社会の諸問題を科学技術の観点から解決し、真に豊かな社会創造に貢献できるための高い専門性、経験、理論、意欲を有することが求められる。

創造理工学研究科の理念・目的・教育目標と それに伴う人材養成等の目的

(1) 理念・目的・教育目標

創造理工学研究科は、「高度にして専門的な学術の理論および応用を研究、教授し、その深奥を究めて、文化の創造、発展と人類の福祉に寄与する」ことを目的として設置された。早稲田大学の教旨に「学問の活用を本旨と為す」とある。これは、基礎のための基礎学問ではなく、基礎学問を応用まで発展させ社会に貢献することの大切さを示しており、本研究科設置の目的は本学の教旨、すなわち建学の精神に沿ったものとなっている。

急速な進展を遂げる現代社会の中で、「教育・研究・社会貢献」という大学に課せられた使命を全うしていくためには、私学として果たすべき役割を問い直しながら、世界最先端の研究に裏打ちされた大学院教育をより一層強化していく必要がある。そのため、「学部・大学院の統合教育」を基軸に据え、高度に展開する多彩な社会的要求に応えるために柔軟な組織・体制へ転換するとともに、学内理工系機関との連携を積極的にとりながら、広く社会に対して開かれた理工系大学院を目指す。

本研究科に設置された博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うことを教育の目標としている。また、修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専門分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目標とする。

(2) 人材養成等の目的

上述のような理念・目的および教育目標の下、本研究科は高度な専門的知識を有し、さらに「創造性、国際性に富んだ人材を育成する」ことを目指し、以下のような取り組みを行う。

大学院教育は、各専攻分野における専門性を深めることを第一の目標とするが、近年、学問・科学技術は特化されますますます細分化されており、独創的な研究と展開をリードできる人材を育成していくためには、異分野の知識の習得が極めて重要となっている。そこで、特化されたものを意識的に再度融合・連携させることが必要となってきた。このような現状を踏まえ、本研究科では、「相乗的融合」をキーワードとする研究・教育を進める。国際性豊かな人材を育てるためには、適切な語学教育とともに、英語論文の作成や国際会議への参加等を通じた実践的な教育も重要である。これを支援・促進する施策として、「国際会議論文発表補助費」を設ける。

理工系は、常に変化の激しい時代の要請に柔軟に対応しながら、「科学技術創造立国・日本」を支えリードする技術者・研究者の育成を推進していかなければならない。本研究科の掲げた理念・目的・教育目標および人材養成等の目的は、このような理工系大学に課せられた使命を適切に果たして行くことを目指して設定されたものである。

2022年度 創造理工学研究科要項

早稲田大学大学院
創造理工学研究科

この要項は、学業を進めていくうえで必要不可欠な基本的事項を収録したものであり、修了時まで使用するので紛失しないように十分に注意すること。

履修や学生生活に必要な情報はほぼ網羅されているので、日常的に確認し、わからないことがある場合にはこの要項をよく読むこと。

なお、本学では Web サイトを開設し、インターネットを通じた情報発信を行っている。

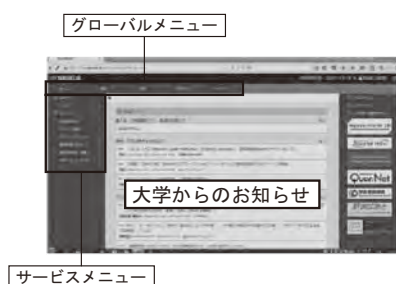
この要項の内容が変更になった場合には、インターネットを通じて周知する。

アクセス方法は次ページの通りなので、必ず常時確認すること。

MyWaseda / Waseda メール

早稲田大学の学生・教職員・校友が共通して利用する基盤システムで、この MyWaseda にログインすることにより、利用者の資格、属性に応じたサービスや情報が得られる（授業の科目登録、試験、レポート、履修などに関することや、講演会やセミナー、シンポジウム、公開行事の案内など）。Waseda メールは Web ブラウザがあれば、どこでも利用できる Web メールサービスである。在学中に利用していたメールアドレスは卒業後も使用できる。

<https://my.waseda.jp/>



MyWaseda トップページ

授業支援システム「Waseda Moodle」

「Waseda Moodle」は講義資料のダウンロード機能や小テスト機能などを備えた授業サポートツールである。MyWaseda にログインし、左側サービスメニュー「授業支援」を選択して利用する。

理工学術院 Web サイト

理工学術院から発信される各種情報を掲載している。「在学生の方へ」のページでは科目登録情報や奨学金情報など重要な情報が随時更新される。また、入試に関する情報も本 Web サイトに掲載される。

<https://www.waseda.jp/fsci/>

創造理工学部・研究科 Web サイト

創造理工学部・研究科から発信される各種情報を掲載している。特に各学科・専攻と領域における研究・教育の理念と内容を詳しく紹介している。また、「創造人」など学部・研究科の教員や学生のページを通して、創造理工の特徴を紹介している。Twitter も登録されている。

<https://www.cse.sci.waseda.ac.jp/>

※要項の内容は変更になることがあるので、これらの Web サイトを常に確認すること。特に、事務所の開室時間は変更となる可能性があるため、最新情報は各事務所の Web サイトを確認すること。

CONTENTS

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

I	創造理工学研究科の特徴	1
---	-------------	---

II	創造理工学研究科の沿革と概要	3
----	----------------	---

III	創造理工学研究科要項	7
-----	------------	---

1	履修方法	7
2	学位	8
3	先取り履修制度	11
4	後取り履修制度	11
5	ユニット制度	11
6	「専修コース」制度	12
7	コア科目・推奨科目	18
8	実体情報学コース	24
9	数物系科学コース要項	24
10	特定課題演習・実験	27
11	インターンシップ	27
12	ボランティア	28
13	学費の納入と抹籍	29
14	共通科目の学科目配当表	31
15	各専攻の学科目配当表	35
	建築学専攻	35
	総合機械工学専攻	45
	経営システム工学専攻	52
	経営デザイン専攻	58
	建設工学専攻	66
	地球・環境資源理工学専攻	72
16	教員免許状取得方法	79
17	授業時間帯	80
18	レポート・論文作成にあたっての注意事項	80
19	成績の表示	80
20	科目等履修生	81

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

IV 学生生活 83

1	Support Anywhere	83
2	理工学術院および創造理工学研究科 Web サイト	83
3	学籍番号	83
4	クラス担任制度	83
5	学生相談	84
6	就職	86
7	学生証	87
8	各種証明書類の交付	88
9	各種異動・変更手続	88
10	奨学金制度	90
11	掲示	90
12	学生の課外活動	92
13	安全管理	92
14	海外留学等	93
15	禁煙キャンパス	95
16	自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止	95
17	図書館（理工学生読書室・理工学図書館）	96
18	コンピュータ・ルーム	97
19	実験施設紹介	98
20	保健センター西早稲田分室	100
21	授業欠席の取り扱いについて	101
22	授業期間中の全学休講の取り扱いについて	103
23	緊急時の通知方法	104

V 付 録 105

1	早稲田大学大学院学則（抜粋）	105
2	早稲田大学学位規則（抜粋）	112
3	大学院外国人特別研修生に関する規程（抜粋）	115
4	大学院科目等履修生に関する規程（抜粋）	116
5	大学院研究生に関する規程	117
6	早稲田大学校歌	118
7	キャンパスマップ	120
8	時間割作成用紙	122

I

創造理工学研究科の特徴

I	特 徴
II	沿革と概要
III	研究科要項
IV	学生生活
V	付 録

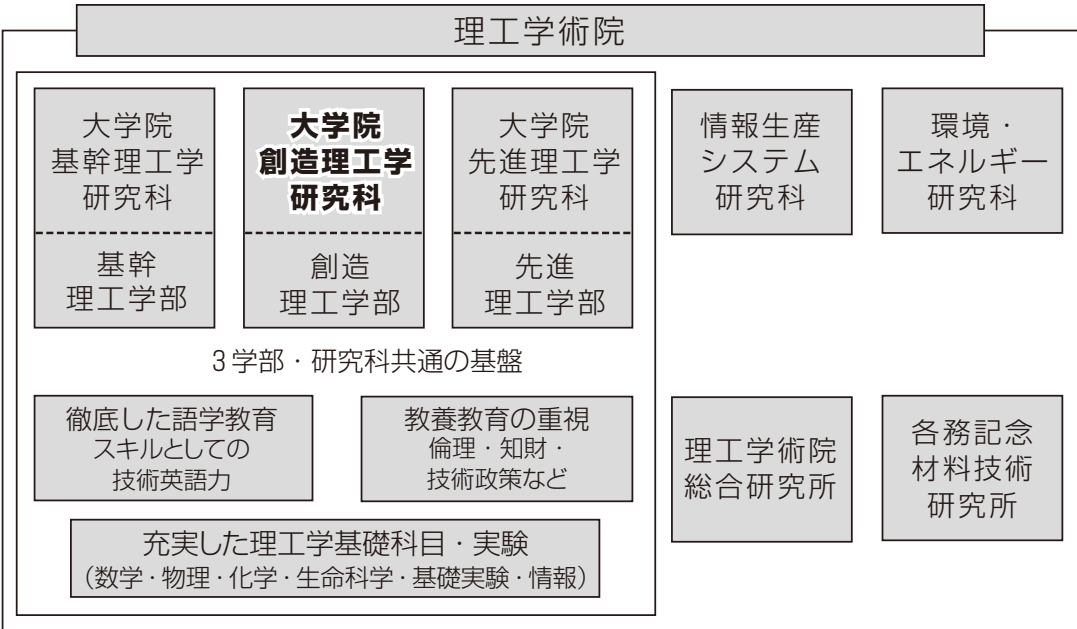
「創造」という言葉は単に物事を細かく分割してその中の法則を考えるだけではなく、社会が直面する様々な課題に対して総合的な解決案を提案するという意味を含んでいる。大きなシステムを分割して個々の要素だけの解決策を考えるだけでは不十分である。これからの科学技術には創造的な側面が強く求められている。

早稲田大学大学院理工学研究科は、ほぼ1世紀にわたって科学技術に関連する各種分野に有能な多くの人材を送り出し、大いなる社会的貢献を果たしてきた。その原動力となったのは、基礎学問に裏付けられた各種技術を融合・総合して実社会に適用し、そこでの問題点を抽出・解決し、新たな技術革新をもたらしてきた創造性に富んだ実践力にほかならない。創造理工学研究科は、その機能を結集した先鋭的な組織であり、人間・社会への理工学的貢献を具現化することを主目的とした建築学専攻、総合機械工学専攻、経営システム工学専攻、経営デザイン専攻、建設工学専攻、地球・環境資源理工学専攻の6専攻よりなる。

現代社会においては、シーズとなる各種先端技術を如何なる理念のもとに実社会に適用するかが重要である。また、倫理感を持った実践的かつ先導的な能力を身に付けた技術者とともに、海外との研究交流も活発に行う、国際人となる必要がある。

学生諸君は、是非これらの理念を良く理解をして、自身の能力の研鑽に努めてほしい。大学院生活ではとかく自分の専門領域だけに注目しがちであるが、広く周りを見渡せる大局観を持つことが大切である。また、研究室生活などで生涯の友人を得ることも多い。早稲田大学で学ぶことは単に授業の履修のみを意味しているわけではない。学生諸君のステップアップを期待している。

〈理工学術院 組織構成〉



II

創造理工学研究科の沿革と概要

沿革

1920 年 2 月 (大正 9 年)	大学令による大学となる
大学院新設	
1951 年 4 月 (昭和 26 年)	工学研究科（機械工学，電気工学，建設工学，鉱山及金属工学，応用化学の 5 専攻）の修士課程を設置
	堤 秀夫工学研究科委員長就任
11 月	堤 秀夫工学研究科委員長再任
1953 年 3 月 (昭和 28 年)	工学研究科（機械工学，電気工学，建設工学，鉱山及金属工学，応用化学の 5 専攻）の博士課程を設置
1954 年 3 月 (昭和 29 年)	応用物理学専攻の修士課程を設置
9 月	伊原貞敏工学研究科委員長就任
1956 年 9 月 (昭和 31 年)	青木楠男 //
1957 年 10 月 (昭和 32 年)	早稲田大学創立 75 周年
1958 年 9 月 (昭和 33 年)	山本研一工学研究科委員長就任
1960 年 9 月 (昭和 35 年)	宮部 宏 //
1961 年 3 月 (昭和 36 年)	工学研究科を理工学研究科と改称
9 月	数学専攻の修士課程，博士課程および応用物理学専攻の博士課程を設置
1962 年 9 月 (昭和 37 年)	難波正人理工学研究科委員長就任
10 月	早稲田大学創立 80 周年
1964 年 9 月 (昭和 39 年)	難波正人理工学研究科委員長再任
1965 年 4 月 (昭和 40 年)	機械工学専攻に機械工学専門分野・工業経営学専門分野を，電気工学専攻に電気工学専門分野・通信工学専門分野を，建設工学専攻に建築学専門分野・土木工学専門分野を，鉱山及金属工学専攻に資源工学専門分野・金属工学専門分野を設置
1966 年 9 月 (昭和 41 年)	岩片秀雄理工学研究科委員長就任
1968 年 9 月 (昭和 43 年)	葉山房夫 //
1970 年 9 月 (昭和 45 年)	// 再任
1972 年 4 月 (昭和 47 年)	鉱山及金属工学専攻を資源及金属工学専攻と改称
9 月	並木美喜雄理工学研究科委員長就任
1973 年 4 月 (昭和 48 年)	応用物理学専攻を物理学及応用物理学専攻と改称
1974 年 9 月 (昭和 49 年)	並木美喜雄理工学研究科委員長再任
1976 年 4 月 (昭和 51 年)	学則改正
	電気工学専攻のうちの通信工学専門分野を電子通信学専門分野と改称
9 月	斎藤 孟理工学研究科委員長就任
1978 年 9 月 (昭和 53 年)	// 再任
1980 年 9 月 (昭和 55 年)	加藤一郎理工学研究科委員長就任
1981 年 4 月 (昭和 56 年)	研究生制度新設
	委託学生を委託研修生に特殊学生を一般研修生に改称
1982 年 9 月 (昭和 57 年)	加藤一郎理工学研究科委員長再任
10 月	早稲田大学創立 100 周年
1983 年 4 月 (昭和 58 年)	応用化学専攻に応用化学専門分野・化学専門分野を設置
7 月	特別選考制度による学生募集開始（昭和 59 年度生より）

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

I 特 徴	1984 年 9 月 (昭和 59 年)	堀井健一郎理工学研究科委員長就任
II 沿革と概要	1986 年 9 月 (昭和 61 年)	// 再任
III 研究科要項	1988 年 4 月 (昭和 63 年)	資源及金属工学専攻を資源及材料工学専攻と改称 ならびに同専攻のうちの金属工学専門分野を材料工学専門分野と改称
IV 学生生活	9 月	大頭 仁理工学研究科委員長就任
V 付 録	1990 年 4 月 (平成 2 年)	応用化学専攻のうちの化学専門分野を応用化学専攻から分離，化学専攻として設置
	9 月	大頭 仁理工学研究科委員長再任
	1992 年 9 月 (平成 4 年)	大井喜久夫理工学研究科委員長就任
	1994 年 9 月 (平成 6 年)	// 再任
	1995 年 4 月 (平成 7 年)	電気工学専攻のうちの電子通信学専門分野を電気工学から分離，電子・情報通信学専攻として設置 情報科学専攻の修士課程を設置 数学専攻を数理科学専攻と改称
	1996 年 4 月 (平成 8 年)	機械工学専攻のうちの工業経営学専門分野を経営システム工学専門分野と改称 委託研修生を委託科目等履修生に一般研修生を一般科目等履修生に改称
	9 月	尾崎 肇理工学研究科委員長就任
	1997 年 4 月 (平成 9 年)	情報科学専攻の博士後期課程を設置
	1998 年 9 月 (平成 10 年)	逢坂哲彌理工学研究科委員長就任
	2000 年 9 月 (平成 12 年)	逢坂哲彌理工学研究科委員長再任
	2001 年 9 月 (平成 13 年)	生命理工学専攻の修士課程，博士後期課程を設置 資源及材料工学専攻を環境資源及材料理工学専攻と改称 資源及材料工学専攻の資源工学専門分野を地球・環境資源理工学専門分野と改称 資源及材料工学専攻の材料工学専門分野を物質材料理工学専門分野と改称
	2001 年 6 月 (平成 13 年)	文部科学省科学研究費 中核的研究拠点 (COE) 形成基礎研究費「ナノ構造配列を基盤とする分子ナノ工学の構築とマイクロシステムへの展開」(研究リーダー大泊巖) 採択
	2002 年 9 月 (平成 14 年)	大場一郎理工学研究科委員長就任
	10 月	21 世紀 COE プログラム「プロダクティブ ICT アカデミアプログラム」(研究拠点リーダー村岡洋一) および「実践的ナノ化学教育研究拠点」(研究拠点リーダー竜田邦明) 採択
	2003 年 4 月 (平成 15 年)	機械工学専攻のうちの経営システム工学専門分野を機械工学専攻から分離，経営システム工学専攻として設置 建設工学専攻のうちの建築学専門分野を建設工学専攻から分離，建築学専攻として設置 電気工学専攻，電子・情報通信学専攻および情報科学専攻を電気・情報生命専攻，情報・ネットワーク専攻に再編 ナノ理工学専攻の修士課程，博士後期課程を設置
	7 月	21 世紀 COE プログラム「超高齢社会における人とロボット技術の共生」(研究拠点リーダー藤江正克) および「多元要素からなる自己組織系の物理」(研究拠点リーダー石渡信一) 採択

2004 年 5 月 (平成 16 年)	戦略的研究拠点育成プログラム (通称: スーパー COE) 「先端科学と健康医療の融合拠点の形成」 (代表者: 白井克彦総長) 採択
9 月	竜田邦明理工学研究科長就任 理工学術院設置
2005 年 4 月 (平成 17 年)	環境・エネルギー専攻の修士課程を設置
12 月	魅力ある大学院教育イニシアティブ「異分野融合型 PBL - 自立創造的研究者養成」 (研究拠点リーダー 梅津光生) 採択
2006 年 9 月 (平成 18 年)	橋本周司理工学術院長就任 山川宏創造理工学研究科長就任 理工学総合研究所と各務記念材料研究所を統合し、理工学総合研究センターを設置
2007 年 4 月 (平成 19 年)	理工学研究科を基幹理工学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科に再編 創造理工学研究科には建築学専攻、総合機械工学専攻、経営システム工学専攻、建設工学専攻、地球・環境資源理工学専攻の 5 専攻を設置
6 月	グローバル COE プログラム「『実践的化学知』教育研究拠点」 (拠点リーダー 黒田一幸) および「アンビエント SoC 教育研究の国際拠点」 (拠点リーダー 後藤敏) 採択
9 月	大学院教育改革支援プログラム「超専攻型融合テーマスタディクラスター教育」 (拠点リーダー梅津光生) 採択
10 月	早稲田大学創立 125 周年
2008 年 4 月 (平成 20 年)	63 号館完成 50 号館 (通称 TWIns) 完成
6 月	グローバル COE プログラム「グローバルロボットアカデミア」 (拠点リーダー 藤江正克) 採択
9 月	橋本周司理工学術院長再任 山川宏創造理工学研究科長再任
2009 年 4 月 (平成 21 年)	大久保キャンパスを西早稲田キャンパスと名称変更
10 月	産業技術人材育成支援事業 (サービス工学人材分野) 「サービス生産性向上に関する知識習得カリキュラムの開発と実証」 (コーディネーター 吉本一穂) 採択
2010 年 1 月 (平成 22 年)	研究者海外派遣基金助成金 (組織的な若手研究者等海外派遣プログラム) 「グローバル・リサーチ・サーキュレーションによる次世代ロボット研究者育成事業」 (代表者 藤江正克) 採択
4 月	創造理工学研究科に経営デザイン専攻設置
9 月	山川宏理工学術院長就任 後藤春彦創造理工学研究科長就任
	国際化拠点整備事業 (グローバル 30) の採択により、理工学術院の 3 学部・3 研究科に「国際コース」を設置
10 月	最先端研究開発戦略的強化費補助金 (頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム) 「開発途上国における歴史資産の保全と活用による地域再生を担う研究者育成プログラム」 (代表者 佐藤滋) 採択
11 月	白井克彦総長退任、鎌田薫総長就任

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

I 特 徴	2012 年 9 月(平成 24 年)	山川宏理工学術院長再任 後藤春彦創造理工学研究科長再任
II 沿革と概要	2013 年10月(平成 25 年)	博士課程教育リーディングプログラム「実体情報学博士プログラム」(プログラムコーディネーター 菅野重樹) 採択
III 研究科要項	2014 年 9 月(平成 26 年)	大石進一理工学術院長就任 菅野重樹創造理工学研究科長就任
IV 学生生活		スーパーグローバル大学創成支援採択
V 付 録	2016 年 9 月(平成 28 年)	竹内淳理工学術院長就任 菅野重樹創造理工学研究科長再任
	2018 年 4 月(平成 30 年)	理工学術院 3 学部・3 研究科の「国際コース」を「英語学位プログラム」に改編
	9 月	竹内淳理工学術院長再任 菅野重樹創造理工学研究科長再任
	11 月	鎌田薫総長退任, 田中愛治総長就任
	2020 年 9 月(令和 2 年)	菅野重樹理工学術院長就任 有賀隆創造理工学研究科長就任

概 要

大学院創造理工学研究科は、高度にして専門的な理工学の理論および応用を研究、教授し、その深奥を究めて、文化の創造、発展と人類の福祉に寄与することを目的としている。

課 程

大学院博士課程 5 年を前期 2 年と後期 3 年に区分し、前期 2 年の課程はこれを修士課程として取り扱う。修士課程を修了するには、大学院に 2 年以上在学し、本研究科の定めるところの所要の授業科目について 30 単位以上を修得し※、かつ必要な研究指導を受けた上修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。ただし優れた研究業績を上げた者については、研究科運営委員会が認めた場合に限り、この課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。修士課程を修了したもののには修士（建築学）、修士（工学）、修士（経営工学）、または修士（理学）の学位が授与される。

博士後期課程を修了するには、博士後期課程に 3 年以上在学し、各専攻の定める所定の単位を修得し、かつ、本研究科の定めるところの研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。ただし優れた研究業績を上げた者については、研究科運営委員会が認めた場合に限り、この課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。博士後期課程を修了した者には、博士（建築学）、博士（工学）、博士（経営工学）、または博士（理学）の学位が授与される。

※経営デザイン専攻一般履修プログラムでは、2 年以上在学し、39 単位以上を、社会人特別履修プログラムでは 1.5 年以上在学し、36 単位以上を修得すること。

専 攻

創造理工学研究科には次の専攻が置かれている。

- 1) 建築学専攻
- 2) 総合機械工学専攻
- 3) 経営システム工学専攻
- 4) 経営デザイン専攻
- 5) 建設工学専攻
- 6) 地球・環境資源理工学専攻

III

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

創造理工学研究科要項

1 履修方法	1. 履修方法
2 学位	2. 学 位
3 先取り履修制度	3. 先取り履修
4 後取り履修制度	4. 後取り履修
5 ユニット制度	5. ユニット制度
6 「専修コース」制度	6. 専修コース 制度
7 コア科目・推奨科目	7. コア科目 推奨科目
8 実体情報学コース	8. 実体情報学 コース
9 数物系科学コース要項	9. 数物系科学 コース要項
10 特定課題演習・実験	10. 演習・実験
11 インターンシップ	11. インター ンシップ
12 ボランティア	12. ボランティア
13 学費の納入と抹籍	13. 学 費
14 共通科目の学科目配当表	14. 共通科目
15 各専攻の学科目配当表	15. 専攻別案内
建築学専攻	建築
総合機械工学専攻	総合機械
経営システム工学専攻	経営システム
経営デザイン専攻	経営デザイン
建設工学専攻	建設
地球・環境資源理工学専攻	地球資源
16 教員免許状取得方法	16. 教職免許
17 授業時間帯	17. 授業時間帯
18 レポート・論文作成にあたっての注意事項	18. レポート・ 論文作成
19 成績の表示	19. 成績の表示
20 科目等履修生	20. 科目等履修生

1 履修方法

【修士課程】

- (1) 入学時に選択した研究指導の担当教員が指導教員となる。
- (2) 修士論文に着手するためには、各専攻の定める第1年度の必要単位を修得し、第1年度の終わりに修士論文の研究計画書を提出しなければならない。
- (3) 修士の学位を取得するためには、2年以上在学し、30単位以上を修得し（※）、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者について研究科運営委員会が認めた場合に限り、1年以上在学すれば足りるものとする。

※建築学専攻では、先端建築学論Aおよび同Bの計4単位の修得を必須とする。

※経営デザイン専攻一般履修プログラムでは2年以上在学し、39単位以上を、社会人特別履修プログラムでは1.5年以上在学し、36単位以上を修得すること。

- (4) 学生は、指定された科目登録手続期間内に、当該年度に履修しようとする学科目を登録（申請および確認）しなければならない。

学科目の選択にあたっては、本研究科要項とWebシラバス等を熟読して、各自の学習目標を定め、登録間違い・登録漏れのないよう注意すること。科目履修においては、事前に指導教員に確認し、許可を得た科目のみを申請すること。

Webシラバス <https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>

登録した学科目以外の受講は認めない。無登録科目を聴講・受験しても単位は与えられない。

登録した学科目の変更・取消は、決められた期間以外は認めない。登録にあたっては慎重を期し、本人が行うこと。なお、必ず登録の結果を確認すること。

なお、実際の申請手順等については、理工学術院のWebサイト上の案内に従うこと。

- (5) 科目履修条件として、科目名にⅠ、Ⅱを付してある学科目については、その順序に従って履修しなければならない。また、研究指導に紐付く演習科目は、指導教員が特別に認めた場合を除き、半期に1科目ずつ履修するものとする。
- (6) 演習科目の修得単位数が、各専攻の定めた制限単位を超える場合には、その超えた分については修了必要単位数に算入しない。
- (7) 講義科目の選択は、原則として自専攻内に置かれた科目の中からとするが、指導教員が認めた場合に限り、他専攻・他研究科・他学術院・他コース※⁵からも選択できる。ただし、グローバルエデュケーションセンター設置科目（「人間的力量科目（ビジネス創出）」を除く）は、修了必要単位数に算入できない。

創造理工学研究科内専攻・理工学術院内他研究科・他学術院・他コース聴講※⁵の扱い

（修了必要単位数に算入できる上限単位数）

専攻名	他専攻聴講	理工学術院内他研究科聴講	他学術院聴講	他コース聴講※ ⁵
建築学専攻	6単位※ ¹	6単位※ ¹	6単位※ ¹	6単位※ ¹
総合機械工学専攻	10単位	10単位	10単位	10単位
経営システム工学専攻	8単位※ ²	8単位※ ²	8単位※ ²	8単位※ ²
経営デザイン専攻	4単位※ ³	4単位※ ³	4単位※ ³	4単位※ ³
建設工学専攻	制限なし		4単位	制限なし
地球・環境資源理工学専攻	8単位※ ⁴	8単位※ ⁴	8単位※ ⁴	8単位※ ⁴

※¹ 建築学専攻は4項目併せて6単位までしか算入できない。

※² 経営システム工学専攻は4項目併せて12単位までしか算入できない。

※³ 経営デザイン専攻は4項目併せて4単位までしか算入できない。

※⁴ 地球・環境資源理工学専攻は4項目併せて8単位までしか算入できない。

※⁵ 他コースとは英語による授業のみで単位を取得できる英語学位プログラムのこと。

- (8) ユニットに所属を希望する者は、指導教員と相談の上、自己の選択科目を決定すること。
- (9) 自己の所属する専攻の各部門において、コア科目および推奨科目が設置されている場合は、これらの講義科目を中心に選択すること。（詳細は「Ⅲ-7 コア科目・推奨科目」を参照）
- (10) 特別な事情がある場合には、関連教員の許可を得て、第2年度の始めに専門分野内で他の研究指導に移ることができる。
- (11) 修士論文の作成、その他研究一般については、指導教員の指示に従う。

Ⅰ 特徴

Ⅱ 沿革と概要

Ⅲ 研究科要項

Ⅳ 学生生活

Ⅴ 付録

1. 履修方法

2. 学 位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目・推奨科目

8. 実体情報学コース

9. 数物系科学コース要項

10. 演習・実験

11. インターンシップ

12. ボランティア

13. 学 費

14. 共通科目

15. 専攻別案内

建築

総合機械

経営システム

経営デザイン

建設

地球資源

16. 教職免許

17. 授業時間帯

18. レポート・論文作成

19. 成績の表示

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

- (12) 修士論文の提出にあたっては、研究倫理に関する知識を有していることの確認を受けること。
- (13) 修士課程においては、4年間（※）を超えて在学することはできない。
- (14) 9月修了（9月15日付）については、必ず指導教員と所属専攻へ具体的な手続や可否について相談と確認をすること。なお、当該年度5月下旬までに所属専攻を通して、9月修了対象者として理工学術院へ報告があった学生のみが対象となるので注意すること。
- (15) 英語学位プログラムとの合併科目は、英語学位プログラム学生が科目登録している場合には、英語による講義となる。
- ※経営デザイン専攻社会人特別履修プログラムは3年間を超えて在学することはできない。

【博士後期課程】

- (1) 入学時に選択した研究指導の担当教員が指導教員となる。
- (2) 博士の学位を取得するためには、博士課程に5年（修士課程の在学期間を含む。）以上在学し、各専攻の定めた所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については研究科運営委員会が認めた場合に限り、博士課程に3年（修士課程の在学期間を含む）以上在学すれば足りるものとする。
課程の修了および学位の授与については、後掲の大学院学則を参照のこと。
- (3) 博士後期課程においては、6年間を超えて在学できない。
- (4) 学生は、指定された科目登録手続期間内に、当該年度に履修しようとする学科目を登録（申請および確認）しなければならない。
学科目の選択にあたっては、本研究科要項とWebシラバス等を熟読して、各自の学修目標を定め、登録間違い・登録漏れのないよう注意すること。
Webシラバス <http://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>
登録した学科目以外の受講は認めない。無登録科目を聴講・受験しても単位は与えられない。
登録した学科目の変更・取消は決められた期間以外は認められない。登録にあたっては慎重を期し、本人が行うこと。なお、必ず登録の結果を確認すること。
科目登録においては、事前に指導教員に確認し、許可を得た科目のみを申請すること。
なお、実際の申請手続き等については、理工学術院Webサイト上の案内に従うこと。
- (5) 英語学位プログラムとの合併科目は、英語学位プログラム学生が科目登録している場合には、英語による講義となる。
- (6) 博士論文の作成、その他研究一般については、指導教員の指示に従う。
- (7) 研究科が定める研究倫理系科目の単位修得を、博士論文受理の条件とする。
- (8) 博士論文を提出しないで退学した者のうち、博士後期課程に3年以上在学し、かつ必要な研究指導を受けた者は、退学した日から起算して3年以内に限り、博士論文を提出し、最終試験を受けることができる。

2 学位

【修士課程】

専攻名	学位（専攻分野）
建築学	修士（建築学）または修士（工学）
総合機械工学	修士（工学）
経営システム工学	
建設工学	
地球・環境資源理工学	修士（理学）または修士（工学）
経営デザイン	修士（経営工学）

【博士後期課程】

専攻名	学位（専攻分野）
建築学	博士（建築学）または博士（工学）
総合機械工学	博士（工学）
経営システム工学	
建設工学	
地球・環境資源理工学	博士（理学）または博士（工学）
経営デザイン	博士（経営工学）

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

【学位論文審査基準】

修士論文は、その研究が創造理工学研究科の修士の学位にふさわしい学術的意義と独創性を有するものでなければならない。創造理工学研究科は、学位申請者が学術研究倫理を遵守し、論理的思考力、研究の計画・遂行能力、専門分野における学識を有しているかを審査する。以上の審査により、学位申請者が修士にふさわしいと判断されるときに、修士の学位を授与する。

博士論文は、その研究が創造理工学研究科の博士の学位にふさわしい学術的意義と独創性を有するものでなければならない。創造理工学研究科は、学位申請者が学術研究倫理を遵守し、自立した研究者として活動できる十分な資質と能力および高度な学識を有しているかを審査する。以上の審査により、学位申請者が博士にふさわしいと判断されるときに、博士の学位を授与する。

【修士・博士後期課程指導方法】

○修士課程指導方法

〈1 年次〉

当該分野について広く先行研究を調べ、基礎知識を習得し見識を深めるよう指導し、自身の研究についての計画を、研究計画書にまとめるよう指導する。

〈2 年次〉

当該分野における理論・実験などを用い、諸課題への理解を深め、解決方法の考案を行えるように指導する。これまでの研究成果を修士論文として取りまとめるよう指導する。

○博士後期課程指導方法

〈1 年次〉

入学時に指導教員・副指導教員・課題を決定し、研究指導を開始する。各種研究テーマについて、文献の輪読・実験・フィールドワークなどにより、現状把握を行うとともに、課題解決に向けた方策について検討を進めるよう指導する。

〈2 年次〉

研究成果について、国内外の会議、学会発表、論文誌等で成果報告を行い、研究業績を積むように指導する。

〈3 年次〉

これまでの研究成果を博士論文として取り纏めるように指導する。なお、時間的に十分な余裕をもって作成できるよう指導するとともに、研究指導の記録を適切に管理する。

具体的な指導方法については、各研究指導科目のシラバスを参照すること。また、指導体制は、指導教員のみならず、専攻内外の関連領域の教員から指導や助言を行う。

なお、上記はあくまで標準年限内で指導を完了する場合であり、各自の進捗と結果次第では、スケジュールが変化するので、留意すること。

【修士論文提出方法】

修士論文提出については、修士課程 1 年次に研究計画書の提出、修士課程修了予定年次に概要書の提出が必要となる。詳細な内容、手続き方法については、理工学術院の Web サイトを参照すること。

修士論文 https://www.waseda.jp/fsci/students/dissertation/#anc_3

【博士学位申請方法】

博士学位申請については、学位申請を受理した研究科運営委員会の開催日から最短 2 か月以降、最長 1 年以内に開催される同委員会で最終合否判定を申請する必要がある。受理から 1 年以上経過した学位申請は無効となるため、詳細な内容、手続き方法については、理工学術院の Web サイトを参照し、手続きを進めること。

博士学位申請 https://www.waseda.jp/fsci/students/dissertation/#anc_8

博士学位申請について図式化したものを下記に示すので、参考にとすること。

I	特 徴
II	沿革と概要
III	研究科要項
IV	学生生活
V	付 録

1.	履修方法
2.	学 位
3.	先取り履修
4.	後取り履修
5.	ユニット制度
6.	専修コース 制度
7.	コア科目 推奨科目
8.	実体情報学 コース
9.	数物系科学 コース要項
10.	演習・実験
11.	インターン シップ
12.	ボランティア
13.	学 費
14.	共通科目
15.	専攻別案内
建築	
総合機械	
経営システム	
経営デザイン	
建設	
地球資源	
16.	就職免許
17.	授業時間帯
18.	レポート・ 論文作成
19.	成績の表示
20.	科目履修生



3 先取り履修制度（学部4年次に履修した大学院授業科目の単位認定）

教育研究上、本研究科が有益と認めるときは、理工学術院内学部および教育学部理学科の4年次（前年度）に履修した大学院授業科目を、下表の各専攻が定める範囲内において大学院創造理工学研究科既修得単位として認定するものとする。

専攻名	先取り履修の 認定上限単位数
建築学	10単位
総合機械工学	10単位
経営システム工学	4単位※
経営デザイン	0単位
建設工学	0単位
地球・環境資源理工学	10単位

※の専攻は創造理工学部設置の合併科目（Ⅲ-15 経営システム工学専攻（Ⅱ）講義科目参照）の先取り履修は認めない。

4 後取り履修制度

【修士課程に在籍する学生】

教育研究上、指導教員が有益と認める時には、理工学術院内学部の授業科目を履修できる。ただし、本制度によって取得した単位を終了に必要な単位（30単位）に算入できない。なお、学部在籍時に修得した科目は履修申請を認めない。また、教職免許及び各種資格に必要な単位としても認定しない。詳細な内容、手続き方法については、理工学術院のWebサイトを参照すること。

【博士後期課程に在籍する学生】

各専攻の履修方法に本制度の記載があり、教育研究上、指導教員が有益と認める時には、理工学術院内大学院修士課程の科目を履修できる。その場合、本制度によって取得した単位を修了に必要な単位（5単位）に算入できる。なお、修士課程在籍時に修得した科目は履修申請を認めない。教職免許および各種資格に必要な単位としても認定しない。詳細な内容、手続き方法については、理工学術院のWebサイトを参照すること。

5 ユニット制度

大学院創造理工学研究科では建築学専攻と建設工学専攻においてユニット制度を実施する。

ユニット制度とは必要に応じて、研究部門あるいは専門分野あるいは専攻を越えて組織される大学院修士課程のカリキュラムを組む組織である。

ユニットに所属する学生は、ユニットを構成する教員が組んだカリキュラムによって、部門カリキュラムでは得られない、自己の研究と有機的に関連する教育を受けることが可能となる。また、ユニットにはコア科目、推奨科目を設定する。指導教員と相談の上、コア科目、推奨科目を中心に履修すること。

設置されるユニットについては、以下を参照のこと。

ユニット名：都市計画

教員構成

氏 名	専 攻	氏 名	専 攻
矢口 哲也	建 築 学	森本 章倫	建 設 工 学
後藤 春彦	建 築 学	佐々木 邦明	建 設 工 学
有賀 隆	建 築 学	佐々木 葉	建 設 工 学

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 履修方法

2. 学 位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース
制度

7. コア科目
推奨科目

8. 実体情報学
コース

9. 数物系科学
コース要項

10. 演習・実験

11. インターン
シップ

12. ボランティア

13. 学 費

14. 共通科目

15. 専攻別案内

建築

総合機械

経営システム

経営デザイン

建設

地球資源

16. 教職免許

17. 授業時間帯

18. レポート・
論文作成

19. 成績の表示

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

ユニットの概要

21 世紀、都市をとりまく環境は大きく変化しようとしている。これまでの都市計画の理論、技術、方法は、より広範かつ総合的に取り込むことが必要とされるばかりでなく、より学際的なアプローチを必要としている。本ユニットでは、現在、建築学専攻、建設工学専攻において各々教育・研究が行われている都市計画部門を中心に、都市づくりに関する多彩な領域を総合的に学ぶ。

履修方法

- ・指導教員の担当する全コア科目を含み、8 単位以上履修すること。
- ・科目の履修については、あらかじめ指導教員と相談のうえ、決定すること。

コア科目		推奨科目	
科 目 名	担 当 者	科 目 名	担 当 者
都市計画特論 A	佐々木 邦明	河川工学特論 B	関根 正人
都市構造特論	佐々木 邦明	都市防災計画特論	吉川 仁
都市空間・環境デザイン特論	有賀 隆	社会システムマネジメント特論	芝原 靖典
市街地再生デザイン特論	矢口 哲也	ランドスケープ特論	横張 真
景観・地域デザイン特論	木下 剛		
交通計画特論	森本 章倫		
都市基盤施設特論	森本 章倫		
景観・デザイン特論 A	佐々木 葉		
景観・デザイン特論 B	佐々木 葉		

6 「専修コース」制度

大学院創造理工学研究科では、研究部門、専門分野あるいは専攻を超えて特定の横断的学問分野に関して専修コースを設置している。コースの修了者は該当する特定分野の幅広い知識・能力を身につけた者として担当教員の審査を経て研究科から認定書が発行される。専修コースを修了するには各コースで指定した科目群から 10 単位以上の各コース所定の単位を履修する必要がある。

なお専修コースはユニット制度に比べてより横断的な、大きな特定分野の学問の習得を目的としている。

マクロ材料コース

コースの概要

現代の文明社会において、人類の幸福・安心・安全の観点から工業材料の果たしてきた役割は多大なものである。21 世紀社会においては、さらに地球環境保護を志向する材料が要求され、エネルギー関連分野における効率的な材料開発、宇宙・海洋および輸送機器分野あるいは大型建設構造物分野では環境耐久性や材料信頼性の確保が最重要課題となっている。本コースでは、社会基盤産業を支える材料学を専攻横断的な観点から修得し、近未来に人類が直面する材料学的諸問題にも対処できる能力を育成する。

本コースで指定された単位認定科目のうち 10 単位以上を履修することにより、担当教員の審査を経て当該コース修了の認定がなされる。コース修了の認定は、材料に関わる基本的な事項の習得が必須であり、それらの事項は“Foundation of Materials Science and Engineering”, W. F. Smith and J. Hashemi, 5th edition, McGraw Hill を参照すること（コース登録後、ガイダンス実施）。本コース指定の単位認定科目はガイダンス資料にて確認すること。また、本コースの履修にあたっては、あらかじめ指導教員と相談のうえ、登録を決定すること。

先端建築実務実習コース

コースの概要

建築物の設計および工事監理等に係る実践的な能力を培うことを目的とするものであり、「一級建築士」の免許取得に必要な2年の実務経験のうち、1年（15単位以上）または2年（30単位以上）に相当する実務実習を行う。なお、一級建築士受験制度が改正されたため、詳細は年度始めのガイダンスなどで確認すること。

- ・先端建築実務実習コース（1）（修士課程，15単位，実務経験1年相当）
- ・先端建築実務実習コース（2）（修士課程，30単位，実務経験2年相当）※大学院に3年以上の在籍を要する
- ・先端建築実務実習コース（3）（博士後期課程，15単位，実務経験1年相当）
- ・先端建築実務実習コース（4）（博士後期課程，30単位，実務経験2年相当）

各コースの修了に必要な単位の条件は下表のとおりである。

コース名	インターンシップ （随意科目）	インターンシップ 関連演習科目	インターンシップ 関連講義科目	合計
先端建築実務実習コース(1)および(3)	4単位以上	上限8単位	上限8単位	15単位以上
先端建築実務実習コース(2)および(4)	14単位以上	上限8単位	上限8単位	30単位以上

単位認定科目名

(1) インターンシップ（随意科目）

先端建築実務実習 A（4単位，休業期間を利用した1か月程度のインターンシップ）

先端建築実務実習 B（16単位，年度を通じた累計6か月以上）のインターンシップ）

ただし先端建築実務実習 B は，各研究指導教員の行う「演習 A ～ D」との重複履修は不可とする。

(2) インターンシップ関連演習科目

各所属研究室での「演習 A ～ D」の一部またはすべてが，実際の建築設計・工事監理等に即した PBL（Project Based Learning）型の演習科目として「インターンシップ関連演習科目」に位置づけられている。これらの科目に対し，各学生の演習内容に応じて最大8単位を認定する。

(3) インターンシップ関連講義科目（各2単位）

最大8単位（必修4単位を含む）を「インターンシップ関連講義科目」として認定する。

- ・先端建築学論 A（必修）
- ・建築空間特論（必修）1）
- ・建築意匠特論（必修）1）
- ・景観・地域デザイン特論
- ・先端建築学論 B（必修）
- ・建築表現特論
- ・都市空間・環境デザイン特論
- ・市街地再生デザイン特論
- ・建築構造デザイン特論（必修）2）
- ・建築設備工学特論（必修）3）

- 1) 建築士登録の大学院における実務経験を「意匠」の専門領域で申請する場合は必修
- 2) 建築士登録の大学院における実務経験を「構造」の専門領域で申請する場合は必修
- 3) 建築士登録の大学院における実務経験を「設備」の専門領域で申請する場合は必修

進入条件

建築学専攻の修士課程および同博士後期課程の在籍者とする。あらかじめ指導教員と相談のうえ，各年度の始めに先端建築実務実習 A・B の科目登録を行う。

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 履修方法

2. 学 位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目推奨科目

8. 実体情報学コース

9. 数物系科学コース要項

10. 演習・実験

11. インターンシップ

12. ボランティア

13. 学 費

14. 共通科目

15. 専攻別案内

建築

総合機械

経営システム

経営デザイン

建設

地球資源

16. 教職免許

17. 授業時間帯

18. レポート・論文作成

19. 成績の表示

20. 科目履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目専属性

体系的ロボット工学専修コース（博士課程）

コースの概要

これまでロボット工学は機械工学，メカトロニクス，制御工学，情報工学等を基盤に個々に発展してきた。しかしながら体系的にロボット工学を対象とした研究・教育は少なく，特に社会，心理，法律，医療，福祉安全などの周辺分野との関係は個々に研究は進められてはいるものの体系化された研究・教育はこれまでのところなされていない。

本コースではロボット工学関係の体系化を目指す DC 対象の高度スクーリング科目群と基盤的 RT や実践的 RT の課題に挑戦するプラクティス科目群からなるプログラムを用意する。プラクティス科目には内外企業，研究所，他大学あるいは社会における実習科目，内外のインターンシップ，内外セミナー等の科目，実践的博士人材養成プログラムの科目などをも含み，多様な観点からの実践的 RT の課題に挑戦する人材養成に取り組む。

スクーリング科目

- ・体系的ロボット工学特論（必修）2 単位（秋学期）

プラクティス科目

- ・最先端ロボティクスにおける論文の分析および議論（必修）4 単位（通年）
- ・内外企業，研究所，他大学あるいは社会における実習科目，内外のインターンシップ，内外セミナー等の科目，実践的博士人材養成プログラムの科目
（担当教員における認定が必要）

履修方法

必修スクーリング科目と必修プラクティス科目の合計 6 単位に加えて，認定を必要とするプラクティス科目を 2 単位以上履修して合計 8 単位以上履修すること。

技術経営リーダー専修コース

コースの概要

急速な技術進歩，グローバル化，資源・環境問題の深刻化などの中で，企業は様々な経営課題に直面しており，それらの課題に立ち向かい着実に成果を産み出せる人材を必要としている。とりわけ，日本の強さである「モノづくり」技術を基盤として，技術の商品化・事業化を成功させ，さらにその生産・供給までも含めた総合的なバリューマネジメントにより価値創造産業の発展に貢献する人材が求められている。

本コースは，経営工学以外の専門分野における修士または博士後期課程の学生が，自らの専門分野に併せて上記の要求に応えるマネジメント力を修得するための副専攻とも言える学習プログラムである。プログラムは，事業経営科目，テクノロジー事業デザイン科目，グローバル生産マネジメント科目，およびコミュニケーション力強化科目から構成されており，その中から自らの進路に合わせた自由度の高い選択を可能としている。

また，本コースは，博士人材教育プログラムである STO（Super Technology Officer）資格認定コース※への進入のための必要条件となる。

※ STO 資格認定コースについては経営デザイン専攻 Web サイトにて確認すること。

コース修了のためには、以下に示すように、経営デザイン専攻設置科目を 8 科目以上、英語教育センター設置科目を 2 科目以上履修する必要がある。

(1) 経営デザイン専攻設置科目（2 科目必修，11 科目中 6 科目選択，合計 8 単位）

〔事業経営科目〕

- 必修① 技術系経営幹部講話
- 必修② 企業経営論
- 選択① 経営品質マネジメント
- 選択② 技術経営論

〔テクノロジー事業デザイン科目〕

- 選択③ カスタマーリレーションシップマネジメント：CRM
- 選択④ 知財マネジメントの基礎
- 選択⑤ 製品開発マネジメント概論
- 選択⑥ 経営情報分析技法

〔グローバル生産マネジメント科目〕

- 選択⑦ グローバル SCM の基礎と実際
- 選択⑧ SCM のデザインと改革
- 選択⑨ ロジスティクスの実務と情報システム
- 選択⑩ 生産システム工学
- 選択⑪ 環境調和型生産システム

(2) 英語教育センター設置科目（4 科目中 2 科目選択，2 単位）

〔コミュニケーション力強化科目〕

- 選択① Professional Communication 1
- 選択② Professional Communication 2
- 選択③ Advanced Technical Reading and Writing 1
- 選択④ Advanced Technical Reading and Writing 2

進入，修了条件

- ・ あらかじめ指導教員に相談の上，学期始めに登録する。手続等は，経営デザイン専攻 Web サイトにて確認すること。
- ・ 修士課程の学生は，上記の履修条件を満たし，かつ所属する専攻において学位を得られた時，博士後期課程の学生は，上記の履修条件を満たした時，本コースの修了を認定する。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

惑星探査・衛星システム専修コース

コースの概要

宇宙空間における未解明 / 検証な現象は多く、探査技術の向上により、多くの現象が解明されつつある、宇宙空間における長期間の稼働や遠隔通信により人工衛星が実際に遠い宇宙へ出ることによる探査機会の提供も小型・超小型衛星の登場により多くなっている。本専修コースでは、惑星探査・小型人工衛星の観点より、関連する学習科目を提示し、定められた単位以上の単位習得をもち、コース修了と認定する。人工衛星が到達する宇宙に関する事項、探査対象に関する事項、探査方法に関する事項、探査機・人工衛星に関する事項、衛星通信に関する事項について学習指針を提示する。また、講演会、開発プロジェクトを通した課題学習（PBL）の機会を提供する。本コースで指定する以下の単位認定科目のうち 10 単位以上を履修することにより、審査を経て該当者に対し修了時にコース修了の認定がなされ、研究科長より認定証を授与する。コア科目（○印）を設定し、そのうち 1 科目以上を必須として履修することとする。なお、卒業・修了単位への算入は、所属学科、専攻の規定によるので必要に応じて確認すること。

専修コースの科目は、「宇宙工学系、宇宙科学系、情報工学系、機械工学系」の分野系列から構成される。それぞれの系列には、学部設置の科目が含まれる。分野については、興味に応じて工学的な事項から科学的な事項へ、もしくはその逆へ展開することが可能である。また英語科目も多く配置し、語学力に応じて履修範囲を拡げることにも可能となっている。英語科目については、海外からの留学を考慮し、製造技術に関する科目を履修することもできる

コース修了に向けた履修手順については、学部で履修した科目をベースとして修士課程で残りの科目を履修することができる。あるいは後取り履修制度を用いて、修士課程において学部科目を含めて履修することも可能である。

分 野 系 列	名 称	設置	単位数	窓口 教員	言語（J, E） コア指定○	履修
宇宙工学系	宇宙科学技術	創造 創造研	2	宮下	J ○	学
宇宙工学系	宇宙構造物工学	創造 創造研	2	石村	J	学
宇宙工学系	人工衛星設計 PBLA, B / satellite design PBL A, B	創造 創造研	2 × 2	宮下	J / E	学
宇宙工学系	Materials Science and Engineering for Space Craft	創造 創造研	2	吉田	E	学
宇宙工学系	Design Optimization of Space Structures	創造 創造研	2	宮下	E ○	学
宇宙工学系	宇宙構造の設計と制御	創造 創造研	2	渡辺	J	
宇宙工学系	Design and Control of Space Structures	創造 創造研	2	何	E	
宇宙工学系	Thermal Design of Space System	創造 創造研	2	宮下	E	
宇宙科学系	宇宙物理学	先進 先進研	2	山田	J	学
宇宙科学系	放射線計測学 A	先進	2	鳥居	J	学
宇宙科学系	放射線計測学 B	先進	2	長谷部	J	学

分野 系列	名 称	設置	単位数	窓口 教員	言語 (J, E) コア指定○	履修
宇宙科学系	宇宙放射線物理学 A/B (隔年開講)	先進研	2	長谷部	J / E	
宇宙科学系	高エネルギー宇宙物理学特論 A / B (隔年開講)	先進研	2	鳥居	J / E	
宇宙科学系	宇宙粒子線物理学 / Astroparticle Physics	創造 創造研	2	森	J / E	
宇宙科学系	月惑星探査と科学 / Lunar and planetary exploration and its science	創造 創造研	2	大竹	J / E	
情報工学系	無線通信技術	基幹	2	嶋本	J	学
情報工学系	Wireless Communication	基幹	2	嶋本	E	学
情報工学系	ワイヤレスアクセス特論 / Advanced Wireless Access	基幹研	2	嶋本	J / E	
機械工学系	Manufacturing of Space Structures	創造 創造研	2	増本	E	学
機械工学系	流体構造連成系応用力学特論 / Advanced Topics in Applied Mechanics of Fluid-Structure Interactions	創造研	2	滝沢	J / E	
機械工学系	姿勢制御工学特論	創造 創造研	2	大内	J	

※ 設置が学部・大学院の科目は合併科目で、学部在籍時の修得科目を再度履修申請することはできない。

※※ 学部設置科目は所属する専攻が定める「後取り履修制度」の範囲内で履修できる。

※※※ 「J/E」表記の科目は英語実施可能な科目であり履修時に担当教員へ確認すること。

※※※※ 履修項目に「学」の印がある科目は、学部学生からの履修を推奨する。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

7 コア科目・推奨科目

所属する専攻の部門にコア科目、推奨科目が設置されている場合は、それぞれの履修方法に従って科目を履修すること。

建築学専攻

建築工学分野 建築生産マネジメント研究、建築構法研究および建築材料研究

コア科目	推奨科目
次のコア科目から8単位以上履修すること。	
建築生産マネジメント特論	建築生産特論
建築構法計画特論	建築生産システム特論
建築材料特論	
建築施工特論	

建築学専攻

建築芸術分野 JABEE 認定プログラム関連科目

コア科目	推奨科目
先端建築学論A、Bのほか、次の科目を必修とする。 また、その他の所属する各系ごとの必修科目については、学年ガイダンスでの説明等に従って履修すること。	
建築表現特論	建築企画特論
建築空間特論・建築と都市	近代建築史特論
	建築史特論
	建築意匠特論・建築家論
	建築情報特論・建築設計と情報
	建築社会特論・建築と社会
選択必修科目	建築芸術特論
建築計画系、建築史系に所属する場合は、次のコア科目から2単位以上履修すること。	自然環境特論
景観・地域デザイン特論	建築史調査・実習
都市空間・環境デザイン特論	
市街地再生デザイン特論	
ランドスケープ特論	

総合機械工学専攻

コア科目・推奨科目とも設置しない。

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目 推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目専履修生

経営システム工学専攻

コア科目 次のコア科目から6単位以上履修すること。	推奨科目 次の推奨科目から8単位以上履修すること。 ただし、コア科目として履修した講義科目は推奨科目に含めることはできない。
生産マネジメント特論	生産マネジメント特論
情報システム特論	情報システム特論
ソフトウェアデザイン特論	ソフトウェアデザイン特論
情報数理応用特論	情報数理応用特論
人間工学特論	人間工学特論
計画数理学特論	計画数理学特論
社会システムモデリング A	社会システムモデリング A
社会システムモデリング B	社会システムモデリング B
実験計画法特論	実験計画法特論
知識情報処理特論	知識情報処理特論
数理計画特論	数理計画特論
プロフィットデザイン特論 A	プロフィットデザイン特論 A
プロフィットデザイン特論 B	プロフィットデザイン特論 B
品質マネジメント特論 A	品質マネジメント特論 A
品質マネジメント特論 B	品質マネジメント特論 B
施設・ロジスティクス設計特論 A	施設・ロジスティクス設計特論 A
施設・ロジスティクス設計特論 B	施設・ロジスティクス設計特論 B
	ネットワーク技術特論
	情報アクセスデザイン
	ロジスティクス工学特論
	多変量解析法特論
	経営システム工学特別講義
	情報セキュリティマネジメント
	効用理論
	マーケティングサイエンス
	金融工学
	研究・技術管理
	要求工学

経営デザイン専攻

コア科目 次のコア科目はすべて履修すること。 <table> <tr><td>カスタマーリレーションシップマネジメント：CRM</td></tr> <tr><td>製品開発マネジメント概論</td></tr> <tr><td>グローバル SCM の基礎と実際</td></tr> <tr><td>生産システム工学</td></tr> <tr><td>企業経営論</td></tr> </table>	カスタマーリレーションシップマネジメント：CRM	製品開発マネジメント概論	グローバル SCM の基礎と実際	生産システム工学	企業経営論
カスタマーリレーションシップマネジメント：CRM					
製品開発マネジメント概論					
グローバル SCM の基礎と実際					
生産システム工学					
企業経営論					

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内

建築

総合機械

経営システム

経営デザイン

建設

地球資源

16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内

建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目専履修生

建設工学専攻

社会基盤部門

コア科目
地中構造特論A
地中構造特論B
コンクリート工学特論A
コンクリート工学特論B
構造設計特論A
構造設計特論B
構造力学特論A
構造力学特論B

環境・防災部門

コア科目
河川工学特論A
河川工学特論B
水質工学特論A
水質工学特論B
海岸工学特論
地盤工学特論A
地盤工学特論B
土質力学特論A
土質力学特論B

計画マネジメント部門

コア科目	推奨科目
指導教員の担当する全コア科目を含み、8単位以上履修すること。	
都市計画特論A	河川工学特論B
都市構造特論	都市防災計画特論
交通計画特論	プロジェクト開発特論
都市基盤施設特論	都市空間・環境デザイン特論
景観・デザイン特論A	市街地再生デザイン特論
景観・デザイン特論B	景観・地域デザイン特論
	ランドスケープ特論

地球・環境資源理工学専攻

資源科学部門

コア科目	推奨科目
次のコア科目から 2 科目以上履修すること。	
素材物質科学特論	地球環境の変遷と資源
応用鉱物学特論	ジオマテリアル・サイエンス
資源地球化学特論	地球化学 ※教育学部との合併科目（未履修者に限る）
	同位体環境学 ※創造理工学部との合併科目（未履修者に限る）
	素材機器分析評価 ※創造理工学部との合併科目（未履修者に限る）

地殻情報工学部門

コア科目	推奨科目
次のコア科目から 3 科目以上履修すること。	
応用地球物理学	地震学特論
探査工学特論	数値岩盤工学特論
地球物理情報工学	地質統計学
地球化学情報工学	地震学特論
	地質統計学

開発環境工学部門

コア科目	推奨科目
次のコア科目から 3 科目以上履修すること。	
油層工学特論	掘削工学特論
石油生産工学特論	地圏環境工学
地質統計学	応用地球物理学
数値岩盤工学特論	地球物理情報工学

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 履修方法

2. 学 位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目推奨科目

8. 実体情報学コース

9. 数物系科学コース要項

10. 演習・実験

11. インターンシップ

12. ボランティア

13. 学 費

14. 共通科目

15. 専攻別案内

建築

総合機械

経営システム

経営デザイン

建設

地球資源

16. 教職免許

17. 授業時間帯

18. レポート・論文作成

19. 成績の表示

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

資源循環工学部門

コア科目 次のコア科目はすべて履修すること。	推奨科目
資源分離工学特論	高度粉碎技術特論
資源リサイクリング※	分離工学物理化学特論
環境界面工学特論	環境安全工学
資源分離シミュレーション	水質化学特論
※合併科目のため、学部で未履修者に限る。	

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目 推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項

素材プロセス工学部門

コア科目 次のコア科目はすべて履修すること。	推奨科目
素材工学特論	資源リサイクリング
	資源分離工学特論
	素材物質科学特論
	応用鉱物学特論

10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内

環境保全工学部門

コア科目 次のコア科目はすべて履修すること。	推奨科目
労働衛生工学特論	環境学特論 A
環境安全リスク特論	環境学特論 B
生態環境学	環境学特論 C
水質化学特論	応用鉱物学特論
	資源リサイクリング
	分離工学物理化学特論
	資源分離工学特論
	環境微生物学

建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目専履修生

地質学部門

コア科目	推奨科目
次のコア科目から3科目以上履修すること。	
進化古生物学特論	地圏環境工学
地質学とジオパーク	地球化学※
古海洋学特論	同位体地球化学※
断層の解剖	海洋科学※
日本列島の地帯構造論	海洋底ダイナミクス※
大陸地殻の進化と碎屑物組成	地球テクトニクス※
	※合併科目のため、学部で未履修者に限る。

岩石学部門

コア科目	推奨科目
次のコア科目から2科目以上を履修すること。	
隕石と惑星科学	応用鉱物学特論
同位体地球化学特論	資源地球化学特論
火山学特論	地球テクトニクス※
火山岩石学特論	地球化学※
	同位体地球化学※
	※合併科目のため、学部で未履修者に限る。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 履修方法

2. 学 位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目推奨科目

8. 実体情報学コース

9. 数物系科学コース要項

10. 演習・実験

11. インターンシップ

12. ボランティア

13. 学 費

14. 共通科目

15. 専攻別案内

建築

総合機械

経営システム

経営デザイン

建設

地球資源

16. 教職免許

17. 授業時間帯

18. レポート・論文作成

19. 成績の表示

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

8 実体情報学コース

理工学術院の5研究科に属する以下の専攻に「実体情報学コース」を設置する。

基幹理工学研究科	数学応用数理専攻, 機械科学・航空宇宙専攻, 電子物理システム学専攻, 情報理工・情報通信専攻, 表現工学専攻, 材料科学専攻
創造理工学研究科	総合機械工学専攻, 経営システム工学専攻
先進理工学研究科	物理学及応用物理学専攻, 生命理工学専攻
環境・エネルギー研究科	環境・エネルギー専攻
情報生産システム研究科	情報生産システム工学専攻

実体情報学コースは、情報技術が持つコンピューティングベネフィット（計算の効果）、通信技術が持つネットワークベネフィット（資源共有の効果）、機械技術が持つボディベネフィット（実在と力の効果）の複合的価値創出を指向する中で、医療・環境エネルギー等の重要分野におけるアプリケーションベネフィット（問題を解くこと自体の直接的価値）を導く、「実体」と「情報」の融合学としての「実体情報学（Embodiment Informatics）」を構成し、この新学術領域におけるイノベーションを先導する、先見力、構想力、突破力を兼備した人材を輩出することを目指して創設された。

学生選抜試験では、4月および9月の年2回進入・編入が可能。選抜試験の出願期間は5～6月頃・1～2月頃で、学部4年生および修士課程1・2年生が対象。L1（修士課程1年）進入だけでなく、L2（修士課程2年次）やL3（博士後期課程1年次）編入学生も多く在籍する。コースの応募資格や手続き等詳細は、Webサイトの「お知らせ」を参照すること。

コース進入の可否は面接試験等により判断する。コース進入を許可された学生には、所属する研究科の要項とは別に「別冊研究科要項：実体情報学コース要項」を配布する（以下Webサイトから閲覧・ダウンロード可能）。実体情報学コースの修了要件は、この「別冊研究科要項：実体情報学コース要項」に定めるので、必ず内容を参照すること。

飛び級制度、先取り履修、後取り履修についても、「別冊研究科要項：実体情報学コース要項」を参照すること。

本要項記載の「Ⅲ. 創造理工学研究科要項」の「1. 履修方法」～「10. 特定課題演習・実験」および「15. 各専攻の学科目担当表」内の履修方法部分については、各所属専攻修了要件と併せて「別冊研究科要項：実体情報学コース要項」記載のコース修了要件の適用を受けるので十分に注意すること。

実体情報学コース Web サイト

<https://www.leading-sn.waseda.ac.jp/>

9 数物系科学コース要項

1. 本コースの特徴

本コースは早稲田大学理工学術院博士後期課程に設置するものである。本コースは教育と研究をコインの裏表のような一体のものとしてとらえ、同学術院内で開催される各種セミナー、研究会、フォーラム、シンポジウムにSGUコース院生が積極的に関わり、異分野接触を実践的に展開して行く。本コースは世界の第一線で活躍してきた国際的にアクティビティの高い研究者群や箇所と連携・協力して活動するSGU数物系科学ユニットを母体とする。また、本コースは、既存のディシプリンにとらわれない自由な発想や異分野との自由な交流の実現、複眼的視野で多角的にみる見方や創造的な「総合知」の醸成のために独自のカリキュラムを理工学術院内の各研究科や卓越した研究者の協力を得て開発し、大学院教育の一

環として提供するとともに、理工学において異分野融合領域で活躍を希望する優れた学生を選抜し、経済的支援及び研究支援を行う。

2. 本コースの目的

本コースは、数学・物理学の研究者と情報科学や工学応用分野の研究者などによる異分野協働などを通じて、数学・物理学がもつ抽象性・普遍性を基盤に、諸現象に潜む複雑な構造の「本質」部分を数学的に見出すことにより、以下の項目を中心に教育・研究を実践する。

○現象を数学的に記述するモデルの構築

○導出された数理モデルの数値シミュレーションの手法による実証・検証及び評価

そのために理工学術院内の各研究科等との連携・協力を通じて、学際的な研究成果を基盤に、カリキュラム等教育に関する研究開発、企画及び支援を行う。そして数学・物理学を基礎に理工学のみならず、情報科学さらには社会科学への応用を展開する新たな総合的な知的体系を創造し、数学・物理学と諸科学との懸け橋となって社会で広く活躍する人材の育成、及び国際的に通用する若手研究者トップランナーの養成を推進する。そのために優れた学生を選抜し、経済的支援や研究環境支援を行う。

3. 数物系科学コース生・応募資格

以下のいずれかに該当する者。

- 1) 原則として修士課程（他大学の場合は博士前期課程も可）2年次以下に在籍しており、本学理工学術院博士後期課程に入学が決定した者。
- 2) 本学理工学術院5年一貫制博士課程3年次以下に在籍している者。
- 3) 本学理工学術院博士後期課程1年次に在籍している者。

設置講義 ※大学院共通科目として設置

A) 基礎講義一覧

担当専攻	科目	単位
数学応数	解析の基礎数学 1	2
数学応数	解析の基礎数学 2	2
数学応数	幾何学の基礎数学 1	2
数学応数	非線形方程式の計算機の援用証明	2
機械科学	幾何学の基礎数学 2	2
機械科学	伝熱工学	2
総合機械	流体構造連成系応用力学特論（流体編）	2
総合機械	流体構造連成系応用力学特論（構造編）	2
物理応物	量子力学の数学的基礎	2
物理応物	場の古典論の数学的基礎	2
物理応物	量子論特論	2
物理応物	量子情報理論	2
物理応物	非平衡系物理学特論 A	2
物理応物	非平衡系物理学特論 B	2
物理応物	計算生物物理学特論	2

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 履修方法

2. 学 位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目推奨科目

8. 実体情報学コース

9. 数物系科学コース要項

10. 演習・実験

11. インターンシップ

12. ボランティア

13. 学 費

14. 共通科目

15. 専攻別案内

建築

総合機械

経営システム

経営デザイン

建設

地球資源

16. 教職免許

17. 授業時間帯

18. レポート・論文作成

19. 成績の表示

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

B) 特別講義一覧

担当専攻	科目	単位
数学応数	非線形力学特別講義	4
数学応数	流体数学特別講義	4
数学応数	確率偏微分方程式特別講義	2
総合機械	Fluid Mechanics of Computing (数値計算と流体力学)	2
総合機械	Computational Fluid Mechanics	2
経営デザイン	複雑系とネットワーク科学	1
物理応物	量子物理学特別講義	4

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

C) 選択科目

担当専攻	科目	単位
共通	インターンシップ	2

※特別講義は、訪問教員による短期集中講義及び国際ワークショップにおける連続講義を含む。

※特別講義は 4 単位まで、修士課程での先取りを可能とする。

4. 数物系科学コース生・応募手続き

1) 「数物系科学コース生」となることを希望する学生は、申請書とともに博士後期課程在籍時における指導教員の推薦状および修士課程 1 年次（5 年一貫制博士課程在籍の学生については博士課程 1 年次）以降の履修科目とその成績評価が確認できる書類を添えて、理工学術院長に応募申請するものとする（期間は 2 月と 7 月の 2 回に行い、年度ごとに別に定める）。

2) 「申請書」には以下の項目を記載すること。

- ① 研究課題名
- ② 予定される指導教員名及び副指導教員名
- ③ 現在までの研究状況
- ④ これからの研究計画
 - (i) 研究の背景
 - (ii) 研究目的・内容
 - (iii) 研究の特色・独創的な点
 - (iv) 年次計画
- ⑤ 研究業績

3) 募集は 2 月と 7 月の 2 回に行う（募集期間は別に定める）。

5. 数物系科学コースでの選抜

本コースでは、4 の応募に対して申請書の評価、修士論文（5 年一貫制博士課程在籍の学生については修士論文に相当する論文）の評価、指導教員による応募学生の推薦状、科目履修状況^{*1}、日本学術振興会・特別研究員への応募状況^{*2}等を参考に、面接による学生評価を実施し、審査・選抜を行う。

採用人数は年度毎に 10 名程度とする。

※ 1 コース進入時点で「設置講義」の項に記載した基礎講義のうち自身が所属する専攻以外が設置する科目を 4 単位以上取得していることが望ましい。取得していない場合でも、コース進入後に指定の基礎講義を取得することを条件として、コース進入を認める場合がある。

※ 2 日本学術振興会・特別研究員 DC1 または DC2 に応募していることが望ましい。応募していない場合でも、コース進入後に DC2 に応募することを条件として、コース進入を認める場合がある。

6. 採用通知書伝達

数物系コース生を申請応募し選抜された学生に対して、採用通知書を発行する。

7. コース修了要件

コース修了要件は以下のとおりとし、修了認定は数物系運営委員会において行う。

- 1) 特別講義のなかから8単位以上を履修すること。
- 2) 研究成果、研究活動に関する年次報告書を毎年提出すること。
- 3) 海外で行われるセミナーやワークショップ等に参加し、研究発表を行うこと。
- 4) 特別講義に付随する早稲田大学で開催される国際ワークショップにおいて研究発表を行うこと。
- 5) 各所属する専攻分野において学位を取得すること。

8. 支援内容

SGU等の予算規模に応じて、海外研究機関への派遣旅費・滞在費の支援等を行うことを計画している。

10 特定課題演習・実験（4単位）

科学・技術の急速な発展に対応し、各専攻が必要に応じて企画して行なう特定のトピックスに関するゼミナールまたは実験である。当該分野で集中講義、集中ゼミナールなどと明示してある年度に限り選択できる。

11 インターンシップ

理工学術院では、60時間以上（実質10日以上）のインターンシップ実習について、申請に基づき、「大学院共通科目（2単位、重複履修不可）」として単位認定を行う。

研究室での研究内容や関連分野が実際の生産現場の研究・開発の課程の中でどのように活用されているかを体験する等、高度な能力を養うことを目的とする。指導教員と協議の上、今後の研究に役立てられる企業、プログラムを選定すること。

（注）実習前後にMyWasedaからの申請および企業等受入機関による実習評価書の送付が必要となる。
詳細は理工学術院 Web サイトを確認すること。

（注）学生が個人で参加するインターンシップについては、早稲田大学学生補償制度（傷害補償）（略称：学傷補）および早稲田大学学生賠償制度（略称：学賠補）への加入ができないため、任意の保険への加入を強く推奨する。なお、早稲田大学生協同組合各店舗にて大学生協の学生総合共済加入を受け付けている。学科・専攻が推奨しているインターンシップについては、学傷補、学賠補への加入が可能。また、学科・専攻が推奨しているインターンシップにおいて海外で実習を行う場合は、大学指定の海外旅行保険への加入が義務付けられているため、理工学術院統合事務所教学支援課にて申請書類を受け取り、必ず手続きをすること。

（注）受入企業によっては、インターンシップを行う際に、参加学生の誓約書等以外に大学との契約締結を求められる場合があるが、学生が個人で参加する自由応募のインターンシップについては、大学として契約締結は行わない。学科・専攻が推奨するインターンシップについても、原則として契約締結は行わない。

（注）経営システム工学専攻は「経営実践・国内プロジェクト」「経営実践・海外プロジェクト」「経営システム・国際プロジェクト」が用意されているので「インターンシップ」としての単位は付与されない。

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 履修方法

2. 学 位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目推奨科目

8. 実体情報学コース

9. 数物系科学コース要項

10. 演習・実験

11. インターンシップ

12. ボランティア

13. 学 費

14. 共通科目

15. 専攻別案内

建築

総合機械

経営システム

経営デザイン

建設

地球資源

16. 教職免許

17. 授業時間帯

18. レポート・論文作成

19. 成績の表示

20. 科目履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

一級建築士登録のための実務実習科目におけるインターンシップ

建築学専攻では、一級建築士登録のために必要な実務経験に算入される下記2科目のインターンシップを設置している。ただし、両科目とも随意科目とする。

■「先端建築実務実習 A」（4 単位）

■「先端建築実務実習 B」（16 単位）

ただし、「先端建築実務実習 B」については、博士後期課程の学生および修士課程に3年間以上在籍する学生を対象とするものであり、各研究指導教員の行う「演習 A～D」との重複履修は不可とする。

- ・「先端建築実務実習 A」、「先端建築実務実習 B」で行うインターンシップは、実施を目的とした建築設計関連業務に加え、建築工事監理、現場での実習、および建築確認申請関連業務等が含まれる。
- ・インターンシップ実習期間は1か月以上継続しておこなう指導教員のもとでの設計補助実務ないし、設計事務所に赴いて行う実務研修（原則として週日1日につき6時間以上）が累計1か月以上となった場合には4単位、同じく累計6か月程度となった場合には16単位を、それぞれ認定する。

12 ボランティア

この科目は、学内外で学生が自らの意志で自発的に関った福祉・災害救援・人権・平和環境などの人間社会の切実な諸問題に対する活動をし、「活動報告書」と「活動を通じて得たもの」を述べたレポートの2つの提出物を基に評価して単位を与える科目である。

実質5日間程度の活動が対象。

ただし、特定の宗教、政治に関わるようなものは、本科目の対象としない。

大学院共通科目 1単位（重複履修不可）

（注）事前に、「ボランティア申請書」、「保護者等の同意書」を提出すること。加えて、「早稲田大学学生補償制度（傷害補償）：略称『学傷補』」と「早稲田大学学生補償制度（賠償責任補償）：略称『学賠補』」に加入すること。

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目専履修生

13 学費の納入と抹籍

(1) 納入期日

学費は、それぞれの年度において、次の期日までに納入しなければならない。

	納入期限
春学期学費	5月1日
秋学期学費	10月1日

(2) 2022 年度入学者学費・諸会費

【修士】

		1 年度		2 年度	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
入 学 金		200,000	0	0	0
授 業 料	2 年 制 コ ー ス	481,000	481,000	581,000	581,000
	1.5 年 制 コ ー ス	745,500	745,500	895,500	—
実 験 演 習 料	建 築 学 専 攻	48,000	48,000	48,000	48,000
	総 合 機 械 工 学 専 攻	47,000	47,000	48,000	48,000
	経営システム工学専攻			47,000	47,000
	建 設 工 学 専 攻	45,000	45,000	45,000	45,000
	地球・環境資源理工学専攻	48,000	48,000	48,000	48,000
	経営デザイン専攻 (2 年制)	60,000	60,000	60,000	60,000
	経営デザイン専攻 (1.5 年制)	60,000	60,000	60,000	—
学 生 健 康 増 進 互 助 会 費		1,500	1,500	1,500	1,500
校 友 会 費 ※経営デザイン専攻 (1.5 年制) は 2 年度春学期に徴収		0	0	0	40,000
合 計	建 築 学 専 攻	730,500	530,500	630,500	670,500
	総 合 機 械 工 学 専 攻	729,500	529,500	630,500	670,500
	経営システム工学専攻			629,500	669,500
	建 設 工 学 専 攻	727,500	527,500	627,500	667,500
	地球・環境資源理工学専攻	730,500	530,500	630,500	670,500
	経営デザイン専攻 (2 年制)	742,500	542,500	642,500	682,500
	経営デザイン専攻 (1.5 年制)	1,007,000	807,000	997,000	—
年 度 合 計	建 築 学 専 攻	1,261,000		1,301,000	
	総 合 機 械 工 学 専 攻	1,259,000		1,301,000	
	経営システム工学専攻			1,299,000	
	建 設 工 学 専 攻	1,255,000		1,295,000	
	地球・環境資源理工学専攻	1,261,000		1,301,000	
	経営デザイン専攻 (2 年制)	1,285,000		1,325,000	
	経営デザイン専攻 (1.5 年制)	1,814,000		997,000	

単位 (円)

※実験演習料・諸会費は改定されることがある。

※正規の課程で本大学学部および大学院に入学金を納め在籍した者が入学する場合は、入学金が免除になる。

※本大学学部の正規の課程出身者は校友会費が免除になる。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 履修方法

2. 学 位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース
制度

7. コア科目
推奨科目

8. 実体情報学
コース

9. 数物系科学
コース要項

10. 演習・実験

11. インターン
シップ

12. ボランティア

13. 学 費

14. 共通科目

15. 専攻別案内

建築

総合機械

経営システム

経営デザイン

建設

地球資源

16. 教職免許

17. 授業時間帯

18. レポート・
論文作成

19. 成績の表示

20. 科目等履修生

I 特 徴	【博士後期】							
II 沿革と概要			1 年度		2 年度		3 年度	
III 研究科要項	入 学 金		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
IV 学生生活	授 業 料		200,000	0	0	0	0	0
V 付 録			353,500	353,500	453,500	453,500	453,500	453,500
	実 験 演 習 料	建 築 学 専 攻	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000
		総合機械工学専攻	47,000	47,000	48,000	48,000	48,000	48,000
		経営システム工学専攻			47,000	47,000	47,000	47,000
		建 設 工 学 専 攻	45,000	45,000	45,000	45,000	45,000	45,000
		地球・環境資源理工学専攻	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000
		経営デザイン専攻	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000
1. 履修方法	学 生 健 康 増 進 互 助 会 費		1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
2. 学 位	合 計	建 築 学 専 攻	603,000	403,000	503,000	503,000	503,000	503,000
3. 先取り履修		総合機械工学専攻	602,000	402,000	503,000	503,000	503,000	503,000
4. 後取り履修		経営システム工学専攻			502,000	502,000	502,000	502,000
5. ユニット制度		建 設 工 学 専 攻	600,000	400,000	500,000	500,000	500,000	500,000
6. 専修コース 制度		地球・環境資源理工学専攻	603,000	403,000	503,000	503,000	503,000	503,000
7. コア科目 推奨科目		経営デザイン専攻	615,000	415,000	515,000	515,000	515,000	515,000
8. 実体情報学 コース	年 度 合 計	建 築 学 専 攻	1,006,000		1,006,000		1,006,000	
9. 数物系科学 コース要項		総合機械工学専攻	1,004,000		1,006,000		1,006,000	
10. 演習・実験		経営システム工学専攻			1,004,000		1,004,000	
11. インターン シップ		建 設 工 学 専 攻	1,000,000		1,000,000		1,000,000	
		地球・環境資源理工学専攻	1,006,000		1,006,000		1,006,000	
		経営デザイン専攻	1,030,000		1,030,000		1,030,000	

単位 (円)

※実験演習料・諸会費は改定されることがある。

※正規の課程で本大学学部および大学院に入学金を納めた者が入学する場合は、入学金が免除になる。

所定年限以上在学する学生の各期学費取り扱いについては、下記表を参照すること。

	授 業 料	実験演習料 学生健康増進互助会費
修士論文・博士論文の審査に合格していないが、前学期終了時までには修了必要単位を取得している者	所定額の 50%	修士課程は 2 年次所定額, 博士後期課程は 3 年次所定額,
修了必要単位の合計からの不足単位数はあるが修士論文・博士論文の審査に合格している者		
修了必要単位の合計からの不足単位数があり、修士論文・博士論文の審査も合格していない者	所定額	一貫制博士課程は 5 年次所定額

※「修了必要単位の合計からの不足単位数」は、前の学期の終了時に算出したものを基準とする。

※在籍中に休学・留学した場合の学費については、理工学術院統合事務所で問い合わせること。

(3) 納入方法

学費等の納入方法は、事前に申請をしたゆうちょ銀行を含む全国の金融機関指定口座からの口座振替となる。この口座は入学手続時に申請をしたものである。

なお、事前に「口座振替のお知らせ」が学費負担者宛てに送付されるので、必ず確認すること。また、金融機関や口座等に変更が生じた場合は、すぐに理工学術院統合事務所に申し出ること。

学費は、それぞれ指定の期日までに納入しなければならないが、特別な事情でそれが不可能な場合は、理工学術院統合事務所に相談すること。

(4) 抹 籍

学費の納入を怠った場合は抹籍（本学学生の身分を失う）となり、最後に学費が納入された学期末に遡って退学となる。この場合、在学年数および成績の一部が無効となる。なお、特別の事情により自動的に抹籍となる日（以下参照）以前に離籍を希望する場合は、理工学術院統合事務所へ相談すること。

	納入期限	自動的に抹籍となる期日	退学とみなす期日
春学期学費	5月1日	9月20日	3月31日
秋学期学費	10月1日	翌年3月31日	9月20日

14 共通科目の学科目配当表

理工学術院 3 研究科（基幹理工学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科）の共通科目を以下の通り設置する。

【修士課程】

大学院共通科目

学科目名	単位数	開講学期		担 当	
		春	秋	研究科	専攻
解析の基礎数学 1	2	○		基幹理工学	数学応数
解析の基礎数学 2	2		○		
確率偏微分方程式特別講義	2	集中			
幾何学の基礎数学 1	2	○			
現代数学概論 A	2	○			
現代数学概論 B	2		○		
現代数学概論 C	2		○		
現代数学概論 D	2	○			
現代数学概論 E	2		○		
数学と文化史特論	2		○		
数学史特論	2	○			
年金数理概論	2		○		
非線形方程式の計算機援用解析	2	○			
非線形力学特別講義	4	集中	集中		
流体数学特別講義	4	集中	集中		
伝熱工学	2	○			機航
幾何学の基礎数学 2	2	○			
IoT システム設計	3	○			情報・通信
自然エネルギー論	2		○	創造理工学	建築
Advanced Topics in Robots and Systems A	2	○			総合機械
Advanced Topics in Robots and Systems B	2		○		
Fluid Mechanics of Computing	2	集中			
Seminar on Sensing in Embodiment Informatics A	4	○			
Seminar on Sensing in Embodiment Informatics B	4		○		
環境ビジネス論	2		○		
人間中心機械概論	2	○			
知的所有権概論 A	2	○			
知的所有権概論 B	2		○		
流体構造連成系応用力学特論（構造力学編）	2		○		
流体構造連成系応用力学特論（流体編）	2		○		
Computational Fluid Mechanics	2		○		
環境学特論 B	2		○		建設 経営 D
複雑系とネットワーク科学	1	集中			
計算生物物理学特論	2		○	先進理工学	物理応物
原子核概説	2	○			
場の古典論の数学的基礎	2		○		
統計力学概説	4	○	○		
非平衡系物理学特論 A	2		○		
非平衡系物理学特論 B	2		○		
量子情報理論	2	○			
量子力学の数学的基礎	2	○			
量子論特論	2	○			
化学物質リスクマネジメント	1		秋Q		応化
社会技術革新学	1	集中			
先進理工技術経営	2		○		
知的所有権特論	1		集中		

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目履修生

I 特 徴	学科目名	単位数	開講学期		担 当	
			春	秋	研究科	専攻
II 沿革と概要	神経科学の最前線	2		○	先進理工学	生医
III 研究科要項	先端生命医科学特論	2	○			
	脳科学講義A	2		○		
IV 学生生活	脳科学講義B	2	○			電生
	先進理工海外プロジェクト	3	集中	集中		
V 付 録	総合ナノ理工学特論	2	○			ナノ
	マテリアルズインフォマティクス α	1		秋Q		先理
	マテリアルズインフォマティクス β	1		集中		
	Advanced Technical Presentation	1	○		英語教育センター	
	Advanced Technical Reading and Writing 1	1		○		
	Advanced Technical Reading and Writing 2	1		○		
1. 履修方法	Professional Communication 1	1	○			
	Professional Communication 2	1		○		
2. 学 位	Workplace English 1	1	○			
	Workplace English 2	1		○		
3. 先取り履修	計算科学クラスター演習	2	○			
4. 後取り履修	先端物性計測演習	2	○			
	インターンシップ	2	○	○		
5. ユニット制度	ボランティア	1	○	○		
6. 専修コース制度						

※ Qはクォーターの略。

人間的力量科目（ビジネス創出）（グローバルエデュケーションセンター設置科目）

	学科目名	単位数	開講学期	
			春	秋
7. コア科目推奨科目	起業特論A：トップリーダーマネジメント	1	春Q	
8. 実情情報学コース	起業特論B：企業内新規事業開発	1	夏Q	
9. 数物系科学コース要項	データビジネスクリエーション α	1		秋Q
10. 演習・実験	Advanced Course on Entrepreneurship D	1		冬Q
11. インターンシップ	博士実践特論A：イノベーションリーダーシップ	2	集中	
12 ボランティア	博士実践特論B：産業イノベーションとキャリアデザイン	1		冬Q
	博士実践特論S：ロジカルコミュニケーション	2	春Q	
13. 学 費	グローバルビジネスコミュニケーション基礎	1		集中
	グローバルビジネスコミュニケーション上級	1		集中
14. 共通科目	CSR マネジメント実践	2		○
	イノベーション概論 α ：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	1		秋Q
15. 専攻別案内	イノベーション概論 β ：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	1		冬Q
	イノベーションとテクノロジー基礎 α ：人工知能・先端ロボットテクノロジーの基礎とスタートアップを学ぶ	1	春Q	
建築	Innovation and Technology Fundamentals β	1	夏Q	
	イノベーションとテクノロジー実践 α ：人工知能・先端ロボットテクノロジー実践	1		秋Q
総合機械	Innovation and Technology Practice β	1		冬Q
経営システム	起業の技術（12 Essentials）	2	夏Q	
	実践・起業インターン（REAL）I	2		○
経営デザイン	実践・起業インターン（REAL）II	2	○	
	人工知能とビジネスモデル創出 α	1	春Q	
建設	Business Model Creation with AI Technologies β	1	夏Q	
	イノベーション創出思考法 1 02	1		集中
地球資源	イノベーション創出思考法 1 01	1	集中	
	イノベーション創出思考法 2 02	1		集中
16. 教職免許	イノベーション創出思考法 2 01	1	集中	
17. 授業時間帯	ビジネスアイデア創出法	1		秋Q
	データビジネスクリエーション β	2		冬Q
18. レポート・論文作成	デザインシンキング 01	1	集中	
	デザインシンキング 02	1		集中
19. 成績の表示	ビジネスアイデア・デザイン（BID）	2	春Q	
	ビジネスモデル仮説検証（エッセンシャル） 02	2		集中
20. 科目専履修生	ビジネスモデル仮説検証（エッセンシャル） 01	2	集中	
	ビジネスモデル仮説検証（プレミアム） 01	4		集中
	イノベーション人材になるためのコーチング研修（ベーシック）	1	春Q	
	AI ビジネスクリエーション α	1	集中	
	AI Business Creation β	1		集中

※ Qはクォーターの略。

【博士後期課程】

研究倫理系科目

学科目名	単位数	毎週授業時間数		担 当	
		春	秋	研究科	専攻
研究倫理概論A	1	集中		社会文化領域	
研究倫理概論B	1		集中		
Ethics and Research	1	春Q		国際教育センター	

※ Qはクォーターの略。

英語系科目

学科目名	単位数	毎週授業時間数		担 当	
		春	秋	研究科	専攻
Doctoral Student Technical Writing	1	集中 ○		英語教育センター	
Doctoral Student Presentation Skills	1		集中		

産業社会系／教養系科目

学科目名	単位数	毎週授業時間数		担 当	
		春	秋	研究科	専攻
異文化理解の心理学	1	夏Q		社会文化領域	
経済学概論A	1	春Q			
経済学概論B	1	夏Q			
現代世界の貧困問題	1	春Q			
現代日本の貧困問題	1	夏Q			
国際知財政策概論	1	夏Q			
社会学的研究と方法	1	夏Q			
社会学的思考と方法	1	春Q			
組織と集団の心理学	1	春Q			
地域社会論1	1	春Q			
地域社会論2	1	夏Q			
Advanced Topics in History of Science	1	春Q		国際教育センター	
Advanced Topics in Philosophy and Religion	1		冬Q		
Advanced Topics in Philosophy of Science	1	春Q			
Advanced Topics in Social and Political Theory	1		秋Q		
Graduate History and Philosophy of Science	2		○		
Japanese Thought and Culture	1	夏Q			
Philosophy of Education	1		秋Q		
Science and Education	1		冬Q		
Science and Rhetoric	1	夏Q			

※ Qはクォーターの略。

人間的力量科目（ビジネス創出）（グローバルエデュケーションセンター設置科目）

学科目名	単位数	開講学期	
		春	秋
起業特論A：トップリーダーマネジメント	1	春Q	
起業特論B：企業内新規事業開発	1	夏Q	
データビジネスクリエーション α	1		秋Q
Advanced Course on Entrepreneurship D	1		冬Q
博士実践特論A：イノベーションリーダーシップ	2	集中	
博士実践特論B：産業イノベーションとキャリアデザイン	1		冬Q
博士実践特論S：ロジカルコミュニケーション	2	春Q	
グローバルビジネスコミュニケーション基礎	1		集中
グローバルビジネスコミュニケーション上級	1		集中
CSR マネジメント実践	2		○
イノベーション概論 α：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	1		秋Q
イノベーション概論 β：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	1		冬Q
イノベーションとテクノロジー基礎 α：人工知能・先端ロボットテクノロジーの基礎とスタートアップを学ぶ	1	春Q	
Innovation and Technology Fundamentals β	1	夏Q	
イノベーションとテクノロジー実践 α：人工知能・先端ロボットテクノロジー実践	1		秋Q
Innovation and Technology Practice β	1		冬Q
起業の技術（12 Essentials）	2	夏Q	

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 履修方法

2. 学 位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目推奨科目

8. 実体情報学コース

9. 数物系科学コース要項

10. 演習・実験

11. インターンシップ

12. ボランティア

13. 学 費

14. 共通科目

15. 専攻別案内

建築

総合機械

経営システム

経営デザイン

建設

地球資源

16. 教職免許

17. 授業時間帯

18. レポート・論文作成

19. 成績の表示

20. 科目履修生

I 特 徴	学科目名	単 位 数	開講学期	
			春	秋
II 沿革と概要	実践・起業インターン（REAL）Ⅰ	2		○
	実践・起業インターン（REAL）Ⅱ	2	○	
III 研究科要項	人工知能とビジネスモデル創出 α	1	春Q	
	Business Model Creation with AI Technologies β	1	夏Q	
IV 学生生活	イノベーション創出思考法 1 02	1		集中
	イノベーション創出思考法 1 01	1	集中	
V 付 録	イノベーション創出思考法 2 02	1		集中
	イノベーション創出思考法 2 01	1	集中	
	ビジネスアイデア創出法	1		秋Q
	データビジネスクリエーション β	2		冬Q
	デザインシンキング 01	1	集中	
	デザインシンキング 02	1		集中
1. 履修方法	ビジネスアイデア・デザイン（BID）	2	春Q	
	ビジネスモデル仮説検証（エッセンシャル）02	2		集中
2. 学 位	ビジネスモデル仮説検証（エッセンシャル）01	2	集中	
	ビジネスモデル仮説検証（プレミアム）01	4		集中
3. 先取り履修	イノベーション人材になるためのコーチング研修（ベーシック）	1	春Q	
4. 後取り履修	AI ビジネスクリエーション α	1	集中	
	AI Business Creation β	1		集中

※ Qはクォーターの略。

随意科目

※単位修得した場合、成績証明書に記載されるが、各専攻の修了・学位取得必要単位数には非算入（修了・学位取得必要単位の詳細は各専攻の「履修方法」を要確認）

	学科目名	単 位 数	毎週授業時間数		担 当	
			春	秋	研究科	専攻
9. 数物系科学 コース要項	解析の基礎数学 1	2	○		基幹	数学応数
10. 演習・実験	解析の基礎数学 2	2		○		
	確率偏微分方程式特別講義	2	集中			
11. インターン シップ	幾何学の基礎数学 1	2	○			
12. ボランティア	幾何学の基礎数学 2	2	○			
	非線形方程式の計算機援用解析	2	○			
13. 学 費	非線形力学特別講義	4	集中	集中	創造	総合機械 経営D
14. 共通科目	流体数学特別講義	4	集中	集中		
	Fluid Mechanics of Computing	2	集中			
15. 専攻別案内	流体構造連成系応用力学特論（構造力学編）	2		○		
建築	流体構造連成系応用力学特論（流体編）	2		○		
総合機械	Computational Fluid Mechanics	2		○		
経営システム	複雑系とネットワーク科学	1	集中		先進	物理応物
経営デザイン	場の古典論の数学的基礎	2		○		
建設	非平衡系物理学特論 A	2		○		
地球資源	非平衡系物理学特論 B	2		○		
16. 教職免許	量子情報理論	2	○			
17. 授業時間帯	量子物理学特別講義	4	集中	集中		
18. レポート・ 論文作成	量子力学の数学的基礎	2	○		英語教育センター	
19. 成績の表示	量子論特論	2	○			
20. 科目専履修生	Professional Communication 1	1	○			
	Professional Communication 2	1		○		
	Workplace English 1	1	○			
	Workplace English 2	1		○		

建築学専攻

建築学専攻では、2007年度から日本技術者教育認定機構（JABEE）の修士課程プログラムの認定基準に対応する教育内容へとカリキュラムを発展させてきた。建築学専攻は、建築史・建築計画・都市計画の研究指導を行う建築芸術分野と、環境工学・建築構造・建築生産の研究指導を行う建築工学分野からなる。博士後期課程においては、その専門領域研究者として独立して研究する能力を養成することを共通の目的としているが、修士課程における教育目標は、分野によりまた領域により特質をもつ。

建築芸術分野は、建築の変革と創造の理論を歴史的に考究する建築史、建築における現代の創造そのものを命題とする建築設計・計画、建築の集合としての都市に視点をあてる都市計画の、それぞれが各々の命題と研究方法の独自性を持ちつつ、修士課程においては、専門的深化に閉ざされず、建築に対する計画者としての広い視野と高い見識の養成を等しく目標としているのが特質である。修士論文、修士設計において、互いに関連し合う計画系一般としての主題が許容されているのは、この反映である。

建築工学分野は、それぞれ独自の性格をもつ。環境工学は、建築・都市における快適で健康な環境と建築設備システムの計画法、火災・水害等の建築災害の理論化と防災計画・技術の開発、脱炭素社会に向けた省エネルギー技術や環境影響評価・合意形成技術等のソフト技術の開発と計画論に取り組んでいる。建築構造では、構造材料、耐震構造、弾塑性力学、曲面構造、地盤・基礎工学、振動工学、構造制御、制震（振）構造、免震構造など、建築構造の基礎から構造設計への応用に亘る広い範囲の専門的科学技术を学ぶ。建築生産では、建築材料における新技術応用としての新素材の特性と用法、建築構造法各種の異なる目的に対応した建築構法やディテールの開発、建築生産システムと施工管理技術の開発などの実務に直結した課題に取り組む。

建築学専攻が目指す技術者像

建築学専攻では、我が国の自然環境や歴史、風土とも共生し、世界に誇れる建築文化を確立するために、豊かな生活環境を築き社会に提供していく立場から、世界の多様な地域に固有の伝統と文化に根ざす、広義の「建築デザイン」を実践する技術者の育成を目指している。

修士課程芸術分野修了時点では、建築・都市デザインに関する深い知識に基づき、自ら課題を発見・分析し、実践的に解決することで、国際的なフィールドでリーダーシップを発揮できる技術者の育成を目指す。また、修士課程工学分野修了時点では建築・都市のデザイン、芸術、歴史に関する基礎的な知識に加え、エンジニアリングに関する深い知識に基づいて、自ら課題を発見・分析し、実践的に解決することで、国際的なフィールドでリーダーシップを発揮できる技術者の育成を目指す。

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付録

1. 履修方法

2. 学 位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目推奨科目

8. 実体情報学コース

9. 数物系科学コース要項

10. 演習・実験

11. インターンシップ

12. ボランティア

13. 学 費

14. 共通科目

15. 専攻別案内

建築

総合機械

経営システム

経営デザイン

建設

地球資源

16. 就職免許

17. 授業時間帯

18. レポート・論文作成

19. 成績の表示

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

建築芸術分野 学習・教育の目標

2007 年度から、建築芸術分野では UNESCO/UIA 建築教育憲章（1996 年制定）に基づき、また日本技術者認定機構（JABEE）による学部教育、ならびに大学院修士課程教育の基準に対応する学習・教育の目標を以下の通り定めている。なお、学習・教育の目標（A）～（H）は、創造理工学部建築学科の教育カリキュラムに対応するものである。

- (I) 「早稲田建築」の伝統に学び、現代社会が建築・都市・環境に求めるものに応える能力を培う
- (J) 地球的視野と地域固有の歴史風土を理解する視点を併せもち、国際的なフィールドで貢献する能力を養う
- (K) 建築・都市デザインの実務に触れる機会を持ち、建築家および関連する職能と、その現代社会において果たすべき使命を理解する
- (L) 建築・都市デザインの芸術性および歴史性に関する深い知識に基づいて、創造的な提案をする能力を身につける
- (M) 建築・都市および関連分野の、先端的な知識を積極的に吸収する能力を培う
- (N) 建築・都市および関連分野の既往の知見に基づき、生活や地域に根差して幅広く課題を発見し、調査・分析する能力を培う
- (O) 教員および学生相互の協働作業を通して、建築設計・計画の問題を実践的に解決する能力を培う
- (P) 自らのアイデアを広く社会に提案し、異分野の専門家、ならびに一般市民との協働の中でリーダーシップを発揮する能力を培う

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目専履修生

建築工学分野 学習・教育の目標

- (Q) 「早稲田建築」の伝統に学び、現代社会が建築・都市・環境に求めるものに応える能力を培う
- (R) 地球的視野と地域固有の歴史風土を理解する視点を併せもち、国際的なフィールドで貢献する能力を養う
- (S) 建築・都市デザインおよびエンジニアリングの実務に触れる機会を持ち、関連する職能と、その現代社会において果たすべき使命を理解する
- (T) 建築・都市デザイン、芸術、歴史、およびエンジニアリングに関する深い知識に基づいて、創造的な提案をする能力を身につける
- (U) 建築・都市および環境、構造、生産分野の、先端的な知識を積極的に吸収する能力を培う
- (V) 建築・都市および環境、構造、生産分野の既往の知見に基づき、生活や地域に根差して幅広く課題を発見し、調査・分析する能力を培う
- (W) 教員および学生相互の協働作業を通して、建築に関する問題を実践的に解決する能力を培う
- (X) 自らのアイデアを広く社会に提案し、異分野の専門家、ならびに一般市民との協働の中でリーダーシップを発揮する能力を培う

各研究指導の概要

◆建築史（建築芸術分野）

日本、アジア、エジプト、西洋を対象とした古代から近・現代までの建築史、集落史および文化財保存・修復の研究を行っている。

建築は環境の中に人間生活の利便性、安全性、快適性そして創造性などを獲得するためにつくられる。

従って、工学技術からファインアートまで、あるいは自然科学から人文科学までの分野が相互に関連し合う。建築学の基礎的学習とともに、大学院における高度な理論的＝実践的探究が建築史学的方法によって遂行される根拠は、建築の本質である多様性と総合性が人間生活に立脚し、歴史的に形成されていることにある。

◆建築計画（建築芸術分野）

建築設計者の視点に立って、計画の理念や方法を学ぶ一方、国内外の建築家についての作家論を展開したり、建築の利用者の立場から、施設の使われ方の調査を行い設計にフィードバックする方法などを探る。具体的には、文献研究、調査研究さらに実際の設計制作を通して各自の建築の考え方を築くとともに、論文発表や設計競技への参加、指導教員のもとないしは学外での実務訓練（インターンシップ）により技術と創造性を高め、広く社会の中から問題を発見して、それに対して創造的な提案をもって応える能力を培う。

◆都市計画（建築芸術分野）

早稲田の都市計画は先鋭的に都市への提案を試みた建築・都市計画家である武基雄と吉阪隆正によって1966年に創設された。以来、戸沼幸市が受け継ぎ人間尺度に基礎を置きながら、地球大の視野から、人間居住の場としての集落・都市の未来像を追求し、社会へ提案し続けている。

調査・研究・計画の対象地は日本を越えて広くアジア地域へ及んでいるが、いずれの場合も現地での研究・実習を原則としている。修了者は十数ヶ国からの留学生とともに、多くの博士学位取得者を含む三百余名にのぼり、国境を越えて各方面で活躍している。現在開設されている3つの研究室は相互に連携をとりながら活動しているが、都市設計・計画論、都市景観設計、住環境・居住地設計、まちづくり・都市再生、制度技術論、都市計画史、都市・地域振興計画等を主要課題として研究に取り組んでいる。

◆環境工学（建築工学分野）

環境工学は、建築や都市の空間を、人間の生活や活動の場として成り立たせるための技術・計画手法・システムを対象とする分野である。SDGs（Sustainable Development Goals）の達成を建築分野から推進する。早稲田建築では、大隈講堂等に利用された音響設計等に始まり、空調設計、建築設備の基礎理論、都市環境などを通じて長い伝統を持ち、現在では、快適で健康な空間を作るための温熱空気環境の制御、環境調整のためのエネルギー・インフラの構築、複雑化・巨大化する都市や建築の安全性の確保をはじめ、居住空間のためのエネルギーや建築資源の消費が都市・地球環境の荒廃を招く悪循環の防止など、取り組んでいる課題は住宅レベルから都市レベルまで多岐にわたる。研究は、対象となる環境現象の計測・予測（建築・都市の温熱環境、火災・水害、人間行動）、都市・建築の実態調査、高度建築設備システム、省エネルギー、再生可能資源・エネルギーの活用システムの開発、脱炭素化技術、安全性の向上や建築の新しい可能性を開く環境・防災技術の開発などのハードから、人間の心理・生理評価を含む環境分析・評価、合意形成技術などのソフトに及び、環境から見た建築・都市の計画論の確立を目指している。

◆建築構造（建築工学分野）

建築構造は、建物の安全・快適性に密接に係わる技術であり、安全・快適な建築を実現していくうえで諸課題をさまざまな視点から研究・考察している。近年、「建築構造」として分類される学問分野は非常に多岐に亘っている。従って、修士課程において学んでおくべきことも数多い。研究テーマとしても、

I 特徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

力学を共通のキーワードとする土木工学分野、機械工学分野はもちろん、最近では電気工学分野の一部とも密接に関連するものも少なくない。建築構造では、地震工学、構造材料、耐震構造、振動工学、弾塑性力学、曲面構造、土質・基礎工学から、構造信頼性、構造制御・モニタリング、制震構造、免震構造に至るまで、幅広い研究指導が行われる。

◆建築生産（建築工学分野）

建築生産では、建築材科学・建築構造法・建築生産マネジメントに関する教育・研究を行っている。また、これらの諸分野に係わる調査・研究を通じて、建築生産の在り方について追究するとともに、新技術の開発を目指して努力している。建築材科学では、材料の性質を正しく理解し、特性を生かした適用の道を探るとともに、設計・施工・維持管理の各段階において、材料に対する注意点の把握に努めている。建築構造法では、各種の構造に対する理解を深めるとともに、建築部位の構成原理を追求し、建築物の時間的変化にかかわる事象、およびそれに対応したハード面およびソフト面での技術開発に努めている。建築施工法について、大規模工事を中心に、施工に関する先端技術や、工事管理をめぐる諸技術の体系化について研究を進めている。建築生産マネジメントでは、合理化・近代化の目標を掲げて、建築生産の仕組みや職能に起こりつつある変革の動きを探り、これに必要なとなる建設産業研究および管理手法の開発を行っている。

【修士課程】

建築学専攻履修方法

1. 指導教員が担当する演習科目は、在学年度において必ず履修しなければならない。但し、自己の研究に相応しい演習を行うため、指導教員及び科目担当教員の許可を受けてほかの教員が担当する演習科目を履修した場合には、その演習科目をもってこれに代えることができる。
2. 演習科目は13単位以上履修してもその分は修了必要単位数に算入しない。
3. コア科目及び推奨科目の履修にあたっては、自己の所属する研究指導から指示された履修方法に従うこと。
4. 先端建築学論 A 及び先端建築学論 B は必修である。
5. 建築学専攻芸術分野では、JABEE（修士課程）の修了生となる学生が、課程内で履修すべき必修科目が別途定められているので、それに従うこと（「7. コア科目・推奨科目」参照）。
6. 建築学専攻芸術分野では、JABEE（修士課程）の修了生となる学生が、課程内に大学間、箇所間などの交換協定により国内外の他大学で習得した単位の認定方法が、別途定められているので、それに従うこと。
7. 「一級建築士」の登録に必要な実務経験の1年または2年に対応した「先端建築実務実習コース（1）～（4）」が設置されているので、それに従うこと。（「6. 「専修コース」制度」参照）

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目専履修生

(Ⅰ) 研究指導

(修士課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
1. 建築芸術分野	比較建築史方法研究 歴史工学・建築表現史研究 建築社会論研究 建築意匠論研究 建築情報論研究 建築空間論研究 景観・地域デザイン研究 都市空間・環境デザイン研究 建築芸術論研究 市街地再生デザイン研究 まちづくり・都市論研究 アーバンテック研究	小岩 正樹 中谷 礼仁 渡邊 大志 宮本 佳明 小林 恵吾 藤井 由理, 古谷 誠章 後藤 春彦 有賀 隆 赤坂 喜顕, 古谷 誠章 矢口 哲也 有賀 隆 吉村 靖孝
2. 建築工学分野	建築防災研究 建築環境研究 連続体力学研究 建築生産マネジメント研究 建築構法研究 建築材料研究 環境メディア研究 建築構造デザイン研究 曲面構造研究	田邊 新一 田邊 新一 前田 寿朗 石田 航星 山田 宮土理 輿石 直幸 高口 洋人 早部 安弘 吉中 進

(Ⅱ) 講義科目 科目の前に付した△印は隔年講義、年度による開講科目は時間割等を参照のこと。

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
建築史特論	2		○
建築表現特論	2	○	
近代建築史特論	2	○	
建築社会特論・建築と社会	2	○	
建築意匠特論・建築家論	2	○	
建築情報特論・建築設計と情報	2		○
建築空間特論・建築と都市	2		○
景観・地域デザイン特論	2	春Q	
都市空間・環境デザイン特論	2	春Q	
建築防災特論	2	○	
建築環境特論	2		○
△建築環境工学特論	2	○	

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内

建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴	学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
			春	秋
II 沿革と概要	△建築設備工学特論	2		○
III 研究科要項	△自然環境特論	2	○	
IV 学生生活	連続体力学特論	2	○	
V 付 録	軽量構造特論	2		○
	地盤基礎構造特論	2		○
	地震学特論	2	○	
1. 履修方法	建築生産マネジメント特論	2	○	
2. 学 位	建築構法計画特論	2	○	
3. 先取り履修	建築材料特論	2		○
4. 後取り履修	建築生産特論	2	○	
5. ユニット制度	建築生産システム特論	2		秋Q
6. 専修コース 制度	建築施工特論	2		○
7. コア科目 推奨科目	先端建築学論A	2	○	
8. 実体情報学 コース	先端建築学論B	2		○
9. 数物系科学 コース要項	建築企画特論	2	○	
10. 演習・実験	環境メディア特論	2	○	
11. インターン シップ	鉄筋コンクリート構造特論	2		○
12. ボランティア	ランドスケープ特論	2		集中
13. 学 費	デジタル環境設計特論	2	○	
14. 共通科目	建築芸術特論	2	○	
15. 専攻別案内	市街地再生デザイン特論	2		秋Q
建築	建築構造デザイン特論	2	○	
総合機械	地震リスクマネジメント	2	○	
経営システム	明豊ファシリティワークス株式会社 寄附講座 コンストラク ション・マネジメント特論	2	夏Q	
経営デザイン	曲面構造特論	2	○	
建設	設計演習D	2	○	
地球資源	設計演習E	2		○
16. 教職免許	設計演習F	2	○	
17. 授業時間帯	設計演習G	2	○	
18. レポート・ 論文作成				
19. 成績の表示				
20. 科目専属性				

※ Q はクォーターの略。

(Ⅲ) 演習科目 科目の前に付した◇印はインターシップ関連演習科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
比較建築史演習 A	3	○	
◇比較建築史演習 B	3		○
比較建築史演習 C	3	○	
◇比較建築史演習 D	3		○
建築史演習 A	3	○	
◇建築史演習 B	3		○
建築史演習 C	3	○	
◇建築史演習 D	3		○
◇建築社会論演習 A	3	○	
◇建築社会論演習 B	3		○
◇建築社会論演習 C	3	○	
◇建築社会論演習 D	3		○
◇建築意匠論演習 A	3	○	
◇建築意匠論演習 B	3		○
◇建築意匠論演習 C	3	○	
◇建築意匠論演習 D	3		○
◇建築情報論演習 A	3	○	
◇建築情報論演習 B	3		○
◇建築情報論演習 C	3	○	
◇建築情報論演習 D	3		○
◇建築空間論演習 A	3	○	
◇建築空間論演習 B	3		○
◇建築空間論演習 C	3	○	
◇建築空間論演習 D	3		○
◇景観・地域デザイン演習 A	3	○	
◇景観・地域デザイン演習 B	3		○
景観・地域デザイン演習 C	3	○	
景観・地域デザイン演習 D	3		○
◇都市空間・環境デザイン演習 A	3	○	
◇都市空間・環境デザイン演習 B	3		○
都市空間・環境デザイン演習 C	3	○	
都市空間・環境デザイン演習 D	3		○
◇建築防災演習 A	3	○	

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴	学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
			春	秋
II 沿革と概要				
III 研究科要項	◇建築防災演習B	3		○
IV 学生生活	建築防災演習C	3	○	
V 付 録	建築防災演習D	3		○
	◇建築環境演習A	3	○	
	◇建築環境演習B	3		○
	建築環境演習C	3	○	
1. 履修方法	建築環境演習D	3		○
2. 学 位	◇連続体力学演習A	3	○	
3. 先取り履修	◇連続体力学演習B	3		○
4. 後取り履修	連続体力学演習C	3	○	
5. ユニット制度	連続体力学演習D	3		○
6. 専修コース制度	建築生産マネジメント演習A	3	○	
7. コア科目 推奨科目	◇建築生産マネジメント演習B	3		○
8. 実体情報学 コース	建築生産マネジメント演習C	3	○	
9. 数物系科学 コース要項	◇建築生産マネジメント演習D	3		○
10. 演習・実験	◇建築構法演習A	3	○	
11. インターン シップ	建築構法演習B	3		○
12. ボランティア	◇建築構法演習C	3	○	
13. 学 費	建築構法演習D	3		○
14. 共通科目	建築材料演習A	3	○	
15. 専攻別案内	◇建築材料演習B	3		○
建築	建築材料演習C	3	○	
総合機械	建築材料演習D	3		○
経営システム	◇環境メディア演習A	3	○	
経営デザイン	◇環境メディア演習B	3		○
建設	環境メディア演習C	3	○	
地球資源	環境メディア演習D	3		○
16. 教職免許	◇建築芸術論演習A	3	○	
17. 授業時間帯	◇建築芸術論演習B	3		○
18. レポート・ 論文作成	◇建築芸術論演習C	3	○	
19. 成績の表示	◇建築芸術論演習D	3		○
20. 科目専履修生	◇市街地再生デザイン演習A	3	○	
	◇市街地再生デザイン演習B	3		○
	市街地再生デザイン演習C	3	○	

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
市街地再生デザイン演習D	3		○
◇建築構造デザイン演習A	3	○	
◇建築構造デザイン演習B	3		○
建築構造デザイン演習C	3	○	
建築構造デザイン演習D	3		○
◇アーバンテック演習A	3	○	
◇アーバンテック演習B	3		○
アーバンテック演習C	3	○	
アーバンテック演習D	3		○
曲面構造演習A	3	○	
曲面構造演習B	3		○
曲面構造演習C	3	○	
曲面構造演習D	3		○

(Ⅳ) 実習科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
建築史調査・実習	2		○

(Ⅴ) 随意科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
先端建築実務実習A 春期	4	○	
先端建築実務実習A 秋期	4		○
先端建築実務実習B	16	○	○

【博士後期課程】

建築学専攻履修方法

1. 所定の科目群から5単位を修得しなければならない。
2. 研究倫理系科目のいずれか1単位を必ず履修しなければならない。
3. 英語系科目、産業社会系／教養系科目、人間的力科目（ビジネス創出）および専攻設置科目から4単位を履修しなければならない。
4. 上記3のうち、大学院修士課程の専攻設置科目を後取り履修として2単位まで算入することができる。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

(I) 研究指導

(博士後期課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
1. 建築芸術分野	比較建築史方法研究 歴史工学・建築表現史研究 建築社会論研究 建築意匠論研究 建築情報論研究 建築空間論研究 景観・地域デザイン研究 都市空間・環境デザイン研究 市街地再生デザイン研究 アーバンテック研究	小岩 正樹 中谷 礼仁 渡邊 大志 宮本 佳明 小林 恵吾 藤井 由理, 古谷 誠章 後藤 春彦 有賀 隆 矢口 哲也 吉村 靖孝
2. 建築工学分野	建築防災研究 建築環境研究 連続体力学研究 建築生産マネジメント研究 建築構法研究 建築材料研究 環境メディア研究 建築構造デザイン研究 曲面構造研究	田邊 新一 田邊 新一 前田 寿朗 石田 航星 山田 宮土理 興石 直幸 高口 洋人 早部 安弘 吉中 進

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目専履修生

(II) 専攻設置科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
建築学特別演習 A	1	○	
建築学特別演習 B	1		○

総合機械工学専攻

総合機械工学専攻では、機械工学体系の総合化と再構築を企図すると共に、科学的究明と学の活用によって社会に貢献する工学の真髄を極めることで、新しい視点での特色ある社会的実践および新しい機械工学が進むべき道の開拓を目指している。

教育研究では、将来を意識した発見的科学与可及的速やかに社会に貢献できる実現型工学をバランスよく配置して展開できる教育研究システムを構築し、研究・開発・実験・実証・実用化からなる一連のプロセスに学生自身が参加することで、現場主義を貫きつつ、学の究明と活用に十分実力を持った人材を育成する。それにより、専門的な知恵と知識を備える高度専門職業人ならびに社会に貢献できる実務者や研究者を養成する。

本専攻は、デザイン・共創部門、ロボティクス・医療福祉部門、環境・エネルギー部門の3つの部門から構成される。また、関連分野として、先進理工学研究科の生命理工学専攻、独立大学院環境・エネルギー研究科がある。

各部門の概要

◆デザイン・共創部門

技術に定位を置く機械工学の中核として設計、広くはデザインと呼ばれる人間の行為がある。この部門では、価値観や背景の異なる多様な人間の生活（営み）の場に調和した教育・研究を展開する。すなわち、コンピュータを駆使した機械設計の基本的な教育・研究を基に人間の生活の場に共存在（共創）技術やデザイン技術の開発を目指した新しい学問領域を開拓していく。具体的にはこの新しい視点に立つ各種の機械デザイン、今後、急速な発展が見られる宇宙構造物のデザイン、コミュニケーションシステムのデザイン、さらに広くはコミュニティデザインも目指す。

◆ロボティクス・医療福祉部門

超高齢社会を迎えた日本を始めとした先進各国では、「健康」が最大の関心事となっている。この部門では、工学のみならず医学、生理学、心理学も含めた学際的アプローチにより、人間支援ロボット、福祉機器、手術支援システム、人工臓器などの先端バイオメカトロニクス技術を探求することで、高い“生活の質”を保証するシステムの開発研究を行う。具体的には、ヒューマノイドロボット、リハビリ支援システム、低侵襲手術支援システム、人工心臓などのシステム開発、およびそれらの基盤となる人間の運動・制御・認知特性および生体機能の解明などを進める。

◆環境・エネルギー部門

種々の機械・装置の設計やその研究開発に当たっては、地球規模の環境や生活環境の保全に配慮して、資源・エネルギーの有効利用を図ることが益々要求される。すなわち21世紀が環境の世紀といわれる所以でもある。この部門では、特に熱エネルギーとその変換にかかわる基礎現象ならびにこれを応用した機械装置を対象に、教育・研究を通じて環境・エネルギーに係わる工学的諸問題を扱う高度な技術者、ならびに研究者を養成することを目指す。特に環境・エネルギー分野の研究の広がり配に配慮して、西早稲田キャンパスのみならず本庄早稲田地区を社会実験場として位置づけている環境関連の独立研究科やプロジェクト研究所、環境総合研究センター、他研究科などとも連携している。これらのプロジェクトに学生自ら参加することによって、挑戦的な問題の解明や解決法を学び、かつ科学的・工学的両手法を駆使する人材を養成する。

【修士課程】

総合機械工学専攻履修方法

1. 指導教員が担当する演習科目は、在学年度において必ず履修しなければならない。
2. 演習科目は13単位以上履修してもその分は修了必要単位数に算入しない。

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付録

1. 履修方法

2. 学 位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目推奨科目

8. 実体情報学コース

9. 数物系科学コース要項

10. 演習・実験

11. インターンシップ

12. ボランティア

13. 学 費

14. 共通科目

15. 専攻別案内

建築

総合機械

経営システム

経営デザイン

建設

地球資源

16. 教職免許

17. 授業時間帯

18. レポート・論文作成

19. 成績の表示

20. 科目履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

(I) 研究指導

(修士課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
1. デザイン・共創部門	輸送機器・エネルギー材料工学研究 システムデザイン研究 共創インタフェース研究 輸送機械生産加工学研究 マイクロ・ナノ工学研究 高機能性熱防御システム研究 メカニカルインタラクションデザイン研究 デザインジェネレーション研究	吉田 誠 宮下 朋之 上杉 繁 岡根 利光, 吉田 誠 梅津 信二郎 梅津 信二郎, 鈴木 俊之 石村 康生
2. ロボティクス・医療福祉部門	知能機械学研究 医用機械工学応用研究 バイオ・ロボティクス研究 ニューロ・ロボティクス研究 バイオメカニカルシステム研究 フィールドロボティクス研究 ヒューマンロボットインタフェース研究	石村 康生, 樋口 健, 宮下 朋之 石村 康生, 峯杉 賢治, 宮下 朋之 菅野 重樹 岩崎 清隆, 岡崎 賢, 新浪 博士, 八木 高伸 石井 裕之, コセンティノ サラ, 高西 淳夫, 藤本 浩志 岩田 浩康 菅野 重樹 菅野 重樹, 宮下 朋之, 横井 一仁 岩田 浩康, 上杉 繁, シュミッツ アレクサンダー, 菅野 重樹 大谷 淳 石井 裕之 中垣 隆雄 草鹿 仁 関谷 弘志 滝沢 研二 滝沢 研二, テズドゥヤー タイフン 金子 成彦, 草鹿 仁 草鹿 仁, 野寄 高宏 上道 茜, 草鹿 仁 松田 佑
3. 環境・エネルギー部門	画像工学研究 アダプティブ・ロボティクス研究 エクセルギー工学研究 熱エネルギー反応工学研究 環境調和システム機器研究 流体構造連成系応用力学研究 Research on Fluid Mechanics of Computational Analysis システムズ・メカニクス研究 自動車パワートレイン研究 エネルギーシステムメカニクス研究 熱流体計測工学研究	

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源

(II) 講義科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
熱エネルギー変換工学特論	2		○
環境配慮デザイン論	2		○
エクセルギー工学特論	2	○	
熱エネルギー反応工学特論	2	○	
熱機関特論	2		○

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
自動車工学	2	○	
エンジン設計工学	2		○
知能機械学特論	2	○	
精密加工システム特論	2		○
バイオ・マイクロマシーン特論	2	○	
人間・環境センシング特論	2		○
輸送機器・エネルギー材料工学特論	2	○	
ヒューマン・インタフェース特論	2	○	
情報メディア特論	2		○
バイオ・ロボティクス特論	2	○	
開発設計工学	2		○
臓器工学特論	2		○
エネルギー最前線	2		○
宇宙構造の設計と制御	2		○
機械構造の最適化／満足化設計	2		○
構造材料生産技術	2	集中	
鉄鋼材料学特論	2	○	
宇宙構造物工学	2	○	
人間デザイン工学特論	2		○
宇宙科学技術	2		○
最先端ロボティクスにおける論文の分析および議論	4	○	○
環境調和システム機器論	2	○	
画像工学特論	2		○
マイクロ・ナノ加工特論	2		○
臨床医工学概論	2	○	
流体構造連成系応用力学特論（構造力学編）	2		○
自動車用パワートレイン開発プロセス及び開発手法	2	○	
マテリアルファンダメンタルズ	2		○
マテリアルズエンジニアリング	2		○
機械材料の力学物性	2	○	
輸送機器材料	2		集中
インダストリアルマテリアルズ	2	○	
宇宙材料学	2	○	
宇宙粒子線物理学	2	集中	
月惑星探査と科学	2	集中	
プロダクトデザイン特論	2	○	
姿勢制御工学特論	2	○	

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
デザイン科学	2		○
熱流体計測工学特論	2		○
アダプティブ・ロボティクス特論	2	○	
構造動力学特論	2	○	
流体構造連成系応用力学特論（流体編）	2		○
Computational Fluid Mechanics	2		○

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース 制度
7. コア科目 推奨科目
8. 実体情報学 コース
9. 数物系科学 コース要項
10. 演習・実験
11. インターン シップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・ 論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

（Ⅲ）演習科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
輸送機器・エネルギー材料工学演習A	3	○	
輸送機器・エネルギー材料工学演習B	3		○
輸送機器・エネルギー材料工学演習C	3	○	
輸送機器・エネルギー材料工学演習D	3		○
構造設計演習A	3	○	
構造設計演習B	3		○
構造設計演習C	3	○	
構造設計演習D	3		○
知能機械学演習A	3	○	
知能機械学演習B	3		○
知能機械学演習C	3	○	
知能機械学演習D	3		○
バイオ・ロボティクス演習A	3	○	
バイオ・ロボティクス演習B	3		○
バイオ・ロボティクス演習C	3	○	
バイオ・ロボティクス演習D	3		○
医用機械工学演習A	3	○	
医用機械工学演習B	3		○
医用機械工学演習C	3	○	
医用機械工学演習D	3		○
エクセルギー工学演習A	3	○	
エクセルギー工学演習B	3		○
熱エネルギー反応工学演習A	3	○	
熱エネルギー反応工学演習B	3		○
環境・エネルギー特別演習A	3	○	
環境・エネルギー特別演習B	3		○
人間デザイン演習A	3	○	

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
人間デザイン演習 B	3		○
人間デザイン演習 C	3	○	
人間デザイン演習 D	3		○
ニューロ・ロボティクス演習 A	3	○	
ニューロ・ロボティクス演習 B	3		○
ニューロ・ロボティクス演習 C	3	○	
ニューロ・ロボティクス演習 D	3		○
環境調和システム機器演習 A	3	○	
環境調和システム機器演習 B	3		○
画像工学演習 A	3	○	
画像工学演習 B	3		○
画像工学演習 C	3	○	
画像工学演習 D	3		○
マイクロ・ナノ加工演習 A	3	○	
マイクロ・ナノ加工演習 B	3		○
マイクロ・ナノ加工演習 C	3	○	
マイクロ・ナノ加工演習 D	3		○
流体構造連成系応用力学演習 A	3	○	
流体構造連成系応用力学演習 B	3		○
流体構造連成系応用力学演習 C	3	○	
流体構造連成系応用力学演習 D	3		○
メカニカルインタラクションデザイン演習 A	3	○	
メカニカルインタラクションデザイン演習 B	3		○
メカニカルインタラクションデザイン演習 C	3	○	
メカニカルインタラクションデザイン演習 D	3		○
高機能性熱防御システム演習 A	3	○	
高機能性熱防御システム演習 B	3		○
高機能性熱防御システム演習 C	3	○	
高機能性熱防御システム演習 D	3		○
Seminar on Fluid Mechanics of Computational Analysis A	3	○	
Seminar on Fluid Mechanics of Computational Analysis B	3		○
Seminar on Fluid Mechanics of Computational Analysis C	3	○	
Seminar on Fluid Mechanics of Computational Analysis D	3		○
アダプティブ・ロボティクス演習 A	3	○	
アダプティブ・ロボティクス演習 B	3		○
アダプティブ・ロボティクス演習 C	3	○	
アダプティブ・ロボティクス演習 D	3		○

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建 築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建 設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴	学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
			春	秋
II 沿革と概要				
III 研究科要項	システムズ・メカニクス演習 A	3	○	
IV 学生生活	システムズ・メカニクス演習 B	3		○
V 付 録	システムズ・メカニクス演習 C	3	○	
	システムズ・メカニクス演習 D	3		○
	熱流体計測工学演習 A	3	○	
	熱流体計測工学演習 B	3		○
	熱流体計測工学演習 C	3	○	
1. 履修方法	熱流体計測工学演習 D	3		○
2. 学 位	自動車パワートレイン演習 A	3	○	
3. 先取り履修	自動車パワートレイン演習 B	3		○
4. 後取り履修	自動車パワートレイン演習 C	3	○	
5. ユニット制度	自動車パワートレイン演習 D	3		○
6. 専修コース制度	エネルギーシステムメカニクス演習 A	3	○	
7. コア科目推奨科目	エネルギーシステムメカニクス演習 B	3		○
8. 実体情報学コース	エネルギーシステムメカニクス演習 C	3	○	
9. 数物系科学コース要項	エネルギーシステムメカニクス演習 D	3		○
10. 演習・実験	設計理論演習 A	3	○	
11. インターンシップ	設計理論演習 B	3		○
12. ボランティア	設計理論演習 C	3	○	
13. 学 費	設計理論演習 D	3		○

(Ⅳ) 実習科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
デザイン・共創実習 A	1	○	
デザイン・共創実習 B	1		○
生命理工学特別実習	1	集中	
先端医療現場実習	1	集中	集中
環境・エネルギー学実習 A	3	○	
環境・エネルギー学実習 B	3	○	

【博士後期課程】

総合機械工学専攻履修方法

1. 所定の科目群から 5 単位を修得しなければならない。
2. 研究倫理系科目のいずれか 1 単位を必ず履修しなければならない。
3. 英語系科目，産業社会系／教養系科目，人間の力量科目（ビジネス創出），専攻設置科目，および大学院修士課程設置科目から 4 単位を履修しなければならない。ただし，修士課程までに単位を修得した科目は履修できない。

(I) 研究指導

(博士後期課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
1. デザイン・共創部門	輸送機器・エネルギー材料工学研究 システムデザイン研究 共創インタフェース研究 輸送機械生産加工学研究 マイクロ・ナノ工学研究 メカニカルインタラクションデザイン研究 高機能性熱防御システム研究 知能機械学研究 医用機械工学応用研究	吉田 誠 宮下 朋之 上杉 繁 岡根 利光, 吉田 誠 梅津 信二郎 石村 康生
2. ロボティクス・医療福祉部門	バイオ・ロボティクス研究 ニューロ・ロボティクス研究 バイオメカニカルシステム研究 フィールドロボティクス研究 ヒューマンロボットインタフェース研究	梅津 信二郎, 鈴木 俊之 菅野 重樹 岩崎 清隆, 岡崎 賢, 新浪 博士, 八木 高伸 石井 裕之, コセンティノ サラ, 高西 淳夫, 藤本 浩志 岩田 浩康 菅野 重樹 菅野 重樹, 宮下 朋之, 横井 一仁 岩田 浩康, 上杉 繁, シュミッツ アレクサンダー, 菅野 重樹 大谷 淳
3. 環境・エネルギー部門	アダプティブ・ロボティクス研究 エクセルギー工学研究 熱エネルギー反応工学研究 環境調和システム機器研究 流体構造連成系応用力学研究 Research on Fluid Mechanics of Computational Analysis システムズ・メカニクス研究 エネルギーシステムメカニクス研究 熱流体計測工学研究	石井 裕之 中垣 隆雄 草鹿 仁 関谷 弘志 滝沢 研二 滝沢 研二, テズドゥヤー タイフン 金子 成彦, 草鹿 仁 上道 茜, 草鹿 仁 松田 佑

(II) 専攻設置科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
体系的ロボット工学特論	2		○
流体構造連成系応用力学特論 (流体編)	2		○
流体構造連成系応用力学特論 (構造力学編)	2		○
Computational Fluid Mechanics	2		○

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内

建築

総合機械

経営システム

経営デザイン

建設

地球資源

16. 教職免許

17. 授業時間帯

18. レポート・論文作成

19. 成績の表示

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

経営システム工学専攻

経営システム工学専攻では、社会技術システム（socio-technical system）のマネジメント（経営）に関する理論、方法論、技術、並びにその実証、応用に関わる研究開発、教育を行っている。社会技術システムとは、生産、情報通信、交通、サービス等の社会インフラをはじめ、私たちの日々の暮らしや生活を支える様々なシステムのことであり、その設計、開発、安定的な維持運用が、安全で安心できる生活づくり、社会づくりのために強く求められている。

本専攻の教育においては、人、情報、原材料、設備、資金といった性質の異なる各種資源の特質及びその取扱いに関わる知識、技術の習得、並びにそれら資源を適切に組み合わせるための数理、統計、システム設計に関わる知識、技術の習得を基本とし、さらに、それら習得した知識と技術を活用し、課題の発見とモデル化、理論化、課題解決への実践能力の育成を目指している。

専攻の概要

◆ソフトウェア工学

- ソフトウェアデザイン ○ソフトウェア要求分析 ○ソフトウェアアーキテクチャ
- ソフトウェア検証技術 ○ソフトウェアマネジメント

◆生産システム工学、生産管理

- 高度変動適応型生産システム ○動的最適化 ○進化型計算 ○次世代セル生産システム
- 持続可能な動的サプライチェーンマネジメント ○サイバーマルシェ

◆人間工学、人間生活工学

- ヒューマンファクターズ ○認知行動モデル ○ユーザビリティ ○安全マネジメント

◆計画数理学

- 不確実性下の意思決定 ○金融工学 ○観光科学 ○アグリサプライチェーンマネジメント

◆システム論、システム科学

- 数理的システム理論 ○適応システム論 ○エージェントベース社会シミュレーション
- 技術政策評価 ○ソフトシステムアプローチ

◆統計科学

- 統計的多重比較法 ○多変量解析法 ○実験計画法 ○統計的決定理論 ○工程解析への応用

◆情報数理応用

- 情報統計 ○経営情報分析 ○ビジネスアナリティクス ○パターン認識と機械学習
- データマイニング ○マーケティング分析への応用 ○情報理論とその応用

◆オペレーションズリサーチ

- 組合せ最適化 ○数理計画法 ○ロジスティクスの定量分析 ○シミュレーション

◆知識情報処理・人工知能

- 人工知能と知識処理 ○知的エージェント・マルチエージェントシステム
- ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI) ○ウェブ・インテリジェンス

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目専履修生

【修士課程】

経営システム工学専攻の履修方法

1. 指導教員が担当する演習科目（A1, A2, B1, B2）（「管理システム分析演習」を除く）は、在学年度において必ず履修しなければならない。
2. 演習科目（A1, A2, B1, B2）（「管理システム分析演習」を除く）は13単位以上履修してもその分は修了必要単位数に算入しない。
3. 講義科目を履修するにあたり、コア科目・推奨科目に関する条件を満たすこと。

（Ⅰ）研究指導

（修士課程）

研 究 指 導	担 当 教 員
ソフトウェア工学研究	岸 知二
生産システム工学研究	谷水 義隆
人間生活工学研究	小松原 明哲
システム論研究	高橋 真吾
統計科学研究	江口 真透, 永田 靖
情報数理応用研究	後藤 正幸
オペレーションズリサーチ研究	椎名 孝之
知識情報処理研究	菱山 玲子
計画数理学研究	蓮池 隆

（Ⅱ）講義科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
情報システム特論	2	○	
生産マネジメント特論	2		○
人間工学特論	2		○
社会システムモデリングA	2	春Q	
社会システムモデリングB	2	夏Q	
情報数理応用特論	2		○
知識情報処理特論	2		○
数理計画特論	2	○	
効用理論	2		○
金融工学	2	○	
実験計画法特論	2	○	
要求工学	2	集中	

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目

15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴	学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
			春	秋
II 沿革と概要	情報セキュリティマネジメント	2		○
III 研究科要項	ネットワーク技術特論	2		○
IV 学生生活	ソフトウェアデザイン特論	2		○
V 付 録	マーケティングサイエンス	2		○
	ロジスティクス工学特論	2		○
	情報アクセスデザイン	2	○	
1. 履修方法	計画数理学特論	2		○
2. 学 位	ユーザインタフェースデザイン特論	2		秋Q
3. 先取り履修	機械学習特論	2	○	
4. 後取り履修	改善マネジメント論	2	○	○
5. ユニット制度	プロフィットデザイン特論B	1	夏Q	
6. 専修コース制度	施設・ロジスティクス設計特論A	1		秋Q
7. コア科目推奨科目	施設・ロジスティクス設計特論B	1		冬Q
8. 実体情報学コース	品質マネジメント特論A	1		冬Q
9. 数物系科学コース要項	品質マネジメント特論B	1		冬Q
10. 演習・実験	グローバル生産システム論	1	春Q	
11. インターンシップ	以下の科目は学部設置の合併科目である			
12. ボランティア	ソフトウェアマネジメント	2	集中	
13. 学 費	経営実践・国内プロジェクト	2	○	○
14. 共通科目	経営実践・海外プロジェクト	2	○	○
15. 専攻別案内	経営システム・国際プロジェクト	2	○	○
建築	応用システム思考	2	○	
総合機械	ロジスティクス	2		○
経営システム	製品開発工学	2	○	
経営デザイン	製造プロセス工学	2		○
建設	生産システム論	2		○
地球資源	施設計画	2	○	
16. 教職免許	生産・流通マネジメント	2	○	
17. 授業時間帯	マーケティングリサーチ	2	○	
18. レポート・論文作成	安全人間工学	2		○
19. 成績の表示	ソフトウェア工学	2		○
20. 科目専履修生	情報システム	2	○	

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
多変量解析法A	2	○	
実験計画法	2	○	
数理統計学	2		○
オペレーションズリサーチA	2	○	
オペレーションズリサーチB	2	○	
データサイエンスと機械学習	2	○	
知識情報処理	2	○	
人間生活工学	2	○	
人材マネジメント論	2		○
最適化・シミュレーション演習	2		○
国際知的財産経営論A	1	春Q	
国際知的財産経営論B	1	夏Q	
品質工学	2		○

※ Q はクォーターの略。

(Ⅲ) 演習科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
ソフトウェア工学演習A 1	3	○	
ソフトウェア工学演習A 2	3		○
ソフトウェア工学演習B 1	3	○	
ソフトウェア工学演習B 2	3		○
生産システム工学演習A 1	3	○	
生産システム工学演習A 2	3		○
生産システム工学演習B 1	3	○	
生産システム工学演習B 2	3		○
人間生活工学演習A 1	3	○	
人間生活工学演習A 2	3		○
人間生活工学演習B 1	3	○	
人間生活工学演習B 2	3		○
システム論演習A 1	3	○	
システム論演習A 2	3		○

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴	学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
			春	秋
II 沿革と概要	システム論演習B 1	3	○	
III 研究科要項	システム論演習B 2	3		○
IV 学生生活	統計科学演習A 1	3	○	
V 付 録	統計科学演習A 2	3		○
	統計科学演習B 1	3	○	
	統計科学演習B 2	3		○
1. 履修方法	情報数理応用演習A 1	3	○	
2. 学 位	情報数理応用演習A 2	3		○
3. 先取り履修	情報数理応用演習B 1	3	○	
4. 後取り履修	情報数理応用演習B 2	3		○
5. ユニット制度	オペレーションズリサーチ演習A 1	3	○	
6. 専修コース制度	オペレーションズリサーチ演習A 2	3		○
7. コア科目推奨科目	オペレーションズリサーチ演習B 1	3	○	
8. 実体情報学コース	オペレーションズリサーチ演習B 2	3		○
9. 数物系科学コース要項	知識情報処理演習A 1	3	○	
10. 演習・実験	知識情報処理演習A 2	3		○
11. インターンシップ	知識情報処理演習B 1	3	○	
12. ボランティア	知識情報処理演習B 2	3		○
13. 学 費	計画数理学演習A 1	3	○	
14. 共通科目	計画数理学演習A 2	3		○
15. 専攻別案内	計画数理学演習B 1	3	○	
建築	計画数理学演習B 2	3		○
総合機械				
経営システム				
経営デザイン				
建設				
地球資源				
16. 教職免許				
17. 授業時間帯				
18. レポート・論文作成				
19. 成績の表示				
20. 科目専履修生				

【博士後期課程】

経営システム工学専攻の履修方法

1. 所定の科目群から 5 単位を修得しなければならない。
2. 研究倫理系科目のいずれか 1 単位を必ず履修しなければならない。
3. 英語系科目，産業社会系／教養系科目，人間的力量科目（ビジネス創出）および専攻設置科目から 4 単位を履修しなければならない。

（Ⅰ）研究指導

（博士後期課程）

研 究 指 導	担 当 教 員
ソフトウェア工学研究	岸 知二
生産システム工学研究	谷水 義隆
人間生活工学研究	小松原 明哲
システム論研究	高橋 真吾
統計科学研究	江口 真透，永田 靖
情報数理応用研究	後藤 正幸
オペレーションズリサーチ研究	椎名 孝之
知識情報処理研究	菱山 玲子
計画数理学研究	蓮池 隆
マルチエージェントシステム研究	石田 亨，菅野 重樹，菱山 玲子

（Ⅱ）専攻設置科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
グローバル経営システム工学	1	○	○

I	特 徴
II	沿革と概要
III	研究科要項
IV	学生生活
V	付 録

1.	履修方法
2.	学 位
3.	先取り履修
4.	後取り履修
5.	ユニット制度
6.	専修コース制度
7.	コア科目推奨科目
8.	実体情報学コース
9.	数物系科学コース要項
10.	演習・実験
11.	インターンシップ
12.	ボランティア
13.	学 費
14.	共通科目
15.	専攻別案内
	建築
	総合機械
	経営システム
	経営デザイン
	建設
	地球資源
16.	教職免許
17.	授業時間帯
18.	レポート・論文作成
19.	成績の表示
20.	科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

経営デザイン専攻

これからの事業経営では、今まで以上に先端技術に基づいた新事業開発およびそのマネジメントや、既存事業を経営環境変化にいち早く対応させる変革力と、そのオペレーションの改善力が求められる。経営デザイン専攻では、日本の競争力の源泉である「モノづくり」に代表される価値創造産業の事業経営リーダーの育成を目的として、経営実践能力をつける以下のような特徴を持った教育プログラムを提供する。

- ・事業創造・事業改革に焦点をあてたカリキュラム。
- ・ビジネスを疑似体験することで、問題発見・課題解決の知的能力を向上させるための演習・ケース科目。
- ・アカデミックな背景を有する教員と企業経営経験のある教員が両輪となって、理論と実践のキャッチボールを可能とする研究指導体制。

また、本専攻では、一般学生を対象とする2年間の一般履修プログラムと、社会人を対象とする1.5年間の社会人特別履修プログラムを用意している。これにより、一般学生と社会人学生が協働作業をする中でそれぞれの長所を提供しつつ短所を補完しあう自己啓発型の教育を実施する。

なお、本専攻において授与する学位は「修士（経営工学）」、「博士（経営工学）」であり、「経営工学」での学位が取得できる我が国で最初の専攻である。

【修士課程】

経営デザイン専攻履修方法

1. 一般履修プログラムは、演習科目 21 単位以上、講義科目 18 単位以上の合計 39 単位以上を履修しなければならない。社会人特別履修プログラムは、演習科目 18 単位以上、講義科目 18 単位以上の合計 36 単位以上を履修しなければならない。
2. 指導教員が担当する研究指導演習科目は、一般履修プログラムでは A1, A2, A3, A4 の 4 科目、合計 12 単位を、社会人特別履修プログラムでは、A1, A2, A3, A4 の中から 3 科目、合計 9 単位を履修しなければならない。ただし、研究指導演習科目は、一般履修プログラムでは 13 単位以上履修しても、社会人特別履修プログラムでは 10 単位以上履修しても、その分は修了必要単位に算入しない。
3. プロジェクト研究演習科目は、2 科目以上を履修しなければならない。
4. 経営デザイン演習 A1, A2, A3, A4 については、4 月入学生は A1, A2, A3 の合計 3 単位を、9 月入学生は A2, A3, A4 の合計 3 単位を必ず履修しなければならない。ただし、経営デザイン演習は、4 単位以上履修しても、その分は修了必要単位に算入しない。
5. 講義科目については、ケース科目は 2 科目を、理論科目は、各領域に設置されている必修科目 5 科目（コア科目）すべてを履修しなければならない。

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目専履修生

【一般履修プログラム】

	演習科目			講義科目	
所定 単位数	研究指導演習	プロジェクト研究演習	経営デザイン演習	必修科目	選択
	12 単位	6 単位	3 単位	7 単位	11 単位
	小計 21 単位			小計 18 単位	
合計	39 単位				

【社会人特別履修プログラム】

	演習科目			講義科目	
所定 単位数	研究指導演習	プロジェクト研究演習	経営デザイン演習	必修科目	選択
	9 単位	6 単位	3 単位	7 単位	11 単位
	小計 18 単位			小計 18 単位	
合計	36 単位				

（Ⅰ）研究指導

（修士課程）

研 究 指 導	担 当 教 員
ライフサイクルエンジニアリング研究	小島 史夫, 福重 真一
プロフィットエンジニアリング研究	大野 高裕
品質マネジメント研究	棟近 雅彦
ヒューマンファクターズマネジメント研究	小松原 明哲, 棟近 雅彦
経営情報学研究	大野 高裕, 後藤 正幸
知財マネジメント研究	森 康晃
企業行動研究	石川 雅崇, 大野 高裕
マーケティング・デザイン研究	枝川 義邦, 大野 高裕
組織行動マネジメント研究	膳場 百合子
生産システム工学研究	鬼頭 朋見, 小島 史夫
複雑系生産システム研究	鬼頭 朋見
生産・サプライチェーンマネジメント研究	大森 峻一
製品・サービスシステム研究	三原 康司
企業戦略論研究	池田 和明, 大野 高裕
イノベーション・マネジメント研究	鬼頭 朋見, 堀井 秀之
組織行動マネジメント研究	膳場 百合子

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

(Ⅱ) 講義科目 科目の前に付した★印は必修科目を示す。

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目専履修生

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
《ケース科目》			
★技術系経営幹部講話	1	春Q	
★経営課題対応事例研究	1		秋Q
《理論科目》			
★企業経営論	1	夏Q	
ファイナンス・投資戦略論	1	春Q	
製品開発情報システム	1		冬Q
経営品質マネジメント	1		冬Q
技術経営論	1		秋Q
技術アライアンスマネジメント	1	夏Q	
知財マネジメントの基礎	1	春Q	
先端技術産業分析	1		冬Q
★製品開発マネジメント概論	1	夏Q	
利用品質設計	1	夏Q	
マーケティング・デザイン	1		秋Q
★グローバル SCM の基礎と実際	1	春Q	
★カスタマーリレーションシップマネジメント：CRM	1		冬Q
SCM のデザインと改革	1		秋Q
環境調和型生産システム	1		秋Q
グローバル経営と知財マネジメント	1	夏Q	
ロジスティクスの実務と情報システム	1		冬Q
ファシリティプランニング	1		秋Q
品質マネジメントシステム	1		冬Q
BPR のための分析・評価法	1	春Q	
経営情報分析技法	1		冬Q
経営計画分析技法	1	夏Q	
製品・サービス企画マネジメント	1		秋Q
価値・コストエンジニアリング	1	夏Q	

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
サプライチェーン・トータルサービスシステム設計	1	夏Q	
★生産システム工学	1		冬Q
グローバル生産システム論	1	春Q	
組織行動論	2		○
イノベーション・デザイン	1	春Q	
複雑系とネットワーク科学	1	集中	
社会システム・サービスマネジメント	1		秋Q

※ Q はクォーターの略。

(Ⅲ) 演習科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
《研究指導演習》			
複雑系生産システム演習 A 1	3	○	
複雑系生産システム演習 A 2	3		○
複雑系生産システム演習 A 3	3	○	
複雑系生産システム演習 A 4	3		○
生産・サプライチェーンマネジメント演習 A 1	3	○	
生産・サプライチェーンマネジメント演習 A 2	3		○
生産・サプライチェーンマネジメント演習 A 3	3	○	
生産・サプライチェーンマネジメント演習 A 4	3		○
製品・サービスシステム演習 A 1	3	○	
製品・サービスシステム演習 A 2	3		○
製品・サービスシステム演習 A 3	3	○	
製品・サービスシステム演習 A 4	3		○
企業戦略論演習 A 1	3	○	
企業戦略論演習 A 2	3		○
企業戦略論演習 A 3	3	○	
企業戦略論演習 A 4	3		○
ライフサイクルエンジニアリング演習 A 1	3	○	

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニツ制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴	学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
			春	秋
II 沿革と概要				
III 研究科要項	ライフサイクルエンジニアリング演習A 2	3		○
IV 学生生活	ライフサイクルエンジニアリング演習A 3	3	○	
V 付 録	ライフサイクルエンジニアリング演習A 4	3		○
	プロフィットエンジニアリング演習A 1	3	○	
	プロフィットエンジニアリング演習A 2	3		○
1. 履修方法	プロフィットエンジニアリング演習A 3	3	○	
2. 学 位	プロフィットエンジニアリング演習A 4	3		○
3. 先取り履修	品質マネジメント演習A 1	3	○	
4. 後取り履修	品質マネジメント演習A 2	3		○
5. ユニット制度	品質マネジメント演習A 3	3	○	
6. 専修コース 制度	品質マネジメント演習A 4	3		○
7. コア科目 推奨科目	知財マネジメント演習A 1	3	○	
8. 実体情報学 コース	知財マネジメント演習A 2	3		○
9. 数物系科学 コース要項	知財マネジメント演習A 3	3	○	
10. 演習・実験	知財マネジメント演習A 4	3		○
11. インターン シップ	企業行動演習A 1	3	○	
12. ボランティア	企業行動演習A 2	3		○
13. 学 費	企業行動演習A 3	3	○	
14. 共通科目	企業行動演習A 4	3		○
15. 専攻別案内	ヒューマンファクターズマネジメント演習A 1	3	○	
建築	ヒューマンファクターズマネジメント演習A 2	3		○
総合機械	ヒューマンファクターズマネジメント演習A 3	3	○	
経営システム	ヒューマンファクターズマネジメント演習A 4	3		○
経営デザイン	経営情報学演習A 1	3	○	
建設	経営情報学演習A 2	3		○
地球資源	経営情報学演習A 3	3	○	
16. 教職免許	経営情報学演習A 4	3		○
17. 授業時間帯	マーケティング・デザイン演習A 1	3	○	
18. レポート・ 論文作成	マーケティング・デザイン演習A 2	3		○
19. 成績の表示				
20. 科目専履修生				

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
マーケティング・デザイン演習A3	3	○	
マーケティング・デザイン演習A4	3		○
組織行動マネジメント演習A1	3	○	
組織行動マネジメント演習A2	3		○
組織行動マネジメント演習A3	3	○	
組織行動マネジメント演習A4	3		○
生産システム工学演習A1	3	○	
生産システム工学演習A2	3		○
生産システム工学演習A3	3	○	
生産システム工学演習A4	3		○
イノベーション・マネジメント演習A1	3	○	
イノベーション・マネジメント演習A2	3		○
イノベーション・マネジメント演習A3	3	○	
イノベーション・マネジメント演習A4	3		○
《経営デザイン演習》			
経営デザイン演習A1	1	○	
経営デザイン演習A2	1		○
経営デザイン演習A3	1	○	
経営デザイン演習A4	1		○
《プロジェクト研究演習》			
プロジェクト研究演習A	3		○
プロジェクト研究演習B	3		○
プロジェクト研究演習C	3	○	
プロジェクト研究演習E	3	○	

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

【博士後期課程】

経営デザイン専攻履修方法

1. 所定の科目群から5単位を修得しなければならない。
2. 研究倫理系科目のいずれか1単位を必ず履修しなければならない。
3. 英語系科目「Doctoral Student Technical Writing」1単位を必ず履修しなければならない。
4. 上記3を除く英語系科目、産業社会系／教養系科目、人間の力量科目（ビジネス創出）および専攻設置科目から3単位を履修しなければならない。
5. 修士課程との合併科目のうち、修士課程在籍時に単位を修得した科目は履修できない。

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目専履修生

（Ⅰ）研究指導

（博士後期課程）

研 究 指 導	担 当 教 員
ライフサイクルエンジニアリング研究	小島 史夫，福重 真一
プロフィットエンジニアリング研究	大野 高裕
品質マネジメント研究	棟近 雅彦
ヒューマンファクターズマネジメント研究	小松原 明哲，棟近 雅彦
経営情報学研究	大野 高裕，後藤 正幸
生産システム工学研究	鬼頭 朋見，小島 史夫
生産・サプライチェーンマネジメント研究	大森 峻一
製品・サービスシステム研究	三原 康司
企業戦略論研究	池田 和明，大野 高裕
イノベーション・マネジメント研究	鬼頭 朋見，堀井 秀之
複雑系生産システム研究	鬼頭 朋見
組織行動マネジメント研究	膳場 百合子

(Ⅱ) 専攻設置科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
技術系経営幹部講話	1	春Q	
経営課題対応事例研究	1		秋Q
経営工学の歴史と体系	1		秋Q

※ Q はクォーターの略。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース 制度
7. コア科目 推奨科目
8. 実体情報学 コース
9. 数物系科学 コース要項
10. 演習・実験
11. インターン シップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・ 論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

建設工学専攻

建設工学専攻は、直接・間接に安全な人間の生活基盤をつくり、かつそれを維持向上するという使命を担っている。そのため、この分野の研究者・技術者には、自然災害や社会環境に関わる幅広い知識と工学的な判断力が要求されている。本専攻では、高度な技術とすぐれた人間性とを兼ね備えた人材を養成することを目指して教育・研究を行っている。この分野は大きくは社会基盤、環境・防災、計画・マネジメントの各部門に分けられ、それぞれがかなり異質の内容を含んでいる。そこで、学生は自分の志望と適性をよく考え、部門ならびにその中のどの研究を選ぶのかを慎重に判断する必要がある。

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目専属性

各部門の概要

◆社会基盤部門

社会基盤部門では、建設工学専攻で対象とする各種構造物に関わる諸問題について、理論的ならびに実験的研究を行っている。

構造力学研究では、主として鋼橋、鋼構造物を対象に、耐荷力の評価法、耐震設計法に関する研究、新材料の適用に関する研究、維持管理に関する研究などを行っている。

構造工学研究では、土木構造物のうち、とくに、都市部におけるトンネルなどの地下構造物を対象とした設計および施工に関する工学的諸問題に関する研究や地下空間の有効利用に関する研究を行っている。

構造設計研究では、複合構造物を対象に、力学的視点に立った材料のマテリアルデザイン、構造物のライフタイムデザイン、設計と維持管理に関わるシステムデザインに関する研究を行っている。

コンクリート工学研究では、コンクリート構造物を対象としてコンクリート部材の力学的挙動や設計法、コンクリートの基礎的物性や耐久性などに関して研究を行っている。

以上は相互に関連があり、さらには他部門まで含めて共同して研究を進める場合もある。

◆環境・防災部門

環境・防災部門では、水圏と地圏における環境と防災に関わる諸問題について、理論、数値解析ならびに実験・観測などを通して研究を行っている。

河川工学研究では、水理学・水文学を基礎として、流砂機構ならびに河道が変動するメカニズムを力学的に解き明かし、これを河道再生に活かしていくための研究を行っているほか、豪雨に対する都市の浸水危険性評価ならびにそのリアルタイム予報に関する研究などを行っている。

海岸工学研究では、海岸・海洋工学、水工学、建設社会学を学問枠組として、現地調査、数値予測、水理実験、社会調査を方法として用い、日本及び世界各国の沿岸域の防災・環境の研究を行っている。

水環境工学研究では、資源循環と水環境の修復法、用排水の高度処理・再利用、バイオバリアーによる環境保全と水質シミュレーション等について研究を行っている。

地盤工学研究では、地盤工学をベースに原子力災害や降雨等による自然災害の軽減と、放射性廃棄物処分など未来社会への環境負荷の抑制に貢献するための実務的な研究と技術開発を行う。また、その基礎となる土・地盤の物理化学的特性と透水および力学特性に関する深遠な現象の探求と解明も行う。

土質力学研究では、土の静的および動的な力学特性を解明し、液状化対策のための新素材を用いた地盤改良技術、トンネルなどの地下構造物建設に伴う地盤挙動の解析、中長期の投資計画に資する道路や鉄道

などの社会資本のアセットマネジメントなどに関する研究を行っている。

◆計画・マネジメント部門

近年の都市地域をとりまく社会経済環境の多様な変化のなかにあって、都市計画に関する研究の役割はますます重要となっている。

都市計画研究の領域はきわめて広いが、本部門ではその中でもとりわけ、(1) 都市・地域の配置と空間構成および市街地整備、(2) 都市交通および都市基盤施設、(3) 都市防災、(4) 景観計画・デザインを中心に、調査から解析、計画、デザイン、さらには管理・運営に至る計画設計技術に関して、多角的な研究課題を対象としている。また、地域は国内ばかりでなく海外の都市計画も重要な研究対象と位置づけている。研究のアプローチは理論的、手法的な基礎研究はもとより、現実の都市地域を対象とする実際の、また政策実験等を含む応用研究にも積極的に取り組むものである。

【修士課程】

建設工学専攻履修方法

1. 指導教員が担当する演習科目は、在学年度において必ず履修しなければならない。
2. 演習科目は 13 単位以上履修してもその分は修了必要単位数に算入しない。
3. 指導教員以外の担当教員による演習科目を選択する場合は、指導教員と選択する演習の担当教員の承認を必要とする。
4. 自己が所属する部門の中で指導教員が担当するコア科目は必ず履修しなければならない。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 履修方法

2. 学 位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース
制度

7. コア科目
推奨科目

8. 実体情報学
コース

9. 数物系科学
コース要項

10. 演習・実験

11. インターン
シップ

12. ボランティア

13. 学 費

14. 共通科目

15. 専攻別案内

建築

総合機械

経営システム

経営デザイン

建設

地球資源

16. 教職免許

17. 授業時間帯

18. レポート・
論文作成

19. 成績の表示

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

(I) 研究指導

(修士課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
1. 社会基盤部門	構造工学研究 構造設計研究 構造力学研究 コンクリート工学研究	岩波 基 佐藤 靖彦 小野 潔 秋山 充良
2. 環境・防災部門	水環境工学研究 河川工学研究 土質力学研究 地盤工学研究 トンネル工学研究 海岸工学研究	榊原 豊 関根 正人 赤木 寛一 小峯 秀雄 岩波 基, 津野 究 柴山 知也
3. 計画・マネジメント部門	都市計画研究 交通計画研究 景観・デザイン研究	佐々木 邦明 森本 章倫 佐々木 葉

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目 推奨科目
8. 実体情報学 コース
9. 数物系科学 コース要項
10. 演習・実験
11. インターン シップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・ 論文作成
19. 成績の表示
20. 科目専履修生

(II) 講義科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
地中構造特論 A	2	○	
地中構造特論 B	2		○
コンクリート工学特論 A	2	○	
コンクリート工学特論 B	2		○
構造設計特論 A	2	○	
構造設計特論 B	2		○
構造力学特論 A	2	○	
構造力学特論 B	2		○
都市計画特論	2	○	
都市構造特論	2		○
交通計画特論	2	○	
都市基盤施設特論	2		○
都市防災計画特論	2		○
社会システムマネジメント特論	2		○
土質力学特論 A	2	○	
土質力学特論 B	2		○
地盤工学特論 A	2	○	
地盤工学特論 B	2		○
河川工学特論 A	2	○	

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
河川工学特論B	2		○
水質工学特論A	2	○	
水質工学特論B	2		○
景観・デザイン特論A	2	春Q	
景観・デザイン特論B	2		秋Q
海岸工学特論	2	○	
Infrastructure Management	2		○

※ Q はクォーターの略。

(Ⅲ) 演習科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
構造工学演習A	3	○	
構造工学演習B	3		○
構造工学演習C	3	○	
構造工学演習D	3		○
構造設計演習A	3	○	
構造設計演習B	3		○
構造設計演習C	3	○	
構造設計演習D	3		○
構造力学演習A	3	○	
構造力学演習B	3		○
構造力学演習C	3	○	
構造力学演習D	3		○
都市計画演習A	3	○	
都市計画演習B	3		○
都市計画演習C	3	○	
都市計画演習D	3		○
交通計画演習A	3	○	
交通計画演習B	3		○
交通計画演習C	3	○	
交通計画演習D	3		○
土質力学演習A	3	○	
土質力学演習B	3		○

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴	学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
			春	秋
II 沿革と概要				
III 研究科要項	土質力学演習 C	3	○	
IV 学生生活	土質力学演習 D	3		○
V 付 録	地盤工学演習 A	3	○	
	地盤工学演習 B	3		○
	地盤工学演習 C	3	○	
	地盤工学演習 D	3		○
1. 履修方法	水質工学演習 A	3	○	
2. 学 位	水質工学演習 B	3		○
3. 先取り履修	水質工学演習 C	3	○	
4. 後取り履修	水質工学演習 D	3		○
5. ユニット制度	河川工学演習 A	3	○	
6. 専修コース 制度	河川工学演習 B	3		○
7. コア科目 推奨科目	河川工学演習 C	3	○	
8. 実体情報学 コース	河川工学演習 D	3		○
9. 数物系科学 コース要項	景観・デザイン演習 A	3	○	
10. 演習・実験	景観・デザイン演習 B	3		○
11. インターン シップ	景観・デザイン演習 C	3	○	
12. ボランティア	景観・デザイン演習 D	3		○
13. 学 費	海岸工学演習 A	3	○	
14. 共通科目	海岸工学演習 B	3		○
15. 専攻別案内	海岸工学演習 C	3	○	
建築	海岸工学演習 D	3		○
総合機械	コンクリート構造学演習 A	3	○	
経営システム	コンクリート構造学演習 B	3		○
経営デザイン	コンクリート構造学演習 C	3	○	
建設	コンクリート構造学演習 D	3		○
地球資源	都市計画特別実習 A	3	○	
16. 教職免許	都市計画特別実習 B	3		○
17. 授業時間帯				
18. レポート・ 論文作成				
19. 成績の表示				
20. 科目専履修生				

【博士後期課程】

建設工学専攻履修方法

1. 所定の科目群から5単位を修得しなければならない。
2. 研究倫理系科目のいずれか1単位を必ず履修しなければならない。
3. 英語系科目、産業社会系／教養系科目、人間的力量科目（ビジネス創出）および専攻設置科目から4単位を履修しなければならない。

（Ⅰ）研究指導

（博士後期課程）

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
1. 社会基盤部門	構造工学研究 構造設計研究 構造力学研究 コンクリート工学研究	岩波 基 佐藤 靖彦 小野 潔 秋山 充良
2. 環境・防災部門	水環境工学研究 河川工学研究 土質力学研究 地盤工学研究 トンネル工学研究	榊原 豊 関根 正人 赤木 寛一 小峯 秀雄 岩波 基、津野 究
3. 計画・マネジメント部門	海岸工学研究 都市計画研究 交通計画研究 景観・デザイン研究	柴山 知也 佐々木 邦明 森本 章倫 佐々木 葉

（Ⅱ）専攻設置科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
建設工学演習 A	2	○	
建設工学演習 B	2		○

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

地球・環境資源理工学専攻

地球・環境資源理工学専攻では、主に環境問題・資源問題及び地球科学に係わる教育・研究を行っている。その内容は、大気・水・土壌に関する環境問題，環境調和型リサイクリング，廃棄物の処理・適正処分・管理，新素材開発，海洋や地熱を含めた天然資源開発と地下空間利用，資源開発における作業・自然環境保全，各種資源の自然界における存在状態の把握，地殻環境保全，自然災害の予測・防災，遺跡など文化財の保存，地質学・古生物学・岩石学・鉱物学などの基礎科学分野に至るまで，広範囲にわたっている。

個別の専門性を高めるとともに，幅広い専門知識を身につけ，環境問題・資源問題にグローバルな視点から対応できる人材の育成を目指している。

地球・環境資源理工学専攻には，以下の8研究部門が設置されている。

各部門の概要

◆資源科学部門

資源の探査・開発，鉱物資源の処理・加工に関連した鉱物や岩石についての基礎研究を行っている。また，岩石学・鉱物学の応用として，石造文化財をはじめとする石材の劣化機構の解明と劣化評価法に関する研究，未利用原料鉱物や産業廃棄物・副次生成物の改質と新規素材化に関する研究を行っている。

◆岩石学部門

惑星科学，火山学の2分野から構成され，隕石中の鉱物の同位体組成に基づく惑星や太陽系の起源物質とその進化過程の研究，火山噴出物を用いた火山の長期的進化や火山噴火メカニズムの研究を行っている。

◆地質学部門

構造岩石学，古生物学，堆積学の3分野から構成され，断層帯の岩石から断層の運動学的解析，形成過程，形成時期の解明，中央構造線および西南日本の構造発達史とテクトニクスの研究，中生代軟体動物の進化，中生代の環境変動の復元，進化古生物学と古環境科学，化石層序学，新しい地質年代尺度の確立，堆積盆地の環境・古地理・変遷およびその後の変動過程を解明する研究などに関する研究を行っている。

◆地殻情報工学部門

天然資源の効率的な利用や地圏環境保全のためには，地下情報の推定や継続的なモニタリングが必要である。天然資源の探査・開発，地殻変動，地盤と地震防災問題，廃棄物の地層処分や二酸化炭素の地中貯留，地下水・土壌汚染をはじめとする地圏環境問題，及びそれら地下情報の可視化に関するシステム開発，数値解析理論・手法の研究を行っている。

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニツト制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

◆開発環境工学部門

本研究部門は石油工学（油層工学）と岩盤・石油生産工学の2分野から構成されている。在来型石油・天然ガス、重質油、シェールガス/オイル、メタンハイドレート、再生可能な地熱などの開発における、貯留層数値シミュレーションモデルの開発、油ガス層評価技術、石油増進回収技術、二酸化炭素地下貯留技術、坑井掘削・仕上げ技術、地下流体生産・圧入に伴う出砂・地盤安定評価などに関する研究を行っている。

◆資源循環工学部門

天然資源や廃棄物資源の有効活用には、有用成分と不用（有害）成分の分離等、各種処理の高効率化が不可欠である。こうした分離を中心とする処理技術の高度化をベースとして、資源全体の流れの最適化と、資源利用における環境負荷の最小化（環境調和型資源リサイクルおよび環境浄化）を達成することが本部門のテーマである。

◆素材プロセス工学部門

金属素材をはじめとする各種の機能素材製造プロセスに関わる、“熱力学”、“電気化学”や“量子化学”等、種々の学問的基礎を活用し、プロセスの物理化学的な解析を目的に研究を行っている。コンピュータによるシミュレーションも行っている。具体的には、レアメタルやベースメタルのリサイクルプロセスの開発、電気化学的手法と熱量測定による高温融体の熱力学量の導出、速度論モデルによるシリコン CVD 反応解析などを研究している。

◆環境保全工学部門

本研究部門には、環境安全工学研究と大気水圏環境化学研究がある。環境安全工学研究では、大気環境や、作業環境、室内環境における、微小粒子状物質、有機溶剤、特定化学物質などの有害因子への曝露に関する測定・評価法や対策方法について研究している。大気水圏環境化学研究では、大気化学、水質化学、分析化学、地球化学、気象学、森林生態学、土壌学などを学問的基盤とし、大気・水・森林をキーワードにフィールドワークを中心として研究を行っている。

【修士課程】

地球・環境資源理工学専攻履修方法

1. 所属する部門のコア科目を、規定に基づいて履修すること。
2. 指導教員が担当する演習科目は、在学年度において必ず履修しなければならない。
3. 演習科目は、13 単位以上履修してもその分は修了必要単位数に算入しない。

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 履修方法

2. 学 位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目推奨科目

8. 実体情報学コース

9. 数物系科学コース要項

10. 演習・実験

11. インターンシップ

12. ボランティア

13. 学 費

14. 共通科目

15. 専攻別案内

建築

総合機械

経営システム

経営デザイン

建設

地球資源

16. 教職免許

17. 授業時間帯

18. レポート・論文作成

19. 成績の表示

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

(I) 研究指導

(修士課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
1. 資源科学部門	資源地球化学研究 応用鉱物学研究	内田 悦生, 川幡 穂高 山崎 淳司
2. 岩石学部門	惑星科学研究 火山学研究 地球化学研究	ティモシー・ジェイ・フェイガン 鈴木 由希 未定
3. 地質学部門	構造岩石学研究 堆積学研究 進化古生物学研究	高木 秀雄 太田 亨 守屋 和佳
4. 地殻情報工学部門	地圏環境学研究 物理探査工学研究	未定 上田 匠
5. 開発環境工学部門	岩盤・石油生産工学研究 石油工学研究	古井 健二 栗原 正典
6. 資源循環工学部門	資源循環工学研究 環境資源処理工学研究	大和田 秀二 所 千晴
7. 素材プロセス工学部門	素材プロセス工学研究	国吉 ニルソン, 山口 勉功
8. 環境保全工学部門	環境安全工学研究 大気水圏環境化学研究	村田 克 大河内 博, 速水 洋

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目専履修生

(II) 講義科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
地球環境の変遷と資源	2	○	
素材物質科学特論	2	○	
応用鉱物学特論	2	○	
資源地球化学特論	2	○	
数値岩盤工学特論	2	○	
石油生産工学特論	2	○	
油層工学特論	2	○	
資源リサイクリング	2		○
資源分離工学特論	2		○
分離工学物理化学特論	2		○
地質統計学	2	○	
工学のための複素解析論	2		集中
環境安全リスク特論	2		○
土壌浄化学	2		○
生態環境学	2		○
水質化学特論	2		○
古海洋学特論	2	○	
進化古生物学特論	2	○	

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
地圏環境工学	2		○
岩石熱力学特論	2	○	
超高压岩石学特論	2	○	
地球テクトニクス	2		○
地球化学	2		○
同位体地球化学	2	○	
海洋科学	2	○	
海洋底ダイナミクス	2		○
断層の解剖	2	○	
地質学とジオパーク	2	○	
同位体地球化学特論	2		○
素材工学特論	2	○	
環境微生物学	2		○
地球物理情報工学	2	○	
地球化学情報工学	2	○	
資源分離シミュレーション	2		○
環境界面工学特論	2		○
探査工学特論	2	○	
応用地球物理学	2	○	
金属生産工学	2	○	
同位体環境学	2	○	
掘削工学特論	2	集中	
金属材料学	2		○
日本列島の地体構造論	2		○
大陸地殻の進化と砕屑物組成	2		○
隕石と惑星の科学	2		○
地圏環境科学特論	2	○	
大気環境学特論	2	○	
ジオマテリアル・エンジニアリング	2		○
労働衛生工学特論	2		○
油層シミュレーション特論	2	○	
火山学特論	2		○
地球化学特論Ⅰ	2		○
地球化学特論Ⅱ	2		○
火山岩石学特論	2		○
素材機器分析評価	2	○	
環境研究の実践と国際協力	2	集中	
先端粉体プロセス特論	2	集中	

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

(Ⅲ) 演習科目

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース 制度
7. コア科目 推奨科目
8. 実体情報学 コース
9. 数物系科学 コース要項
10. 演習・実験
11. インターン シップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・ 論文作成
19. 成績の表示
20. 科目専履修生

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
資源地球化学演習 A	3	○	
資源地球化学演習 B	3		○
資源地球化学演習 C	3	○	
資源地球化学演習 D	3		○
応用鉱物学演習 A	3	○	
応用鉱物学演習 B	3		○
応用鉱物学演習 C	3	○	
応用鉱物学演習 D	3		○
岩盤・石油生産工学演習 A	3	○	
岩盤・石油生産工学演習 B	3		○
岩盤・石油生産工学演習 C	3	○	
岩盤・石油生産工学演習 D	3		○
地圏環境学演習 A	3	○	
地圏環境学演習 B	3		○
地圏環境学演習 C	3	○	
地圏環境学演習 D	3		○
資源循環工学演習 A	3	○	
資源循環工学演習 B	3		○
資源循環工学演習 C	3	○	
資源循環工学演習 D	3		○
素材プロセス工学演習 A	3	○	
素材プロセス工学演習 B	3		○
素材プロセス工学演習 C	3	○	
素材プロセス工学演習 D	3		○
環境安全工学演習 A	3	○	
環境安全工学演習 B	3		○
環境安全工学演習 C	3	○	
環境安全工学演習 D	3		○
大気水圏環境化学演習 A	3	○	
大気水圏環境化学演習 B	3		○
大気水圏環境化学演習 C	3	○	
大気水圏環境化学演習 D	3		○
進化古生物学演習 A	3	○	
進化古生物学演習 B	3		○
進化古生物学演習 C	3	○	
進化古生物学演習 D	3		○

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
岩石学演習 A	3	○	
岩石学演習 B	3		○
岩石学演習 C	3	○	
岩石学演習 D	3		○
構造岩石学演習 A	3	○	
構造岩石学演習 B	3		○
構造岩石学演習 C	3	○	
構造岩石学演習 D	3		○
惑星科学演習 A	3	○	
惑星科学演習 B	3		○
惑星科学演習 C	3	○	
惑星科学演習 D	3		○
環境資源処理工学演習 A	3	○	
環境資源処理工学演習 B	3		○
環境資源処理工学演習 C	3	○	
環境資源処理工学演習 D	3		○
物理探査工学演習 A	3	○	
物理探査工学演習 B	3		○
物理探査工学演習 C	3	○	
物理探査工学演習 D	3		○
石油工学演習 A	3	○	
石油工学演習 B	3		○
石油工学演習 C	3	○	
石油工学演習 D	3		○
堆積学演習 A	3	○	
堆積学演習 B	3		○
堆積学演習 C	3	○	
堆積学演習 D	3		○
火山学演習 A	3	○	
火山学演習 B	3		○
火山学演習 C	3	○	
火山学演習 D	3		○
地球化学演習 A	3	○	
地球化学演習 B	3		○
地球化学演習 C	3	○	
地球化学演習 D	3		○

※ Q はクォーターの略。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

【博士後期課程】

地球・環境資源理工学専攻履修方法

1. 所定の科目群から5単位を修得しなければならない。
2. 研究倫理系科目のいずれか1単位を必ず履修しなければならない。
3. 英語系科目，産業社会系／教養系科目，人間的力量科目（ビジネス創出）および専攻設置科目から4単位を履修しなければならない。
4. 上記3のうち，大学院修士課程の専攻設置科目を後取り履修として2単位まで算入することができる。

（Ⅰ）研究指導

（博士後期課程）

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
1. 資源科学部門	資源地球化学研究 応用鉱物学研究	内田 悦生 山崎 淳司
2. 岩石学部門	惑星科学研究 火山学研究	ティモシー・ジェイ・フェイガン 鈴木 由希
3. 地質学部門	地球化学研究 構造岩石学研究 堆積学研究	未定 高木 秀雄 太田 亨
4. 地殻情報工学部門	進化古生物学研究 地圏環境学研究	守屋 和佳 未定
5. 開発環境工学部門	物理探査工学研究 岩盤・石油生産工学研究	上田 匠 古井 健二
6. 資源循環工学部門	石油工学研究 資源循環工学研究	栗原 正典 大和田 秀二
7. 素材プロセス工学部門	環境資源処理工学研究 素材プロセス工学研究	所 千晴 国吉 ニルソン，山口 勉功
8. 環境保全工学部門	環境安全工学研究 大気水圏環境化学研究	村田 克 大河内 博，速水 洋

（Ⅱ）専攻設置科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期	
		春	秋
資源科学特別演習	2	○	○
岩石学特別演習	2	○	○
地質学特別演習	2	○	○
地殻情報工学特別演習	2	○	○
開発環境工学特別演習	2	○	○
資源循環工学特別演習	2	○	○
環境保全工学特別演習	2	○	○
素材プロセス工学特別演習	2	○	○

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

16 教員免許状取得方法

(1) 創造理工学研究科で取得できる教員免許状の種類および免許教科

免許状の種類

中学校教諭専修免許状

高等学校教諭専修免許状

免許教科

理科

(2) 専修免許状の取得方法

専攻	取得できる教科
建築学専攻	なし
総合機械工学専攻	なし
経営システム工学専攻	なし
建設工学専攻	理科
地球・環境資源理工学専攻	理科
経営デザイン専攻	なし

【基礎資格】

- ・修士の学位を有すること
- ・大学の専攻科または文部科学大臣の指定するこれに相当する課程に1年以上在学し、30単位以上を修得すること。
- ・本研究科入学以前に一種免許状を取得していること。または本研究科在学中に学部科目等履修生の制度等を利用して、教育職員免許法第5条別表第1の所定単位を修得していること（詳細は理工学術院統合事務所に問い合わせること）。

【単位修得方法】

「大学が独自に設定する科目」を24単位以上修得するものとする。

対象科目は理工学術院 Web サイトで確認すること。

URL：https://www.waseda.jp/fsci/students/exam/#anc_19

※「大学が独自に設定する科目」は、履修年度に当該科目が「大学が独自に設定する科目」として指定されている必要がある。修得した科目が「大学が独自に設定する科目」として算入できるかは、科目を履修した年度の「大学が独自に設定する科目」の表で確認すること。

(3) 免許状の申請

原則として本人が授与権者（居住地の都道府県教育委員会）に対して行う。ただし3月の修了時に限り、教育職員免許状を必要とする学生のために、大学が各人の申請をとりまとめて申請を代行（一括申請）し、学位授与式当日手渡せるようとりはからっている。

その手続については、6月に免許状一括申請の登録、11月に宣誓・署名・捺印および申請料金の納入の手続を行うので、掲示及びメールでの連絡等に十分注意すること。期限遅れ等により一括審査を受けられなかった場合は、個人で申請することになる。

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付録

1. 履修方法

2. 学 位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目推奨科目

8. 実体情報学コース

9. 数物系科学コース要項

10. 演習・実験

11. インターンシップ

12. ボランティア

13. 学 費

14. 共通科目

15. 専攻別案内

建築

総合機械

経営システム

経営デザイン

建設

地球資源

16. 教職免許

17. 授業時間帯

18. レポート・論文作成

19. 成績の表示

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

17 授業時間帯

早稲田大学の授業時間帯は下表のとおりである。

時 限	1	2	3	4	5	6	7
時 間	9：00 ～ 10：30	10：40 ～ 12：10	13：00 ～ 14：30	14：45 ～ 16：15	16：30 ～ 18：00	18：15 ～ 19：45	19：55 ～ 21：25

18 レポート・論文作成にあたっての注意事項

出典を明示せずに書物、Web サイトなどから他人の文章や資料の全部または一部をレポート・論文等に記載した場合、「盗用」・「剽窃」にあたり不正行為に該当し、厳しい処分の対象になる。

自分の考えを述べる上で他人の文章や資料を「引用」・「参照」する際は、引用箇所を「 」等で明示し、出典（著者名、タイトル、該当ページ、出版社、出版年、Web サイトの場合はアドレスとアクセスした日付）を正確に記載することが一般的なルールである。ただし、引用の分量が多くなる場合は、「引用」・「転載」の許可を著者に求める必要があるので、必要最小限にとどめること。

19 成績の表示

成績は、各学期ごとに定められた発表日に MyWaseda 上で発表される。成績発表日については理工学術院 Web サイトで確認すること。

講義科目・演習科目・修士論文の成績表記は A⁺・A・B・C・F をもって表示し、A⁺～C を合格、F を不合格とする。研究指導の成績表記は P と Q をもって表示し、P を合格、Q を不合格とする。なお、成績発表の際にはこのほかに H・* という記号を使用する。

H……成績保留を意味する。担当教員から課題提出などを発表してもらえる場合があるので、教員の指示を確認すること。なお、教員からの指示に従わずに成績保留期間を越えた場合には自動的に F 評価となる。

*……登録している科目で、担当教員からの成績がまだ出ていない科目を示す。

評 価	A ⁺	A	B	C	F	H
点 数	100～90	89～80	79～70	69～60	59～	
成績証明書	A ⁺	A	B	C	表 示 な し	
判 定	合 格				不 合 格	

【GPAについて】

①計算式

科目の成績評価に対して Grade Point と呼ばれる換算値（A⁺は4点、Aは3点、Bは2点、Cは1点、不合格は0点）が決められている。それぞれの「科目の単位数」と「成績評価の Grade Point」の積の総和を「総登録単位数」で割って、スコア化したものが GPA（Grade Point Average）である。総登録単位数には、不合格科目の単位も含まれる。これを式で表すと、次のようになる。

$$(A^+ \text{修得単位数} \times 4) + (A \text{修得単位数} \times 3) + (B \text{修得単位数} \times 2) + (C \text{修得単位数} \times 1) + (\text{不合格科目単位数} \times 0)$$

$$\text{総登録単位数 (不合格科目を含む)}$$

※ GPA は小数第2位まで表示される。（小数第3位は、四捨五入とする）

1. 履修方法
2. 学 位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学 費
14. 共通科目
15. 専攻別案内
建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 教職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目専履修生

②対象科目

修了算入単位として登録した科目が対象となる。(自由科目や随意科目等の修了非算入科目は対象外)
ただし、以下の成績評価の場合は GPA の計算対象から除外される。

- ・「H」(成績保留) ※成績確定後に対象となる。
- ・「P」(合格) および「Q」(不合格)
- ・「N」(単位認定)

③ GPA の通知・証明

GPA の対象科目の成績および GPA が記載された「GPA 証明書」を発行する。

なお、「成績証明書」には GPA は記載されない。成績通知書、MyWaseda の成績照会には記載される。

20 科目等履修生

科目等履修生には官公庁、外国政府、学校、研究機関、民間団体等の委託に基づく委託科目等履修生と、それ以外の一般科目等履修生とがある。科目等履修生の入学時期は学期の始めとする。ただし、委託科目等履修生は事情により学期の中途においても入学を許可することがある。一般科目等履修生の在学期間は半年間または1年間であり、引き続き科目等履修生として入学を志願する場合には改めて願い出なければならない。

①科目等の履修および単位について

委託科目等履修生および一般科目等履修生は、正規の学生の修学の妨げにならない限り授業科目および特定課題についての研究指導を受けることができる。

なお、履修できる科目は研究指導・演習・講義は、

半年間で履修できる科目は14単位まで、

1年間で履修できる科目は28単位まで(研究指導は0単位)。

修士課程に正規生として入学した場合は、単位振替願を提出することによって、履修生として修得した単位のうち10単位までを修士課程修了単位数に振り替えることができる。

「留学」の在留資格をもつ外国学生は、1週間10時間(7科目相当)以上の科目の登録が必要なので注意すること。

②学費について(2022年度)

履修料	1単位につき	58,100円
研究指導料	修士課程	290,500円(春学期)・290,500円(秋学期)
	博士後期課程	226,750円(春学期)・226,750円(秋学期)
実験演習料	実験をとまう場合にものみ必要	

※研究指導および演習科目履修者に対しては、実験演習料を徴収する。

※次の者は選考料(25,000円)を免除する。

- イ. 本学大学院正規学生であった者で、引き続き科目等履修生として入学を志願し許可された者。
- ロ. 前項の規定により科目等履修生となった者で次年度以降も引き続き科目等履修生として入学を志願し、許可された者。
- ハ. (イ)の規定によらない履修生で、引き続き履修生として入学を志願し許可された場合には、2年間に限り免除とする。

I 特徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付録

1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目推奨科目
8. 実体情報学コース
9. 数物系科学コース要項
10. 演習・実験
11. インターンシップ
12. ボランティア
13. 学費
14. 共通科目
15. 専攻別案内

建築
総合機械
経営システム
経営デザイン
建設
地球資源
16. 就職免許
17. 授業時間帯
18. レポート・論文作成
19. 成績の表示
20. 科目等履修生

IV

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

学生生活

1	Support Anywhere	1. Support Anywhere
2	理工学術院および創造理工学研究科 Web サイト	2. Web サイト
3	学籍番号	3. 学籍番号
4	クラス担任制度	4. クラス担任
5	学生相談	5. 学生相談
6	就職	6. 就 職
7	学生証	7. 学生証
8	各種証明書類の交付	8. 証明書交付
9	各種異動・変更手続	9. 各種願提出
10	奨学金制度	10. 奨学金
11	掲示	11. 掲 示
12	学生の課外活動	12. 課外活動
13	安全管理	13. 安全管理
14	海外留学等	14. 海外留学
15	禁煙キャンパス	15. 禁煙 キャンパス
16	自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止	16. 自転車禁止
17	図書館（理工学生読書室・理工学図書館）	17. 図書館・ 読書室
18	コンピュータ・ルーム	18. コンピュータ・ ルーム
19	実験施設紹介	19. 実験施設
20	保健センター西早稲田分室	20. 保健センター
21	授業欠席の取り扱いについて	21. 授業欠席の取り 扱いについて
22	授業期間中の全学休講の取り扱いについて	22. 授業期間中の全学休講の 取り扱いについて
23	緊急時の通知方法	23. 緊急時の 通知方法

1 Support Anywhere

この研究科要項とは別に、豊富な学内情報をまとめた Web サイト「Support Anywhere（サポエニ）」に施設利用や学生生活に関する情報が掲載されている。研究科要項と共に活用してもらいたい。

<https://wnpspt.waseda.jp/student/supportanywhere/>

2 理工学術院および創造理工学研究科 Web サイト

本研究科では Web サイトを開設し、インターネットを通じた情報発信を行っている。各専攻からの案内、各種申請手続や日程等の事務所からの情報、実験室等に関する情報を掲載している。

<https://www.waseda.jp/fsci/>

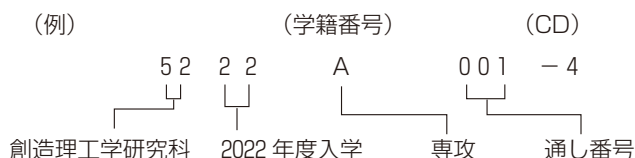
<https://www.cse.sci.waseda.ac.jp/>

3 学籍番号

本研究科は、学生個人について入学時に学籍番号を定めている。この学籍番号は、修士課程、博士後期課程別になっており、それぞれの在学期間を通じて変更はない。

最初の 2 桁 52 は創造理工学研究科、次の 2 桁は入学年度（西暦下 2 桁）、次の 1 桁（アルファベット）は専攻コード（専攻コード参照）、最後の 3 桁は所属専攻内における学生の番号を示す。

なお、学籍番号とは別にコンピュータに入力する際にだけ使用するチェック・デジット（略称 CD）1 桁を付ける。これはコンピュータへの入力ミス防止のためのものである。



専攻コード

- A 建築学専攻
- B 総合機械工学専攻
- C 経営システム工学専攻
- D 建設工学専攻
- E 地球・環境資源理工学専攻
- F 経営デザイン専攻

種 別	通 し 番 号
修士課程	001 ～
博士課程	501 ～
(修士)再入学	601 ～
(博士)再入学	651 ～
(博士)一般科目等履修生 委託科目等履修生 外国人特別研修生	801 ～
(博士)交流学生	851 ～
(修士)一般科目等履修生 委託科目等履修生	901 ～
(修士)交流学生	951 ～

4 クラス担任制度

学生生活等について、諸君の相談相手となって、必要な指導助言を与えるために、クラス担任制度が設けられている。教員との人間的ふれあいや、勉学上・個人生活上のアドバイスを希望する者は、この制度を利用して、学生生活をより有意義なものとするのが望ましい。詳細については、理工学術院 Web サイトで確認すること。なお、面会を希望する場合は、直接研究室、教員に予約をとること。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 就 職

7. 学生証

8. 証明書交付

9. 各種願提出

10. 奨学金

11. 掲 示

12. 課外活動

13. 安全管理

14. 海外留学

15. 禁煙
キャンパス

16. 自転車禁止

17. 図書館・
読書室

18. コンピュータ・
ルーム

19. 実験施設

20. 保健センター

21. 授業欠席の取り
扱いについて

22. 教職課程中の学生課目の
取り扱いについて

23. 緊急時の
通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

5 学生相談

(1) 理工学術院統合事務所 (51 号館 1 階)

科目登録・授業・試験・成績・学籍（休学・留学・退学等）・教室貸与・奨学金等，修学上に関わるすべての事項について，その相談に応じている。また，遺失物や拾得物も管理しているので，これらに関する質問があれば随時相談すること。

URL:<https://www.waseda.jp/fsci/students/counter/>

(2) ハラスメントの防止

本学では，「早稲田大学におけるハラスメント防止に関するガイドライン」を制定し，相談を受け付け，その解決に取り組むだけでなく，パンフレットや Web サイト等での広報や，研修等を通して，啓発・防止活動を実地しています。

Q ハラスメントとは何ですか？

A ハラスメントとは，性別，社会的身分，人種，国籍，信条，年齢，職業，身体的特徴等の属性あるいは広く人格に関わる事項等に関する言動によって，相手方に不利益や不快感を与え，あるいはその尊厳を損なうことをいいます。大学におけるハラスメントとしては，性的な言動によるセクシュアル・ハラスメント，勉学・教育・研究に関連する言動によるアカデミック・ハラスメント，優越的地位や職務上の地位に基づく言動によるパワー・ハラスメントなどがあります。

Q ハラスメントはどうして問題なのですか？

A ハラスメントをされた側にとっては，安心して学習・研究・労働する環境が阻害され，悪影響が生じ，学習・研究・労働する権利の侵害，つまり，人権侵害になるからです。ごく気軽な気持ちでの行為や言動が相手にとっては耐えられない苦痛となっていることもあります。結果として，日常生活に支障をきたすことも少なくありません。

Q 学生が加害者になることもあるのか？

A はい，ありえます。例えばサークルのコンパで性的な言動を繰り返したり，飲酒を強要したり，交際をしつこく迫った結果，相手が不快感を持った場合には，セクシュアル・ハラスメント，パワー・ハラスメントになりえます。

Q 「ハラスメントかな」と思ったら？

A あなた自身が被害に遭った時，友人からの相談を受けた時は，気軽に相談窓口に連絡してください。専門のスタッフが対応します。相談の流れなど，詳しい内容につきましては，下記 Web サイトも参照してください。

■コンプライアンス推進室（旧 ハラスメント防止室）

初回相談は，電話・メール・FAX・手紙どの方法でも OK。来室前なら匿名でも結構です。あなたのプライバシーと意向を最大限に尊重します。来室希望の場合は，Web サイトをご確認の上ご予約ください。

☐相談窓口 ※相談しやすい方にご相談ください。

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 就 職
7. 学生証
8. 証明書交付
9. 各種願提出
10. 奨学金
11. 掲 示
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 禁煙 キャンパス
16. 自転車禁止
17. 図書館・ 読書室
18. コンピュータ・ ルーム
19. 実験施設
20. 保健センター
21. 授業欠席の取り 扱いについて
22. 授業時間外の全学講義の 取り扱いについて
23. 緊急時の 通知方法

(学内) コンプライアンス相談窓口 (コンプライアンス推進室) 【E-mail】 compliance@list.waseda.jp 【URL】 https://www.waseda.jp/inst/harassment/ 【開室時間】 月～金 9:30～17:00
(学外) 相談窓口 (委託先 NEC VALWAY 株式会社) 【TEL】 0120-123-393 【相談時間】 月～金 8:30～19:00 土 8:30～17:00 (日祝日, 年末年始を除く) ※英語・中国語対応可能 【URL】 https://koueki-tsuhou.com/WFcXVtaEFdCd/ ※詳しくは Web サイトをご覧ください。

(3) スチューデントダイバーシティセンター

スチューデントダイバーシティセンターでは、国籍、エスニシティ、性別（男女だけではなく多様な性）、性的指向・性自認、障がいの有無などにかかわらず、多様な学生の豊かな学生生活環境の確保と、多様な価値観や生き方を受容するキャンパスづくりの推進を目的に、下記3オフィスが連携し支援や啓発を行っている。気軽にご相談、お問合せいただきたい。

ICC (異文化交流センター)

場所：3号館1階 TEL：03-5286-3990 E-mail：icc@list.waseda.jp

ラウンジ開室時間：授業実施期間 月～金 10:00～18:00 土 10:00～17:00

授業休止期間 月～金 10:00～17:00 土 閉室

URL：<https://www.waseda.jp/inst/icc/>

障がい学生支援室

身体障がい学生支援部門

場所：3号館1階110 TEL：03-5286-3747 E-mail：shienshitsu@list.waseda.jp

発達障がい学生支援部門

場所：27-10号館5階502 TEL：03-3208-0587 E-mail：shien02@list.waseda.jp

開室時間：月～金 9:00～17:00

URL：<https://www.waseda.jp/inst/dsso/> (両部門共通)

GSセンター (ジェンダー・セクシュアリティセンター)

場所：10号館2階213 E-mail：gscenter@list.waseda.jp

開室時間：月～金 9:00～17:00

URL：<https://www.waseda.jp/inst/gscenter/>

I 特徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録
1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 就 職
7. 学生証
8. 証明書交付
9. 各種願提出
10. 奨学金
11. 掲 示
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 禁煙キャンパス
16. 自転車禁止
17. 図書館・読書室
18. コンピュータ・ルーム
19. 実験施設
20. 保健センター
21. 授業欠席の取り扱いについて
22. 教職課程中の学生実習の取り扱いについて
23. 緊急時の通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

6 就職

(1) 就職活動

理工系学生の企業への応募方法には、「自由応募」と「推薦応募」の2種類がある。「自由応募」とは、各企業等からの求人情報をもとに、自分の希望する企業に直接応募する制度であり、現在の文系の就職活動はこの方法によって行われている。また、「推薦応募」とは理工系独自の応募形態であり、就職希望者の推薦を依頼してくる企業に対して、大学（学部・研究科・学科・専攻等）が推薦を行う制度である。企業が学科・専攻に推薦枠を指定してくる場合があるので、大学（学部・研究科・学科・専攻等）は学生の希望を確認し、希望者が多い場合には選考等を行った上で、被推薦者を決定することになる。詳細は各学科・専攻の就職担当教員に確認すること。

(2) 就職担当教員の指導等

各学科・専攻では、卒業予定者を対象に進路指導を行う就職担当教員を配置し、就職活動や進学について、適宜、必要な指導・アドバイスをこなっている。学生は就職内定状況等、現在の活動状況をその都度担当教員に報告すること。

(3) 就職推薦状について

学部長・研究科長名での推薦状の発行は6月1日からとなる。推薦状が必要な学生は所属の学科・専攻連絡事務室にて定められた期間に所定の手続きを行うこと。発行にあたっては、6月1日に卒業・修了見込みがたっていることが前提となる。学科・専攻長名あるいは就職担当教員名で発行される「推薦状」あるいは「紹介状」については、学科・専攻の連絡事務所、就職担当教員に確認すること。

(4) 就職資料室等の利用

諸資料は、61号館1階の「就職資料室」に配架している。また、一部連絡事務室に掲示される場合がある。就職資料室では、求人情報、Uターン・Iターン情報、各企業や官公庁の資料のほかには業界・企業研究のための参考図書、情報誌、先輩の就職活動体験記等の諸資料を、自由に閲覧出来るように配架している。

(5) キャリアセンターの利用

キャリアセンターでは、自分自身のキャリア形成の考え方、学生時代の過ごし方（心構え、早稲田大学にあるリソース・チャンスをどう生かすか等）、といったアドバイスから実際の就職活動のサポートまで、幅広い支援を行っている。

〈主な活動〉

- ・ **MyWaseda によるキャリア就職支援講座の配信**（就活スタート講座・インターンシップガイダンスなど多数）
 - ・ **その他キャリア形成支援イベント**（公務員学習スタート講座、卒業生等現役社会人との交流イベント他）
 - ・ **就職支援イベント**（業界・企業研究フェア、自己分析講座他）
 - ・ **企業・求人・卒業生名簿情報の提供**（MyWaseda 内キャリアコンパス内「企業・求人情報照会」より）
- ※キャリアセンターが提供する求人情報は「自由応募」のものです。
- ・ **インターンシップの紹介および関連セミナー**
 - ・ **キャリア・就活個別相談**（進路に関することならどんなことでも）

※詳細はキャリアセンター Web サイトを確認すること。

【場所】 戸山キャンパス 30号館 学生会館 3階

【時間】 平日 10:00～16:00

（変更される場合があるので、キャリアセンター Web サイトを確認すること。）

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 就 職
7. 学生証
8. 証明書交付
9. 各種願提出
10. 奨学金
11. 掲 示
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 禁煙キャンパス
16. 自転車禁止
17. 図書館・読書室
18. コンピュータ・ルーム
19. 実験施設
20. 保健センター
21. 授業欠席の取り扱いについて
22. 授業時間外の学習時間の取り扱いについて
23. 緊急時の通知方法

【TEL】 03-3203-4332（開室日の9：00～17：00）

【E-mail】 career@list.waseda.jp

【URL】 https://www.waseda.jp/inst/career/

(6) 内定・進路の報告

卒業・修了時には必ず内定（教員・公務員を含む）・進路（進学・留学・自営・未定などを含む）を報告すること。就職以外の場合も必須。

MyWaseda → 「キャリアコンパス」 → 「内定・進路の報告」 より

7 学生証

学生証は、身分を証明するだけでなく、修学上の様々な場面で必要となるので、常に携帯し、破損・紛失のないよう注意すること。学生証は、他人に貸与または譲渡してはならない。

なお、学生証とは、「学生証カード」と有効年度を表示した「裏面シール」からなり、「学生証カード」の裏面に、「裏面シール」を貼り合わせて初めて効力が生じる。また有効期間は「裏面シール」に示された有効年度の4月1日から翌年3月31日までの1年間である。また、表面の所定の欄に氏名を記入すること。

(1) 交 付

1年次の学生証は、受験票と引き換えに交付する。

2年次以上については、学年末に裏面シールを交付するので、これを前年度のシールと貼り替えることで、学生証を更新したこととなる。

なお、学生証カードは在学期間中使用するが、写真変更希望者は、在学中1回に限り無料で交換できる。この場合は、理工学術院統合事務所に申し出ること。

(2) 紛 失

学生証を紛失した場合、悪用される恐れがあるので、ただちに警察に届け、理工学術院統合事務所で再交付の手続をすること。

(3) 再交付

紛失等のため再交付を受ける場合は、カラー写真（縦4cm×横3cm）を添付した所定の「再交付願」を理工学術院統合事務所へ提出すること。なお、紛失等による再交付の手数料として2,000円が必要となる。

(4) 提 示

図書館や学生読書室の利用、各種証明書・学割・通学証明書の交付、種々の配付物を受けるとき、その他本学教職員の請求があったときは、学生証を提示しなければならない。

(5) 失 効

修了または退学などにより学生の身分がなくなると同時に、その効力を失うので、ただちに理工学術院統合事務所へ返却すること。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 就 職

7. 学生証

8. 証明書交付

9. 各種願提出

10. 奨学金

11. 掲 示

12. 課外活動

13. 安全管理

14. 海外留学

15. 禁煙
キャンパス

16. 自転車禁止

17. 図書館・
読書室

18. コンピュータ・
ルーム

19. 実験施設

20. 保健センター

21. 授業欠席の取り
扱いについて

22. 教職員の学生証の
取り扱いについて

23. 緊急時の
通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

8 各種証明書類の交付

本研究科で発行する証明書は以下の表のとおりである。発行は原則として即日発行であるが、システムメンテナンスや証明書の種類等により数日かかる場合もあるので、十分な余裕をもって申し込むこと。

(1) 手数料

証明書の発行には手数料が必要になる。

在学中に関わる証明書 1通 200 円（修了者がその修了日の属する月末までに申請した証明書を含む）

修了者、退学者等に関わる証明書 1通 300 円

(2) 発行方法

① 自動証明書発行機を利用の場合

学生証・暗証番号が必要となる。暗証番号は MyWaseda のパスワードを使用すること。

② 窓口で申し込む場合

所定の「証明書発行申込書」に必要事項を記入し、手数料収納証を貼付の上、学生証を添えて申し込むこと。

証明書種別一覧表（★は自動証明書発行機にて発行可）

種 別	
★在 学 証 明 書	教員免許状取得見込証明書
★成 績 証 明 書	教員免許状単位取得証明書
★卒業（修了）見込証明書	★英 文 在 学 証 明 書
卒業（修了）証明書	★英 文 成 績 証 明 書
★成績・卒業（修了）見込証明書	★英文卒業（修了）見込証明書
成 績 ・ 卒 業 証 明 書	英文卒業（修了）証明書
退 学 証 明 書	★英文成績・卒業（修了）見込証明書
学 位 取 得 証 明 書	英文成績・卒業（修了）証明書
★G P A 証 明 書	★英 文 G P A 証 明 書
そ の 他 証 明 書	

(3) 学割

自動証明書発行機で無料で発行可能。

9 各種異動・変更手続

在学中、本人または保護者等に何らかの異動や事故等があった場合は、必ずその事項について所定の手続を行わなければならない。各種願・届は理工学術院 Web サイトで入手できる。

(1) 休学

① 休学の条件

病気やその他の正当な理由により、引き続き2か月以上授業（試験を含む）に出席できない者は、研究科所定の申請手続を行い、研究科長の許可を得たのち、休学できる。休学にあたっては、クラス担任または指導教員との面談を行い、必要書類を揃えたうえで、各学期の提出期日までに手続を済ませること。

休学種別	休学願の提出期日	休学終了日	復 学 日	休学年数
春学期休学	5月31日まで	9月20日	9月21日	0.5年
秋学期休学	11月30日まで	翌年3月31日	翌年4月1日	0.5年

② 休学期間

休学は春学期休学あるいは秋学期休学の2種類とし、当該学期限りとする。ただし、特別の事情があ

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 就 職
7. 学生証
8. 証明書交付
9. 各種願提出
10. 奨学金
11. 掲 示
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 禁煙 キャンパス
16. 自転車禁止
17. 図書館・ 読書室
18. コンピュータ・ ルーム
19. 実験施設
20. 保健センター
21. 授業欠席の取り 扱いについて
22. 授業時間外の学習の 取り組みについて
23. 緊急時の 通知方法

る場合には、引き続き休学を許可することがある。休学期間は在学年数に算入しない。春学期・秋学期継続休学または秋学期から次年度春学期継続休学を希望する者は復学手続時に休学継続を願い出ること。なお、在籍中に休学できる期間は、通算して修士課程2年（※）、博士後期課程3年を超えられない。（※）経営デザイン専攻社会人特別履修プログラムは通算して1.5年を超えられない。

③ 休学期間の学費

休学願の提出日より、休学中の学費は下表のとおりとなる。

春学期休学願	学費	秋学期休学願	学費
4月30日まで ※1	休学中在籍料 50,000 円	10月31日まで ※1	休学中在籍料 50,000 円
	学生健康増進互助会費 1,500 円		学生健康増進互助会費 1,500 円
5月1日から 5月31日まで	当該学期の全額	11月1日から 11月30日まで	当該学期の全額

※1 修士所定年限の最終学期休学時のみ、別途校友会費 40,000 円が必要となる。ただし、本学学部の正規課程出身者を除く。

※入学と同時に最初の学期を休学する場合は、学費の減額はなし。

※「兵役」を理由に休学する場合は、事前に理工学術院統合事務所に相談すること。

(2) 留学

- ① 外国の大学等高等教育機関に1学期相当期間以上在学し、学習または研究活動等を行う場合、研究科所定の申請手続に基づき、研究科長の許可を得て、「留学」できる。「留学」となるかどうか不明な場合には、事前に理工学術院統合事務所に確認すること。
- ② 在籍中に留学できる期間は1年間相当とする。特別な事情がある場合は、さらにこれを延長できる。
- ③ 本学で主催する一部の留学プログラムを除いては、留学期間は在学年数に算入しない。ただし、留学先の大学等において修得した単位数、その修得に要した期間、その他を勘案して、本学における教育課程の一部を履修したと認められた場合は、留学期間のうち1年または1学期を在学年数に算入できる。詳細は理工学術院統合事務所に問い合わせること。
- ④ 留学期間中の学費については、理工学術院統合事務所に問い合わせること。ただし、留学センターが主催する留学の場合は、留学センターにて確認すること。「14. 海外留学等」も確認すること。

(3) 復学

- ① 復学対象者（休学・留学期間終了者）に対し、復学の手続が必要とされる時期に、理工学術院統合事務所からその手続に関する書類を送付するので、これに従って手続を行うこと。
- ② 復学は学期始めに限られる。

(4) 退学

- ① 退学を希望する場合は、学生証を添えて、理工学術院統合事務所へ申し出ること。
- ② 学期の途中で退学をする場合でも、その期の学費を納めなければならない。

ただし、手続を4月14日までに完了した場合には春学期分学費が、9月末日までに完了した場合には秋学期分学費が、それぞれ発生しない。

詳細については、理工学術院統合事務所に問い合わせること。

(5) 再入学

正当な理由で退学した者が、再入学を願い出た場合、退学した学年の翌年度から起算して、修士課程は4年度まで、博士後期課程は5年度までの間に限り許可されることがある。詳細については、理工学術院統合事務所に問い合わせること。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. Support
Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 就 職

7. 学生証

8. 証明書交付

9. 各種願提出

10. 奨学金

11. 掲 示

12. 課外活動

13. 安全管理

14. 海外留学

15. 禁煙
キャンパス

16. 自転車禁止

17. 図書館・
読書室

18. コンピュータ・
ルーム

19. 実験施設

20. 保健センター

21. 授業欠席の取り
扱いについて

22. 休学期間の学費減
免の取り扱いについて

23. 緊急時の
通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

(6) 保護者等・学費負担者変更届

- ① 本人の住所・電話番号等が変更された場合は、直ちに MyWaseda の「個人情報照会・変更」画面から変更届けを行うこと。また、本人の住所が変更された場合は、Waseda メールアドレス宛に承認メールが届いた後、理工学術院統合事務所に新しい学生証の裏面シールを受け取ること。
- ② 保護者等または学費負担者の住所・電話番号等が変更された場合は、直ちに理工学術院統合事務所で所定の手続を行うこと。
- ③ 在学中に改姓（名）をした場合は、戸籍抄本等を添付のうえ、直ちに理工学術院統合事務所で所定の手続を行うこと。
- ④ 死亡その他の理由で保護者等を変更する場合は、直ちに新しい保護者等を届け出ること。

10 奨学金制度

本学には、多くの奨学金制度が準備されている。奨学金には返還の必要のない「給付」奨学金と返還の必要がある「貸与」奨学金がある。

奨学金に出願する場合は、毎年、西早稲田キャンパス 53 号館 1 階にて配布する「奨学金情報 Challenge」を入手し、そこに記載されている所定の手続（奨学金登録）をする必要があるため十分に注意すること（一部の奨学金を除く）。なお、出願資格は日本国籍を有する者、または永住者・定住者・日本人（永住者）の配偶者、子である。

その他の奨学金の募集等があった場合は、随時、正門掲示板（学生支援掲示板）、および理工学術院 Web サイトに掲示する。各専攻における独自の奨学金に関しては、専攻からの情報に注意すること。

なお、家計支持者の死亡・失職または災害等により、家庭の経済状況が急変した場合は、未登録であっても奨学課に申し出ると、早稲田大学緊急奨学金・日本学生支援機構奨学金の緊急・応急採用等が適用される場合がある。

在留資格が、永住者・定住者・日本人（永住者）の配偶者、子以外の場合、外国人留学生向けの奨学金の対象となる。外国人留学生対象の奨学金の一覧は、「早稲田大学留学生ハンドブック」に記載されている。奨学金希望者は、理工学術院 Web サイトにて周知される奨学金に、募集のある都度申し込むこと。

11 掲示

(1) 立看板について

原則として西早稲田キャンパス内でのサークル等学生団体の立看板は認めない。ただし、正当な理由であると判断された場合は設置を許可する場合もある。理工学術院統合事務所総務課に問い合わせること。

許可された場合は、①通行の妨げになるような場所への設置はしないこと、②倒れないように針金等で固定をすること、③保護のため樹木への固定は行わないこと、とする。

また貸出しは掲示板のみ行っている。掲示物の印刷・貼り付け等は借主が各自で行うこと。

(2) 掲示物・ビラについて

掲示板については、次項の表を参照すること。掲示板を使用する際は、次のルールに従うこと。ルールに反する場合には撤去する。

- ① 理工学術院統合事務所に申し出て承認を受けること。
- ② 掲示の期限を明示すること。
- ③ 期限を過ぎたものは自ら撤去すること。
- ④ ビラの配布は原則禁止とする。

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 就 職
7. 学生証
8. 証明書交付
9. 各種願提出
10. 奨学金
11. 掲 示
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 禁煙 キャンパス
16. 自転車禁止
17. 図書館・ 読書室
18. コンピュータ・ ルーム
19. 実験施設
20. 保健センター
21. 授業欠席の取り 扱いについて
22. 授業時間外の全学講義の 取り扱いについて
23. 緊急時の 通知方法

掲示板一覧

場所	掲示板名称	掲示内容
正門掲示板	総合案内掲示板	各掲示板の掲示内容案内 講演会案内 催物案内 学生の会イベント インターンシップ情報 イベント情報
	入試掲示板	入試情報
	学生支援掲示板	学部奨学金・大学院奨学金 就職情報・キャリアセンターからのお知らせ 資格
	授業関連掲示板	他箇所関係（グローバルエデュケーションセンター，教職他） 科目登録情報 休講情報 レポート 試験情報
51・60・61 号館北側 外通路	学科・専攻ごとの掲示板	学科・専攻ごとのお知らせ
56 号館 1 階	実験掲示板	応用物理学実験等の情報
57 号館 2 階 ラウンジ	案内掲示板	催物案内 イベント情報
51号館学生ラウンジ	学生の会限定掲示板	学生の会 告知スペース
西門掲示場	西門掲示板	各掲示板の掲示内容案内 講演会案内
50 号館 3 階	50 号館事務所掲示板	TWIns 関連情報，50 号館セミナールーム時間割表，講演会案内

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support
Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 就 職

7. 学生証

8. 証明書交付

9. 各種願提出

10. 奨学金

11. 掲 示

12. 課外活動

13. 安全管理

14. 海外留学

15. 禁煙
キャンパス

16. 自転車禁止

17. 図書館・
読書室

18. コンピュータ・
ルーム

19. 実験施設

20. 保健センター

21. 授業欠席の取り
扱いについて

22. 授業開始中の学生機嫌の
取り扱いについて

23. 緊急時の
通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

12 学生の課外活動

学生生活は本来勉学を中心として展開されるべきである。しかし専門の知識を得ることのみに終始することは決して望ましいことではない。科学技術の根幹を理解するには多くの知識を必要とするが、それだけに、視野が狭くなりがちである。孤立した個人的な生活、少数の仲間とだけの閉鎖的な生活からは、広い教養と豊かな人間性を持った人物は生まれにくいものである。

本学術院には教員、卒業生、在学生で構成されている多くの学会がある。この学会には学生会部があつて、課外活動に対して種々の便宜が与えられている。本学術院の特殊性を生かした学生会部と連絡を密にし、課外活動によって学生生活の充実をはかることが望まれる。

学生の課外活動は、大学という集団の中で最大限の自由が保障されなければならないことは言うまでもないが、それだけに、諸君は責任を持ち、規律を守らなければならない。課外活動はそれを通じて自己の人間形成をはかり、将来社会で活動する準備をすることが目的であるから、ある特定の目的をもつ外部の団体に左右され、プロ化して行動をすることは慎むべきだろう。

学生生活で諸君は種々の困難につきあたるにちがいない。その時は学友、指導教員との話し合い、あるいは保健センターの利用等を通してそれらを乗り越え、悔いのない学生生活を送るよう努力してほしい。

本学には多くの学生の会およびサークルがあり（早稲田大学学生会部 Web サイト参照）、本研究科の学生もこれに参加し、活躍している。

13 安全管理

西早稲田キャンパスには、学生・教職員 10,000 人以上が集い、教育研究活動を行っている。理工系の特徴でもあるが、主に研究活動に専念する学部 4 年生、大学院生は 4,000 名を超え、多種多様な研究活動が展開されている。教育研究活動中の事故を未然に防ぐため、その他安全に関する諸課題を検討し改善を図るべく、教職員からなる「西早稲田キャンパス安全衛生委員会」が設置され、そのもとに様々な安全管理体制が組織され、安全衛生一斉点検をはじめキャンパス内の安全管理が行われている。

このような中、学生諸君には、以下の点を遵守してもらいたい。

- ・各実験科目においては、実験ガイダンスを通して、安全に関する注意があるので、それらを必ず守り、常に安全を意識して実験に取り組むこと。
- ・実験における安全については、研究分野ごとに特殊な内容があるので、指導教員等の指示に従い、作業の安全を確認して実験すること。
- ・各実験室等が開催する安全講習会等に積極的に参加し、学内ルール等を遵守すること。

また、新入生や研究室配属前の学部 3 年生を対象とした「安全 e-learning プログラム」(MyWaseda) や研究時の安全対策をまとめた「安全のてびき」(技術企画総務課 Web サイトの「安全衛生関連情報」からダウンロード可) などを活用するとともに、不明な点は関係する実験室等の技術系職員に問い合わせを欲しい。

(メールの問い合わせ：anzenrenraku@list.waseda.jp)

理工系の学生として、学内のルールはもちろん、関係する法律・条令を遵守し、自分のみならず、周囲の安全、広くは地球規模の環境安全・保全を意識し行動すること。

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 就 職
7. 学生証
8. 証明書交付
9. 各種願提出
10. 奨学金
11. 掲 示
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 禁煙キャンパス
16. 自転車禁止
17. 図書館・読書室
18. コンピュータ・ルーム
19. 実験施設
20. 保健センター
21. 授業欠席の取り扱いについて
22. 授業時間外の学習の取り組みについて
23. 緊急時の通知方法

緊急時の対応

(1) けが・重病

大けが・重病の場合には、学内緊急電話（学内緊急電話：内線 2000（西早稲田キャンパス内からのみ）、外線 03-5286-3022）に連絡すること。緊急性（動かせないほうがよい・動かせない場合も含む）があると判断し、直接 119 番に通報した場合は、救急車誘導のため学内緊急電話にも必ず連絡すること。けがをした人・具合の悪い人が動かせる場合には、保健センター（西早稲田分室 51 号館 1 階：内線 2640）で処置を受け、必要があれば学外の医療機関で治療を受ける。同センターが不在のときは学内緊急電話に連絡すること。

西早稲田キャンパスには 7 台の AED が設置されていて緊急事態の場合、状況に応じて使用できる。

【参考：AED 設置場所】http://www.tps.sci.waseda.ac.jp/03_safety/aed/aedlayout.pdf

緊急時の心肺蘇生、AED の使用方法などに関心がある学生は「普通救命講習」を受講すること。詳細は技術企画総務課 Web サイトまたは MyWaseda などでも通知する。

(2) 火 災

近くにある消火器で初期消火するとともに、場所・状況等を学内緊急電話に至急連絡し、その指示を受けること。消火器で消火できない場合には、近くの人とともに避難すること。教室棟の廊下等には非常用電話（赤いボックス）が設置されているので、それを使って学内緊急電話（内線 2000）に連絡できる。

(3) 大地震

地震が静まるまで、机等の下で身の安全を確保する。大学は、大学本部・各キャンパスに対策本部を設け、情報の収集、学生・教職員の安全確保をはかることにしているため、その指示に従うこと。大学総務部発行の「大地震対応マニュアル（学生用）」を参考にすると良い。

14 海外留学等

海外留学についての時期・学費・単位認定の可否および学部独自のプログラムについては理工学術院統合事務所教学支援課に相談し、全学生を対象にした本学の海外留学プログラムの内容や応募手続方法などについては、留学センター作成の「留学の手引き」や留学センター Web サイト（<https://www.waseda.jp/inst/cie/>）をまず参照すること。

全学生を対象にした本学の留学プログラムの概要は、大別すると以下のとおりであるが、留学センター提供の留学プログラムへの参加を検討する学生は、4 月と 10 月に開催される「留学フェア」への参加を勧める。留学の概要説明や注意点、プログラムの情報入手方法、Waseda Global Gate の使用方法など、留学を検討するのに有益な情報が得られる。特に長期留学の場合、遅くとも 1 年以上前からの準備が必要であるため、年間を通した留学応募手続案内などの具体的日程や情報案内等について、随時留学センター Web サイトで確認すること。

本学の留学プログラムの留学費用については、プログラムによって取扱いが異なる。奨学金は、日本学生支援機構（JASSO）の海外留学支援制度（協定派遣）奨学金、WSC メンバーズ基金グローバル人材育成奨学金、早稲田大学学生交流奨学金等があり、奨学金の募集要項等は留学先大学が決定した後に配付される。また、留学先が決定する前に奨学金受給の可否が分かる「（予約採用型）早稲田の栄光奨学金」、「（新設、予約採用型）ハバタケ世界の空奨学金」などもある。詳細については、留学センターの Web サイトや「留学の手引き」を確認すること。

大学院生が早稲田大学の交換留学制度を利用して留学をしようとする場合、学部生とは異なった準備やプロセスが必要となる場合があり、注意が必要である。特に欧米の大学で、大学院生の研究内容がより専

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support
Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 就 職

7. 学生証

8. 証明書交付

9. 各種願提出

10. 奨学金

11. 掲 示

12. 課外活動

13. 安全管理

14. 海外留学

15. 禁煙
キャンパス

16. 自転車禁止

17. 図書館・
読書室

18. コンピュータ・
ルーム

19. 実験施設

20. 保健センター

21. 授業欠席の取り
扱いについて

22. 教職員の学生相談の
取り組みについて

23. 緊急時の
通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

門的であることから、派遣先の事情により受入がスムーズに認められないことがある。留学先機関の変更を求められたり、受入自体が不可となることもある。その場合、代わりの受け入れ先を提供されることもあれば、そうでない場合もある。交換留学では、受入に関わる決定は基本的には先方に委ねられているので、こうしたリスクが生じやすいことも認識しておく必要がある。

プログラムの概要

(1) Double Degree Programs (DD)

本学在学中にダブルディグリーのカリキュラムを提供する大学に留学し、所定の要件を満たせば、卒業する際に本学の学位と留学先大学所定の学位の両方を取得できるプログラム。留学先大学におけるダブルディグリー課程修了のためには、外国語に関する高度な読解力、聴解力、会話力が求められるため、参加希望者の語学力については特に厳格な審査を行う。なお、プログラムによって、対象学部・研究科や期間が異なる。

(2) Exchange Programs (EX)

大学間あるいは箇所間の交換協定に基づき留学する制度。留学期間は原則として1学年相当期間だが、1学期間のももある。最初から比較的高い語学力が要求され、現地の学生と共に通常科目を履修するプログラムが一般的である。ただし、一部外国語学習を中心としたプログラムもある。人数枠は通常、各校1～3名である。学費は原則として本学に支払い、留学先大学の学費は免除される。

(3) Customized Study Programs (CS)

留学先大学が早稲田大学生のために定めるカリキュラムに参加するプログラム。最初から通常科目を履修できるプログラムと、外国語学習を中心としながら、語学レベルに応じてテーマに基づいたカリキュラムを履修するプログラムの大きく分けて2種類がある。留学期間は原則として1学年相当期間だが、1学期間のももある。学費は原則として本学のものは免除になり、留学先大学に所定のプログラムフィーを支払う。

【プログラム種別】

上述の(2)・(3)のプログラムは更に、以下の2種類に分類される。

a. Regular Academic Programs

留学先大学の通常カリキュラムの中で、現地の学生と共に通常科目を履修する。

b. Language Focused Programs

留学先大学では外国語を中心として学習するが、一部、通常科目を履修することが可能な場合もある。

<組み合わせ例>

プログラム名称	プログラム種別	略称
Exchange Programs (EX)	Regular Academic Programs	EX-R
	Language Focused Programs	EX-L
Customized Study Programs (CS)	Regular Academic Programs	CS-R
	Language Focused Programs	CS-L

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 就 職
7. 学生証
8. 証明書交付
9. 各種願提出
10. 奨学金
11. 掲 示
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 禁煙 キャンパス
16. 自転車禁止
17. 図書館・ 読書室
18. コンピュータ・ ルーム
19. 実験施設
20. 保健センター
21. 授業欠席の取り 扱いについて
22. 授業期間中の全学講義の 取り扱いについて
23. 緊急時の 通知方法

(4) 短期プログラム

夏季・春季休業期間に実施する2週間から8週間程度の短期プログラム。内容はプログラムごとに異なるが、語学研修、テーマ研究等を学ぶカリキュラムになっている。長期での留学が難しい学生、あるいは長期留学の前に自分の異文化適応力や外国語能力を試す目的で短期留学プログラムに参加してみたい学生にすすめる。交換留学協定校による学費免除のプログラムも一部提供している。

(5) その他の留学

早稲田大学が提供するプログラムの中に希望する留学先がない場合や、早稲田大学を卒業後に大学院留学をする場合は、自分で留学先を探して留学することになる。私費留学は、自分で希望大学から入学許可を得、私費で留学先の学費と生活費をまかなう形の留学形態をいう。私費留学のカテゴリーの中には、もっとも語学習得のための留学や、Visiting StudentあるいはNon-degree Studentといった呼称で呼ばれるものもある。出願は通常入学する時期の約半年前で締め切られる。最近ではインターネットで出願を受け付ける大学も出てきているが、余裕をもった準備が必要となる。また、留学先で取得した単位が帰国後に早稲田大学で認定されない場合があるので、理工学術院統合事務所でよく確認すること。学籍上の扱いについても、ケースによって異なるため理工学術院統合事務所に確認すること。また、研究科独自に主催される留学プログラムが、その都度研究科・掲示板にて募集される場合がある。

15 禁煙キャンパス

受動喫煙（他人のタバコの煙を吸わされること）の防止を謳った健康増進法の施行、文部科学省通達、新宿区条例の施行および分煙化徹底についての本学理事会決定に基づき、西早稲田キャンパスにおける分煙ルールを以下のように定めている。各自、分煙ルールを厳守すること。また、通学中の路上喫煙に関しては、マナーとルールを守ること。早大生としての自覚を持った行動が望まれる。

1. 「喫煙指定場所」を除き、公共の場所（教室・ゼミ室、実験室、会議室、ラウンジ、ホワイエ、アトリウム、図書館・学生読書室、生協施設、中庭、廊下・階段・通路・エレベータ、トイレ等）、および屋外エリアを禁煙とする。
2. 研究室など、ゼミや学生指導を行う場合は教室とみなし、禁煙とする。
3. 歩行喫煙、吸殻の投げ捨て等は厳禁とする。

16 自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止

学生が西早稲田キャンパス内へ自転車、バイク、自動車を乗り入れ、駐輪・駐車することは、原則として禁止している。また、周辺道路も終日駐車禁止となっているため、自転車、バイクおよび自動車を通学に利用することを禁止する。なお、自転車の場合に限り、特別の事情がある場合は理工学術院統合事務所総務課（51号館1階）に問い合わせること。

これまで、本学の学生によるものと思われる正門前道路や明治通り側歩道等の違法駐輪・駐車に対して近隣住民からたびたび苦情が寄せられ、所轄の警察署からも再三にわたり厳しい注意をうけている。また、この迷惑駐車が原因となって交通事故も発生している。周辺道路の駐車禁止を厳守すること。自分だけなら、違法駐輪しても問題ないという意識を捨て、早大生としての自覚を持った行動が望まれる。

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付録

1. Support
Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 就 職

7. 学生証

8. 証明書交付

9. 各種願提出

10. 奨学金

11. 掲 示

12. 課外活動

13. 安全管理

14. 海外留学

15. 禁煙
キャンパス

16. 自転車禁止

17. 図書館・
読書室

18. コンピュータ・
ルーム

19. 実験施設

20. 保健センター

21. 授業欠席の取り
扱いについて

22. 教職員の学務課の
役割について

23. 緊急時の
通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 就 職
7. 学生証
8. 証明書交付
9. 各種願提出
10. 奨学金
11. 掲 示
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 禁煙 キャンパス
16. 自転車禁止
17. 図書館・ 読書室
18. コンピュータ・ ルーム
19. 実験施設
20. 保健センター
21. 授業欠席の取り 扱いについて
22. 授業時間外の学習指導の 取り扱いについて
23. 緊急時の 通知方法

17 図書館（理工学生読書室・理工学図書館）

早稲田大学には全学で 20 以上の図書館・図書室等があり、総称して「早稲田大学図書館」という。学部学生は 12 箇所、大学院学生は 14 箇所の図書館・学生読書室等で資料の貸出を受けることができる。サービス全般については、図書館 Web サイト <https://www.waseda.jp/library/> に詳細な案内がある。図書館システムやサービスについての最新情報は図書館 Web サイトで確認すること。

所蔵資料は統合検索システム WINE（ワイン）<https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/> でどこからでも検索できる。WINE 上でログインすることで、自分が借り出している資料の状況確認や貸出期間の延長、資料のリクエストもできる。

図書や雑誌、新聞、視聴覚資料といった現物資料だけではなく、電子ブック、電子ジャーナルやオンラインデータベースの電子資料も多数契約しているので、活用してほしい。リサーチ NAVI「データベース・電子ジャーナルを利用する」<https://waseda-jp.libguides.com/research-navi/e-resources/jp> で案内している。自宅等、学外から電子資料を利用するには、「学外アクセス」https://www.waseda.jp/library/search_find/off-campus-access/ を経由すること。

西早稲田キャンパスには、理工学生読書室と理工学図書館がある。以下それぞれの特長と利用上の注意事項を紹介する。

(1) 理工学生読書室 52 号館地下 1 階

理工学術院の学生を主な対象とする学習図書館であり、理工系分野を中心に学習に適した日本語図書がそろっている。利用の多い本は複本制をとり、複数冊用意している。

(2) 理工学図書館 51 号館地下 1 階

理工系分野の学術雑誌と外国語を含めた図書（参考図書含む）を蔵書の中心とした研究図書館である。学習・研究のためのラーニング・コモンズを設置しており、図書館の資料や電子資料を利用しながらの議論やグループ学習ができる。

(3) 利用上の注意事項

- ① 通常授業期間中の開館時間 月～金 9:00～21:00 土 9:00～19:00
（長期休業期間中等は変更になるので図書館 Web サイトにあるカレンダーを参照のこと）
- ② 学生証は必ず持参。忘れた場合は図書館を利用できない。
- ③ 館内では喫煙、雑談、携帯電話での通話、飲食は禁止。
- ④ 図書資料は大切に扱うこと。無断持ち出し、書き込み、線引き、汚損等があった場合は厳正に対処する。
- ⑤ 貸出期限を 4 日以上超えた場合は、その本を返却するまで貸出停止となり、返却後は 1 冊につき返却期限日から経過日数分の貸出停止となる。
- ⑥ 契約電子資料の利用に際しては、ルールを遵守すること。<https://waseda-jp.libguides.com/imas/help#notice>
- ⑦ 一部の雑誌については、埼玉県にある本庄保存書庫へ別置している。
- ⑧ 理工学生読書室には図書館ラーニング・アシスタントがいるので、わからないことがあれば、質問すること（大学・図書館の方針等により、活動を休止する場合あり）。
- ⑨ その他図書館利用上で不明な点があったら、まずは図書館 Web サイトを検索する。それでもわからない場合は、カウンターで問い合わせるか、MyWaseda からオンラインレファレンスを利用すること。

MyWaseda → 「研究」タブ → 図書館申請フォーム → オンラインレファレンス

18 コンピュータ・ルーム

西早稲田キャンパスには、約 700 台のコンピュータが授業等で利用されている。授業等による利用が優先されるが、利用していない時間帯は、レポート作成やインターネット閲覧など自由に利用できる（オープン利用）。

63 号館 3 階（2022 年 4 月現在）

名 称	収容人数	利用可能な OS				備 考
		Win (日)	Win (英)	Linux	MacOS X	
A ルーム	80 名	○	○	○	—	島型レイアウト
B ルーム	80 名	○	○	○	—	
C ルーム	100 名	○	○	○	—	
D ルーム	48 名	○	○	—	○	教室型レイアウト
E ルーム	50 名	○	○	—	○	
F ルーム	48 名	○	○	○	—	教室型レイアウト
G ルーム	48 名	○	○	○	—	
GroupWorkSpace	約 10 名	—	—	—	—	ワイヤレスプレゼンテーションシステム設置

その他（2022 年 4 月現在）

名称	収容人数	利用可能な OS	場所
製図 / CAD 室	222 名	Windows (日)	57 号館 1 階

各コンピュータ・ルームの利用状況は、インフォメーションディスプレイ（63 号館 1 階・3 階に設置）および理工メディアセンターの Web サイト（<http://www.waseda.jp/mse/>）“コンピュータ・ルーム利用スケジュール”で確認できる。

〈相談窓口〉

学内の情報環境や各種サービス利用についての相談窓口として、ヘルプデスクが 63 号館 3 階南側に設けられている。

63 号館 3 階 情報フロアマップ / Third Floor Map at Building 63



I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録
1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 就 職
7. 学生証
8. 証明書交付
9. 各種願提出
10. 奨学金
11. 掲 示
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 禁煙キャンパス
16. 自転車禁止
17. 図書館・読書室
18. コンピュータ・ルーム
19. 実験施設
20. 保健センター
21. 授業欠席の取り扱いについて
22. 授業時間中の学習機会の取り方について
23. 緊急時の通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

○ Windows 環境を利用する
すべてのコンピュータ・ルームで Windows が利用できる。Word, Excel, PowerPoint のほか、理工系ソフトウェア、ソフトウェア開発環境などが用意されている。

○ Linux 環境を利用する
63 号館 3 階の A, B, C, F, G ルームでは Linux 環境が利用できる。主にプログラミング言語やアルゴリズム、数値解析などの授業で利用されている。

○ MacOS X 環境を利用する
63 号館 3 階の D, E ルームでは MacOS X 環境が利用できる。Word, Excel, PowerPoint のほか、Photoshop や Illustrator (E ルームのみ) などが用意されている。

○ 語学学習環境を利用する
63 号館 3 階の F, G ルームでは、ヘッドセットが常設されており、語学学習を支援する CALL システムが利用できる。主に語学の授業およびオープン利用時の自主学習で活用されている。

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 就 職
7. 学生証
8. 証明書交付
9. 各種願提出
10. 奨学金
11. 掲 示
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 禁煙 キャンパス
16. 自転車禁止
17. 図書館・ 読書室
18. コンピュータ・ ルーム
19. 実験施設
20. 保健センター
21. 授業欠席の取り 扱いについて
22. 授業時間外の学習指導の 取り扱いについて
23. 緊急時の 通知方法

19 実験施設紹介

(1) 共通実験室

西早稲田キャンパスや 50 号館 (TWIns) には、1 年次、2 年次、3 年次に履修する基礎実験科目や各学科が設置している専門実験科目などを実施する教育実験施設がある。これらを学科の枠を越えて共通的に利用していることから共通実験室と呼んでいる。これらの実験室では実験・実習科目を中心に実施しているが、ここで保有する設備は研究活動にも広く利用されている。

○理工学基礎実験室

理工学基礎実験室では、「理工学基礎実験 1」および「理工学基礎実験 2」を実施している。それぞれの学問分野ごとに、物理系基礎実験室・化学系基礎実験室・生命科学系基礎実験室・工学系基礎実験室の 4 つの実験室で構成されている。

理工学基礎実験室 (物理系) / 56 号館 2 階

「理工学基礎実験 1」の物理系分野の基礎実験を行っている。ものづくりをベースとした創造的でユニークな実験を通して物理学の基礎を学ぶ。

理工学基礎実験室 (化学系) / 56 号館 3 階

「理工学基礎実験 1」および「理工学基礎実験 2」の化学系分野の基礎実験を行っている。身近な化学的事象を扱った実験を通して、合成、抽出、分析等の化学に関する基礎的な知識と操作を学ぶ。

理工学基礎実験室 (生命科学系) / 56 号館 3 階

「理工学基礎実験 1」の生命科学系分野の基礎実験を行っている。細胞の観察や DNA の抽出などの生命科学系の基礎を学ぶ。

- 理工学基礎実験室（工学系）／63号館地下1階東側
「理工学基礎実験2」の工学系分野の基礎実験を行っている。走査型電子顕微鏡操作やコンピュータ自動計測などを通して、高度で実践的な工学系の基礎技術を修得する。
- 材料実験室／59号館1階東側
各種構造材料（金属・木材・コンクリート）の強度試験・物性試験や構造物の強度評価に関する専門実験を実施している。
- 工作実験室／59号館1階西側
機械工作設備を用いた機械工作実習を行う実験室。工作指導を受けながら研究実験用の実験装置・部品加工や試作などを行える。
- 熱工学実験室、流体実験室、制御工学実験室／58号館1階
これらの実験室ではそれぞれ、熱工学、流体工学、制御工学に関する専門実験を実施している。流体実験室では水理・水質に関する専門実験も実施している。
- 製図・CAD室／57号館1階
ドラフターと平行定規（製図台）を合わせて約400台有し、建築系、機械系の製図の基礎を習得する実習やCAD（コンピュータを使用した）による設計製図演習の授業が行われている。
- 測量実習室／61号館地下1階
さまざまな測量機器を用いた測量実習を実施している。測量実習以外にも写真測量による自然環境変化の判読や計測測定、遺跡調査等の研究に利用されている。
- 電気工学実験室／63号館地下1階西側
電気・電子系分野および情報通信分野の専門実験を実施している。また、電圧・電流・磁場の測定や回路製作などに関する技術相談も行っている。
- 化学分析実験室／56号館5階
重量分析・容量分析・機器分析など無機分析化学の専門実験を実施している。古典的な化学分析の基礎から大型装置を使用した機器分析まで幅広い知識と技術を習得できる。
- 物理化学実験室／56号館4階
化学の対象である物質や物質を構成している化合物、分子などについて、物理学的な手法を用いた専門実験を実施している。
- 有機化学実験室／56号館5階
試薬、器具・装置の取扱い方から有機化合物の合成、分離・精製など有機化学実験の基本を学ぶ。講義で学んだ反応機構などを実際に実験を通して確認し、有機化学の知識の理解をさらに深める。また、実

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付録

1. Support
Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 就 職

7. 学生証

8. 証明書交付

9. 各種願提出

10. 奨学金

11. 掲 示

12. 課外活動

13. 安全管理

14. 海外留学

15. 禁煙
キャンパス

16. 自転車禁止

17. 図書館・
読書室

18. コンピュータ・
ルーム

19. 実験施設

20. 保健センター

21. 授業内容の問い合わせについて

22. 教職課程中の学生実習の
取扱いについて

23. 緊急時の
通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

験操作を繰返し訓練することで有機化学の実験操作方法の技術を習得する。

- 生命科学実験室：先端生命医科学センター TWIns 共用実験室／50 号館 3 階
本実験室では遺伝子やタンパク質などの生体分子の取扱い方法や、細胞の培養や分画、生物個体を用いた形態学的・生理学的な実験を行い、生命科学の手法を幅広く習得する。

(2) 研究用共同利用施設

研究用共同利用施設では、研究用として共同利用が可能な大型装置や精密計測機器などが集中的に管理され、幅広い研究活動に利用されている。また、それぞれの機器利用講習会や技術相談なども行われている。

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 就 職
7. 学生証
8. 証明書交付
9. 各種願提出
10. 奨学金
11. 掲 示
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 禁煙 キャンパス
16. 自転車禁止
17. 図書館・ 読書室
18. コンピュータ・ ルーム
19. 実験施設
20. 保健センター
21. 授業欠席の取り 扱いについて
22. 授業時間外の学習の 取り組みについて
23. 緊急時の 通知方法

- 物性計測センターラボ／55 号館 S 棟地下 1 階
物性計測センターラボは、物質の構造を解析するための研究用共同利用施設である。研究室に配属された 4 年生から大学院修士課程、博士後期課程、研究員まで様々な分野の研究で利用されている。最先端の研究用計測機器が整備されているため、学内だけでなく他大学や研究機関などからの利用もある。

- マイクロテック／55 号館 N 棟地下 1 階
半導体加工装置やクリーンルームを研究用の共同利用設備として開放している。機械工学、物性物理、化学、材料工学など幅広い分野の研究者に利用されている。

- 映像情報ラボ／61 号館 3 階
マルチメディア研究や教材作成などのための映像情報系機器を、共同利用設備として開放している。大型カラープリンターを用いた学会発表やプレゼンテーション用のポスター作成などを行える。

- 先端生命医科学センター共通機器室
50 号館（TWIns）に於いて、生命科学系の資料分析に用いられる、遠心機、MS、FC、DNA シーケンサー、リアルタイム PCR、X 線回折装置、ガスクロマトグラフ、などの機器類を整備設置している。リサーチサポートセンターの管理の下、利用開放されている。

20 保健センター西早稲田分室

保健センター

保健センターは学生が健康な状態で大学生活が送れるように、健康の基礎作りと生涯を通じて心身の健康の自己管理能力を身につけるよう援助していくことを目的に設置されている。保健センターは、早稲田キャンパスのほか、各キャンパスに分室が設置されている。

なお、詳細については、Web サイト（<http://www.waseda.jp/hoken/>）を参照すること。

保健センター西早稲田分室（51 号館 1 階 07 室）

開室時間 月～土曜日 9：00～17：00

直通電話 03-5286-3021 〈学生相談直通 03-5286-3082〉

【主な業務】

- (1) 学生定期健康診断
- (2) 学生・教職員の特殊健康診断
- (3) 各種健康診断書の発行
(ただし、定期健康診断を受診した者に限る)
- (4) 健康相談
月～土曜日 9:00～17:00
- (5) 医師による診察
診察受付時間 月～金曜日 13:30～15:40
- (6) 応急救急処置、傷病者の休養
月～土曜日 9:00～17:00
※西早稲田分室の前室（入口の部屋）は常時開室しているので、簡単な傷の手当て等必要な時はいつでも利用できるようになっている。
- (7) 学生相談（51号館 1F, 9F）
月～金曜日 9:00～12:00, 13:00～17:00（予約優先）
※心理相談、学生生活全般について心理専門相談員が応じている。
- (8) 健康教育

21 授業欠席の取り扱いについて

以下の事例により、「授業欠席（オンライン授業における未受講を含む）」、「レポート未提出」、「試験未受験」に該当する場合は、所属箇所（学部・研究科等）事務所で手続きを行うことで、その間の取り扱いについて成績評価において不利にならないよう当該科目の担当教員に配慮をお願い出ることができる。ただし、欠席の取扱いの最終的な判断は、担当教員の判断による。

(1) 忌引き

- ① 対象
1 親等（親、子）、2 親等（兄弟姉妹、祖父母、孫）および配偶者
- ② 日数
授業実施日連続7日まで（ただし、対象者が海外在住者の場合は、柔軟に対応する）
- ③ 手続方法
 - I 欠席期間終了後10日以内に、所属箇所事務所より「忌引きによる欠席届」を受け取る。
 - II 「忌引きによる欠席届」（記入済）および会葬礼状等を、すみやかに所属箇所事務所に提出する。
※保護者等死去の場合は、保護者等変更の手続きも必要。
 - III 所属箇所事務所より「忌引きによる授業欠席等に関する取扱いのお願い」を受領。
 - IV 担当教員に、教場にて（オンライン授業の場合はEメール、LMS等を通じて、あるいは科目設置箇所事務所に）、「忌引きによる授業欠席等に関する取扱いのお願い」を渡し、配慮をお願い出る。

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 就 職

7. 学生証

8. 証明書交付

9. 各種願提出

10. 奨学金

11. 掲 示

12. 課外活動

13. 安全管理

14. 海外留学

15. 禁煙
キャンパス

16. 自転車禁止

17. 図書館・
読書室

18. コンピュータ・
ルーム

19. 実験施設

20. 保健センター

21. 授業欠席の取
扱いについて

22. 教職員の学業課
の取扱いについて

23. 緊急時の
通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 就 職
7. 学生証
8. 証明書交付
9. 各種願提出
10. 奨学金
11. 掲 示
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 禁煙 キャンパス
16. 自転車禁止
17. 図書館・ 読書室
18. コンピュータ・ ルーム
19. 実験施設
20. 保健センター
21. 授業欠席の取り 扱いについて
22. 授業時間外の学習事項の 取り扱いについて
23. 緊急時の 通知方法

(2) 裁判員制度

① 対象

裁判員候補者に指名され、裁判員選任手続期日、審理・公判当日に、裁判所へ出頭する本学通学課程に在学する者（国内交換留学生は、これに準ずる）

※科目等履修生や人間科学部 e スクール学生は対象外とする。

【参考】法律により学生であることを理由に、裁判員の辞退を願い出ることができる。

裁判員の参加する刑事裁判に関する法律（第十六条抜粋）

（辞退事由）

第十六条 次の各号のいずれかに該当する者は、裁判員となることについて辞退の申し立てをすることができる。

- 一 年齢七十年以上の者
- 二 地方公共団体の議会の議員（会期中の者に限る。）
- 三 学校教育法第一条、第二百二十四条又は第三百三十四条の学校の学生又は生徒（常時通学を要する課程に在学する者に限る。）

② 手続方法

I) 「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」とともに、所属箇所事務所に申し出る。

II) 担当教員に、教場にて（オンライン授業の場合は E メール、LMS 等を通じて、あるいは科目設置箇所事務所に）、「配慮願」を渡し、配慮を願い出る。

(3) 学校において予防すべき感染症【保健センター／学校保健安全法による】

① 対象

保健センター Web サイト「学校において予防すべき感染症」参照

* 新型コロナウイルス関連についても以下を確認すること。

<https://www.waseda.jp/inst/hsc/information/healthcare/infection>

② 手続方法

I) 罹患したことを、所属学部または大学院事務所に連絡する。

II) 治癒後、診断を受けた医師に「学校における感染症治癒証明書」の記入を依頼し、所属学部または大学院事務所に提出する。

III) 所属学部または大学院所定の「欠席届」に記入し、所属学部または大学院事務所の指示に従い、担当教員に配慮を願い出る。

※新型コロナウイルス感染症の場合は、出席停止を指示する範囲及び手続方法が異なる場合があるため、最新の情報を上記の保健センター Web サイトで確認すること。なお、罹患の場合のみならず、ワクチン接種の副反応による欠席および大学が出席停止を指示した場合等の欠席も、配慮を願い出ることが可能である。詳細は所属の学術院事務所で問い合わせること。

(4) 「介護等体験」「教育実習」期間の取り扱い【教職課程】

① 対象

教職課程を履修し、「介護等体験」または「教育実習」を行う者

② 日数

実習期間

※クォーター科目の履修期間中に実習期間が該当する場合、配慮が難しいため、当該期間にはクォーター科目の履修登録を行わないこと。

③ 手続方法等

介護等体験，教育実習ともに欠席配慮の申し出方法とその手続きは，対象者へ Waseda Moodle 等で通知する。所定の手続きを行うことで欠席の配慮を申し出ることができるが，この最終的な取扱いは各科目担当教員の判断による。

22 授業期間中の全学休講の取り扱いについて

気象情報悪化等，次に挙げる事案に際し，全学休講とする場合がある（休日および休業期間を除く）。休講・延期となるのは，対象キャンパスにて対面で実施されるすべての授業および試験である。

学生は大学の決定した授業の休講・試験の延期措置に原則として従うこととするが，授業が実施されるキャンパスまでの経路において，交通機関の乱れや弾道ミサイル発射に伴う Jアラート発信等により通学することが危険又は困難であると自身で判断し，通学を見合わせた場合は，所属箇所事務所による承認済みの欠席届をもって，該当科目の担当教員へ配慮を願い出ることができる。

■例外的な対応

※オンライン授業受講にあたっては，授業を受講する場所において，気象状況の影響等により受講が困難である場合は，各自で判断する。各自の判断で視聴を見合わせた場合は，後日所属学部（研究科）において手続きを行うことにより，欠席の配慮を求めることができる。

(1) 気象状況悪化

気象庁による気象警報のみに基づく授業の休講・試験の延期措置は行わない。ただし，大雨，洪水，暴風，暴風雪，大雪等の気象状況および気象庁による気象警報をもとに，危険であると判断した場合は，次の通り，授業の休講・試験の延期措置をとる。なお，大学から特段の通知等がない場合は，原則として授業の休講・試験の延期措置は行わない。

- ① 授業の休講・試験の延期措置を決定する場合は，原則として，各時限の授業・試験開始 60 分前までに決定し，以下に記載の「緊急時の通知方法」に従って周知・広報する。ただし，できる限り授業・試験開始の 2 時間前までには周知できるよう努力する。
- ② 台風や大雪等，気象状況が時間の経過とともに悪化することが十分予測される場合は，前日に授業の休講・試験の延期措置の決定を行うことがある。その場合は，前日の午後 7 時までに決定の判断を行い，学生への周知は以下に記載の「緊急時の通知方法」に従って前日の午後 9 時までに通知を行う。

(2) 大地震

大地震発生により，授業実施が困難であると判断した場合は，次の通り，授業の休講・試験の延期措置をとる。

- ① 授業の休講・試験の延期措置を決定した場合は，直ちに以下に記載の「緊急時の通知方法」で周知・広報する。
- ② 授業時間中の場合は，校内放送で迅速に周知する。

(3) 大規模停電

電力需要量が供給量を大幅に上回り，予測不能な大規模停電が発生した場合は，次の通り授業を休講とし，復旧の翌日の 1 時限から授業を再開する。

- ① 授業時間中（1～7 時限）に大規模停電が発生した場合は，状況が落ち着くまで教室待機とする。

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support
Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 就 職

7. 学生証

8. 証明書交付

9. 各種願提出

10. 奨学金

11. 掲 示

12. 課外活動

13. 安全管理

14. 海外留学

15. 禁煙
キャンパス

16. 自転車禁止

17. 図書館・
読書室

18. コンピュータ・
ルーム

19. 実験施設

20. 保健センター

21. 授業欠席の取り
扱いについて

22. 授業期間中の全学休講の
取り扱いについて

23. 緊急時の
通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

その後の授業は全て休講とする。

- ② 授業時間外に大規模停電が発生した場合は、当日の授業は全て休講とする。

(4) 首都圏の交通機関がストライキを実施した場合

早稲田・戸山・西早稲田キャンパスは①②③④を適用し、所沢キャンパスは①②③⑤を適用する。

- ① JR 等交通機関のストライキが実施された場合（ゼネスト）は次の通りとする。

- A 午前 0 時まで中止された場合、平常通り授業を行う。
- B 午前 8 時まで中止された場合、授業は 3 時限目（午後 1 時）から行う。
- C 午前 8 時まで中止の決定がない場合は、授業は終日休講とする。

上記は、JR の順法闘争および私鉄のストには適用しない。

- ② 首都圏 JR の部分（拠点）ストライキが実施された場合は通常通り授業を行う。

- ③ 首都圏 JR の全面時限ストライキが実施された場合は次の通りとする。

- A 午前 8 時までストライキが実施された場合、授業は 3 時限目（午後 1 時）から行う。
- B 正午までストライキが実施された場合、6 時限目（午後 6 時 15 分）から授業を行う。
- C 正午を越えてストライキが実施された場合、授業を終日休講とする。

- ④ 私鉄、都市交通のみストライキが実施された場合は、平常通り授業を行う。

- ⑤ 西武鉄道新宿線または西武鉄道池袋線のどちらか一方でもストライキが実施された場合、また、西武鉄道両線が実施されない場合でも西武バスのストライキが実施された場合、次の通りとする。

- A 午前 8 時までストライキが実施された場合、授業は 3 時限目（午後 1 時）から行う。
- B 午前 8 時を越えてストライキが実施された場合、授業を終日休講とする。

23 緊急時の通知方法

緊急時に大学から通知する内容は、以下の方法で確認すること。

- (1) 早稲田大学緊急用お知らせサイト <https://emergency-notice.waseda.jp/>
- (2) MyWaseda 内のお知らせ
- (3) Waseda メール

また、以下からも同一の内容にアクセスできる。

- (1) MyWaseda ログイン前画面 <https://my.waseda.jp/>
- (2) 早稲田大学公式 Web サイト <https://www.waseda.jp/>
- (3) 早稲田大学公式 Twitter https://twitter.com/waseda_univ
- (4) 早稲田大学公式 Facebook <https://www.facebook.com/WasedaU>

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 就 職
7. 学生証
8. 証明書交付
9. 各種願提出
10. 奨学金
11. 掲 示
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 禁煙キャンパス
16. 自転車禁止
17. 図書館・読書室
18. コンピュータ・ルーム
19. 実験施設
20. 保健センター
21. 授業欠席の取り扱いについて
22. 授業時間外の全学講義の取り扱いについて
23. 緊急時の通知方法

付 録

1	早稲田大学大学院学則（抜粋）	1. 学則(抜粋)
2	早稲田大学学位規則（抜粋）	2. 学位規則(抜粋)
3	大学院外国人特別研修生に関する規程（抜粋）	3. 外国人特別研修生に関する規程(抜粋)
4	大学院科目等履修生に関する規程（抜粋）	4. 科目等履修生に関する規程(抜粋)
5	大学院研究生に関する規程	5. 研究生に関する規程
6	早稲田大学校歌	6. 校歌
7	キャンパスマップ	7. キャンパスマップ
8	時間割作成用紙	8. 時間割作成用紙

1 早稲田大学大学院学則（抜粋）

第1章 総 則

（設置の目的）

第1条 本大学院は、高度にして専門的な学術の理論および応用を研究、教授し、その深奥を究めて、文化の創造、発展と人類の福祉に寄与することを目的とする。

（博士課程）

第2条 本大学院に博士課程をおく。

2 博士課程の標準修業年限は、5年とする。

3 博士課程のうち、前期2年、後期3年に区分することができ、この区分をするものを「区分制博士課程」といい、この区分をしないものを「一貫制博士課程」という。

4 区分制博士課程における前期2年の課程は「修士課程」といい、この場合における後期3年の課程は「博士後期課程」という。

5 修士課程の標準修業年限は、2年とする。ただし、教育研究上の必要があると認められる場合には、研究科、専攻または学生の履修上の区分に応じ、その標準修業年限は、2年を超えるものとすることができる。

6 前項の規定にかかわらず、修士課程においては、主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合であって、教育研究上の必要があり、かつ、昼間と併せて夜間その他特定の時間または時期において授業または研究指導を行う等の適切な方法により教育上支障を生じないときは、研究科、専攻または学生の履修上の区分に応じ、標準修業年限を1年以上2年未満の期間とすることができる。

（課程の趣旨）

第3条 一貫制博士課程および博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

2 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うものとする。

3 専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識および卓越した能力を培うものとする。

第2章 教育方法等

（教育方法）

第6条 本大学院の教育は、授業科目および学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行うものとする。

（履修方法等）

第7条 各研究科における授業科目、単位数および研究指導ならびにこれらの履修方法は別表のとおりとする。

※本研究科要項Ⅲの記載のとおりとする。

2 学生の研究指導を担当する教員を指導教員という。

3 本大学院の講義、演習、実習などの授業科目の単位数の計算については、早稲田大学学則（1949年4月1日示達）第12条および第13条の規定を準用する。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 学則(抜粋)

2. 学位規則
(抜粋)

3. 外国人特別研究生に
関する規程(抜粋)

4. 科目等履修生に
関する規程(抜粋)

5. 研究生
に関する規程

6. 校歌

7. キャンパス
マップ

8. 時間割
作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

(他研究科または学部の授業科目の履修)

第8条 当該学術院教授会または研究科運営委員会（以下「研究科運営委員会等」という。）において、教育研究上有益と認めるときは、他の研究科の授業科目または学部の授業科目を履修させ、これを第13条、第13条の2、第13条の3、第13条の4または第14条に規定する単位に充当することができる。

(授業科目の委託)

第9条 当該研究科運営委員会等において教育研究上有益と認めるときは、他大学の大学院（外国の大学の大学院および国際連合大学を含む。）とあらかじめ協議の上、その大学院の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修させた単位は10単位を超えない範囲で、これを第13条に規定する単位に充当することができる。

(研究指導の委託)

第10条 当該研究科運営委員会等において、教育研究上有益と認めるときは、他大学の大学院または研究所（外国の大学の大学院または研究所および国際連合大学を含む。）とあらかじめ協議の上、本大学院の学生にその大学院等において研究指導を受けさせることができる。ただし、修士課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

(単位の認定)

第11条 授業科目を履修した者に対しては、試験その他の方法によって、その合格者に所定の単位を与える。

(試験および成績評価)

第12条 授業科目に関する試験は、当該研究科運営委員会等の定める方法によって、毎学年末、またはその研究科運営委員会等が適当と認める時期に行う。

2 授業科目の成績は、A⁺、A、B、CおよびFの五級に分かち、A⁺、A、BおよびCを合格とし、Fを不合格とする。ただし、研究指導等の成績については、PおよびQの二級に分かち、Pを合格とし、Qを不合格とすることができる。

第3章 課程の修了および学位の授与

(修士課程の修了要件)

第13条 修士課程の修了の要件は、大学院修士課程に2年以上在学し、各研究科の定めるところにより、所要の授業科目について所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り、大学院修士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 前項の場合において、当該修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

3 2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻または学生の履修上の区分にあつては第1項の前段に規定する在学年数については、当該標準修業年限以上在学するものとする。

(博士課程の修了要件)

第14条 博士課程の修了の要件は、博士課程に5年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、各研究科の定めた所定の単位を修得し、所要の研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格することとする。ただし、在学

- 期間に関しては、優れた研究業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り、博士課程に3年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。
- 2 第2条第6項の規定により標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程を修了した者および第13条第1項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了の要件は、博士課程に修士課程における在学期間に3年を加えた期間以上在学し、各研究科の定めた所定の単位を修得し、所要の研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り、博士課程に3年（修士課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、第29条第2号、第3号、第4号および第5号の規定により、博士後期課程への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、博士後期課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は、博士課程に3年以上在学し、各研究科の定めた所定の博士論文提出資格要件を満たし、所要の研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り、博士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
- 5 博士論文を提出しないで退学した者のうち、博士後期課程の場合は3年以上、一貫制博士課程の場合は5年以上在学し、かつ、必要な研究指導を受けた者は、退学した日から起算して3年以内に限り、当該研究科運営委員会等の許可を得て、博士論文を提出し、試験を受けることができる。

（博士学位の授与）

第15条 博士課程を修了した者には、博士の学位を授与する。

（修士学位の授与）

第16条 修士課程を修了した者には、修士の学位を授与する。

（課程によらない者の博士学位の授与）

第17条 博士学位は、第15条の規定にかかわらず、博士論文を提出して、その審査および試験に合格し、かつ、専攻学術に関し博士課程を修了した者と同様に広い学識を有することを確認された者に対しても授与することができる。

（学位規則）

第18条 この学則に定めるもののほか、学位に付記する専攻分野名その他学位に関し必要な事項は、早稲田大学学位規則（1976年教務達第2号）をもって別に定める。

第6章 入学・休学・退学・転学・専攻の変更および懲戒

（入学の時期）

第27条 入学時期は、毎学期の始めとする。

（修士課程、専門職学位課程および一貫制博士課程の入学資格）

第28条 修士課程、専門職学位課程および一貫制博士課程は、次の各号の一に該当し、かつ、別に定める検定に合格した者について、入学を許可する。

- 一 大学を卒業した者
- 二 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- 三 外国において通常の課程による16年の学校教育を修了した者

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付録

1. 学則(抜粋)

2. 学位規則(抜粋)

3. 外国人特別研究生に関する規程(抜粋)

4. 科目等履修生に関する規程(抜粋)

5. 研究生に関する規程

6. 校歌

7. キャンパスマップ

8. 時間割作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

四 文部科学大臣の指定した者

五 大学に3年以上在学し、または外国において学校教育における15年の課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

六 各研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

2 前項の規定にかかわらず、本大学において授与した博士学位を取り消された者は、一貫制博士課程への入学を許可しない。

(博士後期課程の入学資格)

第29条 博士後期課程は、次の各号の一に該当し、かつ、別に定める検定に合格した者について入学を許可する。

一 修士または修士(専門職)もしくは法務博士(専門職)の学位を得た者

二 外国において修士もしくは修士(専門職)の学位またはこれに相当する学位を得た者

三 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を得た者

四 文部科学大臣の指定した者

五 各研究科において、個別の入学資格審査により、修士または修士(専門職)もしくは法務博士(専門職)の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者

2 前項の規定にかかわらず、本大学において授与した博士学位を取り消された者は、入学を許可しない。(入学検定の手続)

第30条 本大学院に入学を志願する者は、大学が定める期日までに、大学に別表1に定める入学検定料を納付し、必要書類を提出しなければならない。

(入学手続)

第31条 入学または転入学を許可された者は、大学が指定する入学手続期間内に、大学に入学金ならびに最初の学期に係る授業料、施設費、教育環境整備費、演習料および実験演習料を納め、所定の書類を提出しなければならない。

(保護者等)

第32条 保護者等(学生が学修研究活動を円滑に遂行していく上で、本大学院と連携し、学生を指導、支援する立場の者をいう。以下同じ。)は、学生が在学中に本大学院の諸規則、指示および遵守事項を守るよう指導し、監督する責任を負う。

2 保護者等として不適当と認めたときは、その変更を命ずることができる。

3 保護者等が死亡し、またはその他の理由でその責務を果たし得ない場合には、新たに保護者等を選定して届け出なければならない。

(在学年数の制限)

第33条 本大学院における在学年数は、修士課程および専門職学位課程にあつては4年、博士後期課程にあつては6年、一貫制博士課程にあつては8年を超えることはできない。

2 前項の規定にかかわらず2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻または学生の履修上の区分における修士課程および専門職学位課程の在学年数にあつては当該標準修業年限の2倍を超えることはできないものとする。

(休学)

第34条 病気その他の理由で引き続き2か月以上出席することができない者は、休学願書にその理由を付

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 外国人特別研究生に関する規程(抜粋)
4. 科目等履修生に関する規程(抜粋)
5. 研究生に関する規程
6. 校歌
7. キャンパスマップ
8. 時間割作成用紙

- し、保護者等と連署で所属する研究科の研究科長に願い出なければならない。
- 2 休学は当該学年限りとする。ただし、特別の事情がある場合には、引続き休学を許可することがある。この場合、休学の期間は通算し修士課程および専門職学位課程においては2年、博士後期課程および一貫制博士課程においては3年を超えることはできない。
 - 3 前項の規定にかかわらず2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻または学生の履修上の区分における修士課程および専門職学位課程の通算年数にあっては当該標準修業年限を超えることはできない。
 - 4 休学者は、学期の始めでなければ復学することができない。
 - 5 休学期間は、在学年数に算入しない。

(任意退学)

第36条 任意に退学しようとする者は、理由を付し、保護者等と連署で願い出なければならない。

(措置退学)

第37条の2 次の各号の一に該当する者については、退学の措置をとるものとする。

- 一 第33条に定める在学年数を満了した者
- 二 指導教員から博士後期課程および一貫制博士課程において研究指導を終了する旨の報告が教授会に對してされた者
- 三 各研究科が定める一の学年から次の学年に進むための要件を満たすべき期間を満了した者
- 四 正当な理由がなく、各研究科が定める出席基準を満たさない者
- 五 学業を怠り、各研究科が定める必要単位数を一定期間に満たさない者

(懲戒)

第38条 学生が、本大学の規約に違反し、または学生の本分に反する行為があったときは懲戒処分に付することがある。

- 2 懲戒は、訓告、停学、退学の3種とする。
- 3 学生の懲戒手続に関する事項は、学生の懲戒手続に関する規程（2012年規約第12-22号の1）をもって別に定める。

(懲戒退学)

第39条 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者は、懲戒による退学処分に付する。

(再入学)

第39条の2 第36条または第37条の2第4号および第5号の規定により退学した者が再入学を志望したときは、別に定める期間内に限り、選考の上これを許可することがある。ただし、退学した日の属する学期の翌学期の始めにおいてこれを許可することはできない。

- 2 第39条の規定により退学した者が再入学を志望したときは、これを許可しない。ただし、退学後別に定める期間を経過し、改悛の情が顕著でありかつ成業の見込みがある場合には、選考の上これを許可することがある。
- 3 再入学を許可された者が退学または学費未納により抹籍となった場合、以後の再入学は認めない。ただし、特別の事情がある場合はこの限りではない。
- 4 第1項から前項までの規定により再入学を許可した場合においては、既修の科目の全部または一部を再び履修させることがある。

I 特徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付録

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 外国人特別研究生に関する規程(抜粋)
4. 科目等履修生に関する規程(抜粋)
5. 研究生に関する規程
6. 校歌
7. キャンパスマップ
8. 時間割作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

(教授会の議)

第39条の3 入学、退学、休学もしくは研究科の変更の許可または懲戒は、各教授会の議を経てこれを行う。
懲戒による退学とすべき事由がある者については、他の事由による退学を認めないものとする。

第7章 入学金・授業料・施設費・教育環境整備費・演習料および実験演習料等

(納入学費の取扱)

第43条 既に納入した授業料およびその他の学費は、事情のいかんにかかわらず返還しない。

(中途退学者の学費)

第44条 学年の途中で退学した者でも、その期の学費を納入しなければならない。

(抹籍)

第45条 学費の納入を怠った者は、抹籍することがある。

第8章 外国学生

(外国学生の入学選考)

第46条 外国において通常の課程による16年の学校教育を修了した者、またはこれに準ずる者は、第28条および第29条の規定にかかわらず、特別の選考を経て入学を許可することができる。

2 前項の規定による選考方法は、研究科長会の議を経て、各研究科運営委員会等が定める。

(外国学生の入学出願書類)

第47条 前条の規定により入学を志願する者は、所定の書類を提出しなければならない。

(外国学生の特別科目)

第48条 第46条および第47条の規定により入学を許可された者については、学修の必要に応じて、一般に配置された科目の一部に代え、またはこれに加えて特別の科目を履修させることができる。

2 前項の規定による特別の科目は、当該研究科運営委員会等が定める。

(外国で修学した日本人の取扱)

第49条 日本人であって、第28条第3号および第29条第2号に該当する者は、本章の規定によって取扱うことができる。

(外国人特別研修生)

第50条 第46条から第48条までの外国学生の規定にかかわらず、外国人であって本大学院において特定課題についての研究指導を受けようとする者があるときは、支障がない限り、外国人特別研修生として入学させることができる。

2 外国人特別研修生の入学手続・学費等については、別に規程をもって定める。

第9章 科目等履修生

(科目等履修生)

第51条 第27条から第29条までの規定によらないで、本大学院において授業科目を履修しようとする者または特定課題についての研究指導を受けようとする者があるときは、科目等履修生として入学させることができる。

(科目等履修生の種類)

第52条 官公庁、外国政府、学校、研究機関、民間団体等の委託に基づく者を委託履修生という。

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 外国人特別研修生に関する規程(抜粋)
4. 科目等履修生に関する規程(抜粋)
5. 研究生に関する規程
6. 校歌
7. キャンパスマップ
8. 時間割作成用紙

2 科目等履修生のうち、特定の目的を果たすために、大学院等の科目群から構成されるプログラムを履修しようとする者を特定プログラム履修生という。

3 前2項に定める履修生以外の者を一般科目等履修生という。

(科目等履修生の選考)

第53条 科目等履修生として入学を志願する者については、正規の学生の修学を妨げない限り、選考の上入学を許可する。

(科目等履修生の履修証明書)

第54条 科目等履修生が履修した科目について試験を受け、合格したときは、単位を授与し、本人の請求によって証明書を交付する。

(正規学生の規定準用)

第56条 科目等履修生については、第3章ならびに第33条および第34条を除き、正規の学生に関する規定を準用する。

第10章 研究生

(研究生)

第57条 本大学院博士後期課程に6年間在学し、博士論文を提出しないで退学した者のうち、引き続き大学院において博士論文作成のため研究指導を受けようとする者があるときは、研究生として入学させることができる。

(研究生の選考)

第58条 研究生として研究指導を受けようとする者については、正規の学生の修学を妨げない限り、選考の上入学を許可する。

(研究生の入学手続、学費および在学期間等)

第59条 研究生の入学手続、学費および在学期間等については別に規程をもって定める。

(正規学生の規定準用)

第60条 研究生については、本章の規定および別に定める規程によるほか、正規の学生に関する規定を準用する。

第11章 交流学生

(交流学生の受託)

第61条 他大学の大学院の学生で、協定に基づき本大学院の授業科目を履修しようとする者または特定課題についての研究指導を受けようとする者を、交流学生として受け入れることができる。

(交流学生の受入手続、学費等)

第62条 交流学生の受入手続および学費等については、当該大学との協定による。

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付録

1. 学則(抜粋)

2. 学位規則(抜粋)

3. 外国人特別研究生に関する規程(抜粋)

4. 科目等履修生に関する規程(抜粋)

5. 研究生に関する規程

6. 校歌

7. キャンパスマップ

8. 時間割作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

2 早稲田大学学位規則（抜粋）

（目 的）

第1条 この規則は、早稲田大学学則（1949年4月1日示達。以下「大学学則」という。）および早稲田大学大学院学則（1976年教務達第1号。以下「大学院学則」という。）に定めるもののほか、早稲田大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

（博士学位授与の要件）

第4条 博士の学位は、大学院学則第14条により博士課程を修了した者に授与する。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位は本大学院の博士課程を経ない者であっても、大学院学則第17条により授与することができる。

（修士学位授与の要件）

第6条 修士の学位は、大学院学則第13条により修士課程を修了した者に授与する。

（課程による者の学位論文の受理）

第7条 本大学院の課程による者が、学位論文の審査を求めるときは、各研究科の定めるところにより、学位論文および論文概要書を研究科長に提出するものとする。

2 研究科長は、前項の学位論文を受理したときは、学位を授与できる者が否かについて研究科運営委員会の審査に付さなければならない。

（課程によらない者の学位の申請）

第8条 第4条第2項の規定により学位の授与を申請する者は、その申請する学位の専攻分野に応じた研究科の定めるところにより、学位申請書（別表1）、博士論文、論文概要書および履歴書を総長に提出しなければならない。

（課程によらない者の学位論文の受理）

第9条 前条の規定による博士論文の提出があったときは、総長は、その論文を審査すべき研究科運営委員会の議を経て、受理するか否かを決定し、受理することに決定した学位論文について審査を付託するものとする。

2 研究科長は、受理の可否および審査のため必要と認めるときは、前条に規定する論文の部数のほか、必要な部数を追加して提出させることができる。

（学位論文）

第10条 博士、修士および専門職学位の学位論文は1篇に限る。ただし、参考として、他の論文を添付することができる。

2 前項により、一旦受理した学位論文等は返還しない。

3 審査のため必要があるときには、学位論文の副本、訳文、模型または標本等の資料を提出させることがある。

（審査料）

第11条 第9条の規定により、学位論文を受理したときは、学位の申請者にその旨を通知し、別に定める審査料を納付させなければならない。ただし、一旦納付した審査料は返還しない。

（審査員）

第12条 研究科運営委員会は、第7条第2項の規定により、学位論文が審査に付されたとき、または第8条および第9条の規定により、学位の審査を付託されたときは、当該研究科の教員のうちから、3人以上の審査員を選任し、学位論文の審査および試験または学識の確認を委託しなければならない。

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 外国人特別研究生に関する規程(抜粋)
4. 科目等履修生に関する規程(抜粋)
5. 研究生に関する規程
6. 校歌
7. キャンパスマップ
8. 時間割作成用紙

- 2 研究科運営委員会が必要と認めたときは、前項の規定にかかわらず本大学の教員または教員であった者を、学位論文の審査および試験または学識の確認の審査員に委嘱することができる。
- 3 研究科運営委員会が必要と認めたときは、第1項の規定にかかわらず他の大学院または研究所等の教員等に学位論文の審査員を委嘱することができる。
- 4 研究科運営委員会は、第1項の審査員のうち1人を主任審査員として指名しなければならない。ただし、研究科運営委員会が必要と認めたときは、第2項の審査員のうち、本大学の専任教員である者または協定等に基づいて嘱任した客員教員を主任審査員として指名することができる。

(審査期間)

第13条 修士学位および専門職学位の授与にかかわる論文の審査および試験は、論文提出後3か月以内に、また博士学位の授与にかかわる論文の審査、試験および学識の確認は、論文の提出または学位の授与の申請を受理した後、1年以内に終了しなければならない。ただし、特別の理由があるときは、研究科運営委員会の議を経てその期間を延長することができる。

(面接試験)

第14条 第8条の規定により学位の授与を申請した者については、博士論文の審査のほか、面接試験を行う。この試験の方法は研究科運営委員会において定める。

- 2 前項の規定にかかわらず、研究科運営委員会が特別の理由があると認めたときは、面接試験を行わないことができる。

(試験)

第15条 大学院学則第14条による試験の方法は、研究科運営委員会において定める。

(学識確認の方法)

第16条 大学院学則第17条による学識の確認は、博士論文に関連ある専攻分野の科目および外国語についての試問の方法によって行うものとする。

- 2 前項の規定にかかわらず研究科運営委員会が特別の理由があると認めた場合は、学識の確認のための試問の一部または全部を免除することができる。

(審査結果の報告)

第17条 博士の学位に関する審査が終了したときは、審査員は速やかに審査の結果および評価に関する意見を記載した審査報告書を研究科運営委員会に提出しなければならない。

(学位論文の判定)

第18条 前条の審査の報告に基づき、研究科運営委員会は無記名投票により、合格、不合格を決定する。ただし、特別の場合には、他の方法によることができるものとし、その方法については、研究科長会の承認を得なければならない。

- 2 前項の判定を行う研究科運営委員会には、当該研究科運営委員の3分の2以上の出席を要し、合格の判定については、出席した委員の3分の2以上の賛成がなければならない。この場合の定足数の算定に当たっては、外国出張中の者、休職中の者、病気その他の事由により、引き続き2か月以上欠勤中の者、および所属長の許可を得て出張中の者は、当該研究科運営委員の数に算入しない。
- 3 前項の規定にかかわらず、研究科運営委員会が必要と認めたときは、当該研究科運営委員以外の第12条に規定する審査員を学位論文判定の審議に加えることができるものとする。
- 4 研究科運営委員会が第1項の合否を決定したときは、研究科長はこれを総長に報告しなければならない。

I	特徴
II	沿革と概要
III	研究科要項
IV	学生生活
V	付録

1.	学則(抜粋)
2.	学位規則(抜粋)
3.	外国人特別研究生に関する規程(抜粋)
4.	科目専修生に関する規程(抜粋)
5.	研究生に関する規程
6.	校歌
7.	キャンパスマップ
8.	時間割作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

(学位の授与)

第19条 総長は、前条第4項の規定による報告に基づいて学位を授与し、学位記を交付する。

2 学位を授与できない者には、その旨を通知する。

(論文審査要旨の公表)

第20条 博士の学位を授与したときは、その論文の審査要旨は、インターネットの利用によってこれを公表する。

(学位論文の公表)

第21条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士論文の全文を、公表しなければならない。ただし、当該博士の学位を授与される前に、公表されているときは、この限りではない。

2 前項の規定にかかわらず博士の学位を授与された者は、やむを得ない理由がある場合には、研究科運営委員会の承認を受けて、当該博士論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合において、大学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 前2項に規定する博士の学位を授与された者が行う公表は、インターネットの利用によって行うものとし、第1項の規定により、公表する場合は、当該論文に「早稲田大学審査学位論文（博士）」と、また前項の規定により公表する場合は、当該論文の要旨に、「早稲田大学審査学位論文（博士）の要旨」と明記しなければならない。

(学位の名称)

第22条 本大学の授与する学位には、早稲田大学と付記するものとする。

(学位授与の取消)

第23条 本大学において博士、修士または専門職学位を授与された者につき、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、総長は、当該研究科運営委員会および研究科長会の議を経て、既に授与した学位を取り消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

2 研究科運営委員会において前項の議決を行う場合は、第18条第2項の規定を準用する。

3 第1項において博士学位を取り消された者は、再び博士学位の授与を申請することはできない。

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 外国人特別研究生に関する規程(抜粋)
4. 科目等履修生に関する規程(抜粋)
5. 研究生に関する規程
6. 校歌
7. キャンパスマップ
8. 時間割作成用紙

3 大学院外国人特別研修生に関する規程（抜粋）

（根拠および目的）

第1条 この規程は、早稲田大学大学院学則（1976年教務達第1号。以下「学則」という。）第50条（外国人特別研修生）の規定に基づき、外国人特別研修生（以下「特別研修生」という。）の取り扱いについて定める。

2 特別研修生については、この規程によるほか、正規学生に関する学則の規定を準用する。

（受入資格）

第2条 特別研修生として入学することのできる者は、外国の大学において、修士課程修了者またはこれと同等以上の学力を有し、科目等履修生として受け入れることが適当でないと認められる者に限る。

（入学時期）

第3条 特別研修生の入学時期は、学期の始めとする。ただし、事情により学期の中途においても、入学を許可することができる。

（出願手続）

第4条 特別研修生として入学を志願する者は、必要書類に選考料を添えて、当該研究科長に願い出なければならない。

2 選考料は、科目等履修生として入学を志願する者の額と同額とする。

（科目の履修）

第5条 指導教員が必要と認めた場合は、特別研修生に本大学院または学部配置されている授業科目の一部を履修させることができる。

（在学期間）

第6条 特別研修生の在学期間は、特定課題の研究指導期間とする。

2 引き続き特別研修生として入学を志願する場合には、改めて願い出なければならない。

（証明書）

第7条 特別研修生が研究報告書を提出したときは、当該研究科は適当と認めた者に対して証明書を発行することができる。

（入学手続）

第8条 特別研修生として入学を許可された者は、所定の学費等を納入して、学生証の交付を受けなければならない。

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付録

1. 学則(抜粋)

2. 学位規則
(抜粋)

3. 外国人特別研修生に
関する規程(抜粋)

4. 科目等履修生に
関する規程(抜粋)

5. 研究生
に関する規程

6. 校歌

7. キャンパス
マップ

8. 時間割
作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

4 大学院科目等履修生に関する規程（抜粋）

（根拠および目的）

第1条 この規程は、早稲田大学大学院学則（1976年教務達第1号）第55条の規定に基づき、大学院科目等履修生の入学手続、学籍等の取扱いについて定める。

（入学時期）

第2条 科目等履修生の入学時期は、学期の始めとする。ただし、授業科目により特別な在籍期間が定められている場合は、学期の中途においても、入学を許可することができる。

（履修単位）

第3条 科目等履修生が聴講できる授業科目の制限単位は、28単位とする。ただし、各学期に科目等履修生が聴講できる授業科目の制限単位は、14単位とする。

（出願手続）

第4条 科目等履修生として入学を志願する者は、所定の願書に、履歴書、最近撮影の写真および選考料2万5千円を添えて、当該研究科長に願い出なければならない。ただし、委託履修生は、このほかに、官公庁、外国政府、学校、研究機関、民間団体等の委託書を添付しなければならない。

（在籍期間）

第5条 一般科目等履修生の在籍期間は、入学した年度の3月15日までとする。ただし、春学期のみ科目を履修する場合の在籍期間は9月15日までとする。

第5条の4 第5条の規定にかかわらず、9月21日以降に入学した一般科目等履修生のうち、当該年度末までに翌年度も引き続き同一研究科の一般科目等履修生として入学を許可された者は、翌年度9月15日まで在籍することができる。

（入学手続）

第6条 科目等履修生として入学を許可された者は、次の区分による所定の学費を納入して、学生証の交付を受けるものとする。

- 一 授業科目のみの場合 聴講料
- 二 研究指導のみの場合 研究指導料
- 三 授業科目および研究指導の場合 聴講料および研究指導料
- 四 特定プログラムの場合 聴講料（プログラム単位）

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 外国人特別研究生に関する規程(抜粋)
4. 科目等履修生に関する規程(抜粋)
5. 研究生に関する規程
6. 校歌
7. キャンパスマップ
8. 時間割作成用紙

5 大学院研究生に関する規程

(根拠および目的)

第1条 この規程は、早稲田大学大学院学則（1976年教務達第1号）第59条（研究生の入学手続、学費および在学期間等）の規定に基づき、研究生の取り扱いについて定める。

(出願手続)

第2条 研究生として入学を志願する者は、所定の願書により、当該研究科長に願い出なければならない。

(入学時期)

第2条の2 研究生の入学時期は、学期の始めとする。

(入学手続)

第3条 研究生として入学を許可された者は、入学後の最初の学期に係る研究指導料、演習料および実験演習料を納入し、学生証の交付を受けなければならない。

(研究指導料等の額)

第3条の2 研究指導料、演習料および実験演習料の額は、次のとおりとする。

- 一 研究指導料 当該研究生が入学した研究科において博士後期課程3年生または一貫制博士課程5年生が支払うべき授業料の半額
- 二 演習料および実験演習料 当該研究生が入学した研究科において博士後期課程3年生または一貫制博士課程5年生が支払うべき演習料および実験演習料の額

(研究指導料等の納入期日)

第3条の3 研究生は、次の各号に掲げる学期（入学後の最初の学期を除く。）に係る研究指導料、演習料および実験演習料を当該各号に掲げる日までに大学に納めなければならない。

- 一 春学期 4月15日
- 二 秋学期 10月1日

(在学期間)

第4条 研究生の在学期間は、1年を上限とし、研究指導が必要な期間とする。ただし、研究指導を継続して受けようとするときは、原則として2回に限り延長することができる。

2 在学期間の延長を希望する者は、在学期間が終了するまでに、理由を付して、当該研究科長に願い出なければならない。

3 在学期間の延長の許可は、当該研究科運営委員会の議を経て、研究科長が行う。

(学友会費、学会費等)

第5条 研究生に対し、学友会費、学会費等を正規の学生に準じて徴収することができる。

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付録

1. 学則(抜粋)

2. 学位規則
(抜粋)

3. 外国人特別研究生に
関する規程(抜粋)

4. 科目専修生に
関する規程(抜粋)

5. 研究生
に関する規程

6. 校歌

7. キャンパス
マップ

8. 時間割
作成用紙

6 校歌

早稲田大学校歌

相馬 御風 作詞
東儀 鉄笛 作曲

Moderato

1 み や こ の せ い ほ く わ せ だ の も り に そ
2 と う ぎ い こ ん の ぶ ン か の う し お ひ
3 あ れ み よ か し こ の と き わ の も り は こ

mf

び ゆ る い ら か は わ れ ら が ば こ う わ れ い
と つ に う か ま く だ い と う こ う あ つ
ろ の ふ る き と わ れ ら が ば こ う あ つ

f

ら が り ひ ご ろ の ほ う ふ を し る や し ん
な ま り き ん じ を に な い は か わ れ ど わ あ お

p dolce

し ゅ の せ い し て ん が く の ど り く り つ げ ん
が が は お な じ は き り そ ま り し か り や い
ぐ は お な じ は き り そ ま り し か り や い

ff

せ を わ す れ ん ぬ く お の り せ う か が
て も く お ん の て そ う も と ど り げ ほ あ ま
こ え そ ろ え て そ ら も と ど り げ ほ あ ま

f

や く わ れ ら が に ゆ く て を み よ や ん
ね ら が ぼ ん か の かな が お ば き た か え ん } わ せ

p ff

だ わ せ だ わ せ だ わ せ だ わ せ だ わ せ だ わ せ だ

一、都の西北早稲田の森に
聳ゆる薨はわれらが母校
われらが日ごろの抱負を知るや
進取の精神学の独立
現世を忘れぬ久遠の理想
かがやくわれらが行手を見よや
わせたわせたわせたわせた
わせたわせたわせた

二、東西古今の文化のうしほ
一つに渦巻く大島国の
大なる使命を担ひて立てる
われらが行手は窮り知らず
やがても久遠の理想の影は
あまねく天下に輝き布かん
わせたわせたわせたわせた
わせたわせたわせた

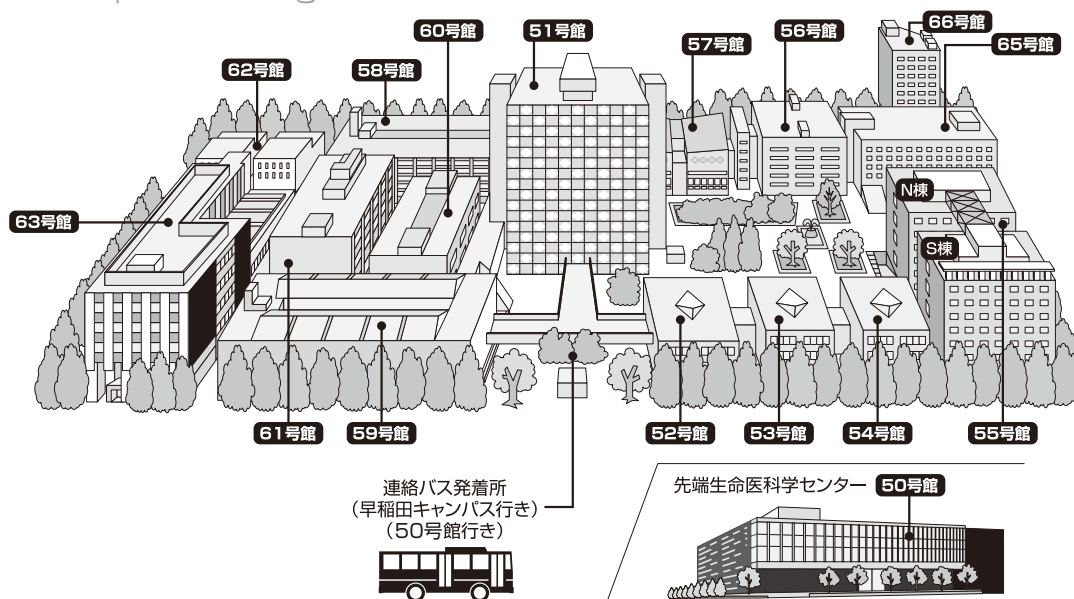
三、あれ見よかしこの常盤の森は
心のふるさとわれらが母校
集まり散じて人は変れど
仰ぐは同じき理想の光
いざ声そろへて空もとどろに
われらが母校の名をばたへん
わせたわせたわせたわせた
わせたわせたわせた

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

7 キャンパスマップ

西早稲田キャンパス建物配置図

Campus Building



理工メディアセンター
ヘルプデスク
63号館3階

コンピュータールームA~G
PC454台
63号館3階

ロームスクエア
(63号館カフェテリア)
63号館1階

理工学基礎実験室
(工学系)
63号館地下1階

デジタルアトリエ
Mac30台・Win5台
61号館3階

WASEDA
ものづくり工房
61号館1階

就職情報室
61号館1階

製図・CAD室
PC220台
57号館1階

生協購買部, 書籍部
57号館地下1階

理工学基礎実験室
(化学系・生命科学系)
56号館

理工学基礎実験室
(物理系)
56号館2階

理工カフェテリア
56号館地下1階

理工学生読書室
52号館地下1階

学生ラウンジ
51号館2階

理工学術院統合事務所
51号館1階

保健センター
西早稲田分室・
学生相談室
51号館1階

理工学図書館
51号館地下1階

学科・専攻別連絡事務室一覧

基幹理工	創造理工	先進理工
数学科 数学応用数理専攻 63号館1階01	建築学科 建築学専攻 55号館N棟2階03	物理学科 応用物理学科 物理学及応用物理学専攻 55号館N棟2階03
応用数理学科 数学応用数理専攻 63号館1階01	総合機械工学科 総合機械工学専攻 60号館2階08	化学・生命化学科 化学・生命化学専攻 55号館N棟2階03
機械科学・航空宇宙学科 機械科学・航空宇宙専攻 60号館2階08	経営システム工学科 経営システム工学専攻 51号館13階	応用化学科 応用化学専攻 55号館N棟2階03
電子物理システム学科 電子物理システム学専攻 63号館1階01	経営デザイン専攻 51号館9階03B	生命医科学科 生命医学専攻 50号館3階 先端生命医科学センター事務所内 〒162-8480 新宿区若松町2番2号
情報理工学科 情報理工・情報通信専攻 63号館1階01	社会環境工学科 建設工学専攻 51号館2階07	電気・情報生命工学科 電気・情報生命専攻 55号館N棟2階03
情報通信学科 情報理工・情報通信専攻 63号館1階01	環境資源工学科 地球・環境資源理工学専攻 51号館13階	生命理工学専攻 50号館3階 先端生命医科学センター事務所内
表現工学科 表現工学専攻 63号館1階01	社会文化領域 51号館2階07	ナノ理工学専攻 63号館1階01
材料科学専攻 63号館1階01		共同先端生命医科学専攻 50号館3階 先端生命医科学センター事務所内
	英語教育センター 51号館2階07	共同先進健康科学専攻 50号館3階 先端生命医科学センター事務所内
	学科 国際教育センター 51号館2階07	共同原子力専攻 63号館1階01
		先進理工学専攻 51号館1階 理工学術院統合事務所内

I	特徴
II	沿革と概要
III	研究科要項
IV	学生生活
V	付録

1.	学則(抜粋)
2.	学位規則(抜粋)
3.	外国人特別研究生に関する規程(抜粋)
4.	科目等履修生に関する規程(抜粋)
5.	研究生に関する規程
6.	校歌
7.	キャンパスマップ
8.	時間割作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

8 時間割作成用紙

【1年生】

	月 曜		火 曜		水 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 外国人特別研究生に関する規程(抜粋)
4. 科目等履修生に関する規程(抜粋)
5. 研究生に関する規程
6. 校歌
7. キャンパスマップ
8. 時間割作成用紙

【2年生】

	月 曜		火 曜		水 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

【1年生】

	木 曜		金 曜		土 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1 限						
2 限						
3 限						
4 限						
5 限						
6 限						
7 限						

【2年生】

	木 曜		金 曜		土 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1 限						
2 限						
3 限						
4 限						
5 限						
6 限						
7 限						

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則 (抜粋)
3. 外国人特別研究生に 関する規程(抜粋)
4. 科目等履修生に 関する規程(抜粋)
5. 研究生 に関する規程
6. 校歌
7. キャンパス マップ
8. 時間割 作成用紙

The map illustrates the Tokai University campus and its connectivity. Key locations include:

- Transportation Hubs:** JR Tokai Line (JR東海道線), JR Shizuoka Line (JR静岡線), JR Central Line (JR中央線), and JR Yamanote Line (JR山手線).
- Campus Buildings:** Main Campus (本学キャンパス), Faculty of Engineering (工学部), Faculty of Business Administration (経営学部), Faculty of Education (教育学部), Faculty of Science (理学部), Faculty of Medicine (医学部), Faculty of Law (法学部), Faculty of Letters (文学部), Faculty of Agriculture (農学部), Faculty of Veterinary Medicine (獣医学部), Faculty of Dentistry (歯学部), Faculty of Pharmacy (薬学部), Faculty of Nursing (看護学部), Faculty of Health Sciences (健康科学部), Faculty of Social Sciences (社会科学部), Faculty of Arts (芸術学部), Faculty of Music (音楽学部), Faculty of Design (デザイン学部), Faculty of Architecture (建築学部), Faculty of Environmental Studies (環境学部), Faculty of International Studies (国際学部), Faculty of Information Science (情報科学部), Faculty of Computer Science (情報理工学部), Faculty of Applied Science (応用科学部), Faculty of Engineering (工学部), Faculty of Business Administration (経営学部), Faculty of Education (教育学部), Faculty of Science (理学部), Faculty of Medicine (医学部), Faculty of Law (法学部), Faculty of Letters (文学部), Faculty of Agriculture (農学部), Faculty of Veterinary Medicine (獣医学部), Faculty of Dentistry (歯学部), Faculty of Pharmacy (薬学部), Faculty of Nursing (看護学部), Faculty of Health Sciences (健康科学部), Faculty of Social Sciences (社会科学部), Faculty of Arts (芸術学部), Faculty of Music (音楽学部), Faculty of Design (デザイン学部), Faculty of Architecture (建築学部), Faculty of Environmental Studies (環境学部), Faculty of International Studies (国際学部), Faculty of Information Science (情報科学部), Faculty of Computer Science (情報理工学部), Faculty of Applied Science (応用科学部).
- Other Landmarks:** Tokai University Hospital (東海大学病院), Tokai University Sports Center (東海大学体育センター), Tokai University Library (東海大学図書館), Tokai University Main Building (東海大学本館).

[illegible]

JR(山手線)	高田馬場駅 戸山口下車	徒歩12分
JR(山手線)	新大久保駅 下車	徒歩12分
東京メトロ東西線	高田馬場駅 下車	徒歩12分
東京メトロ副都心線	西早稲田駅 下車	徒歩 0分
西武新宿線	高田馬場駅 下車	徒歩12分
都バス	早大理工前停留所 下車	徒歩1分
	高田馬場駅(高71)九段下行き 池袋駅東口(池86)渋谷駅行き 新宿駅西口(早77)早稲田行き	

都営大江戸線	牛込柳町より	徒歩6分
	若松河田駅より	徒歩8分
都営新宿駅	曙橋駅より	徒歩10分



早稲田大学大学院 創造理工学研究科

〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1

<https://www.waseda.jp/fsci/>